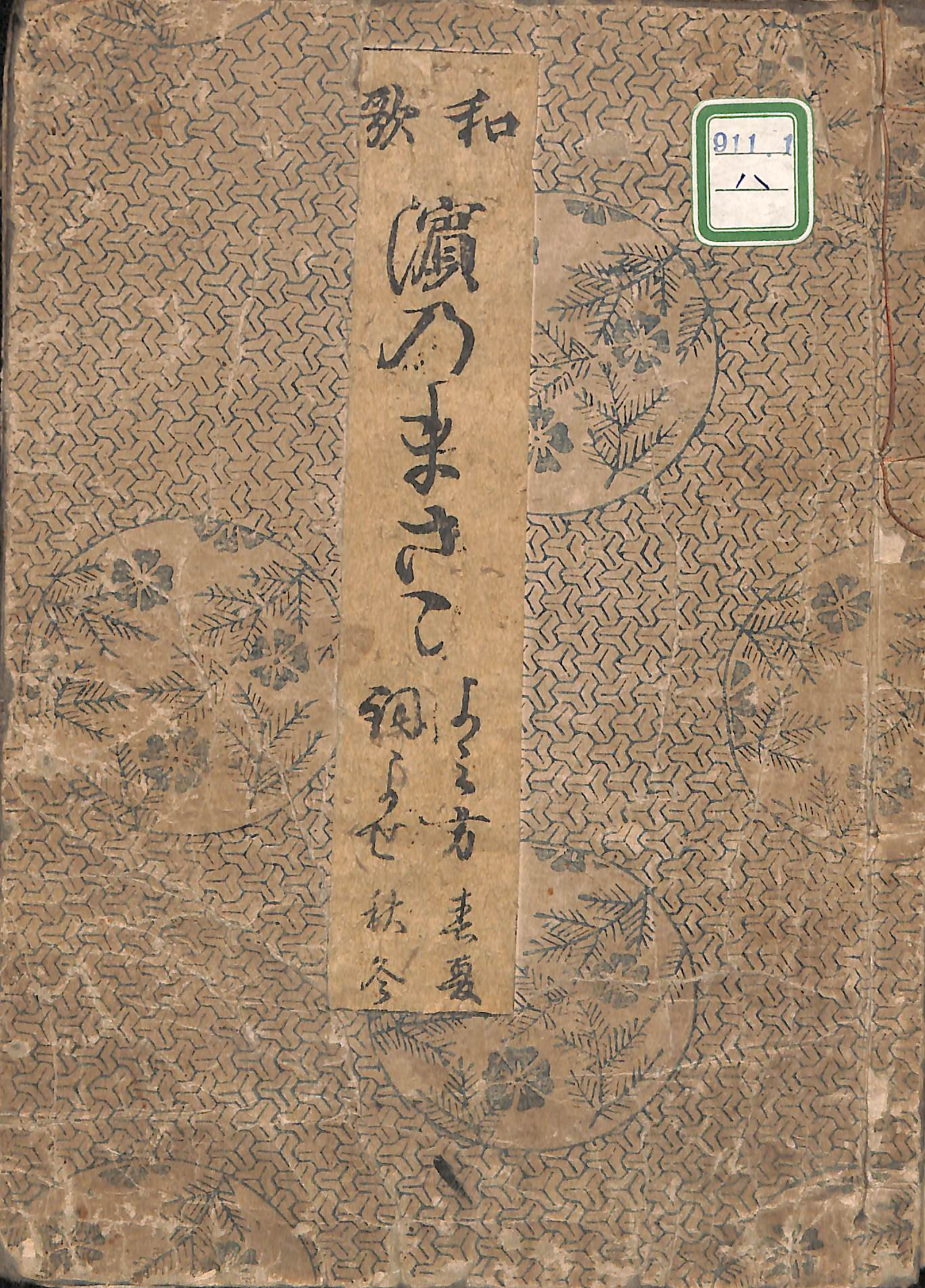


和歌
濱のまさご

よみ方　春夏
詞よせ　秋冬

一

911.1
八

浪の[illegible]目録

立花　若葉　若草　呼子鳥　野遊　菖蒲　粧吉

初瀬　初雪　[illegible]　春駒　通錦　錦　山吹

[illegible]　綿摩　春[illegible]　錦子　通日　錦代　千代

[illegible]

[illegible]

浜のまさこ春目録

立春
若菜
若草
呼子鳥
野遊
菫菜
杜若

初春
残雪
早蕨
春駒
遊絲
蛙
山吹

霞
餘寒
春曙
雛子
遅日
苗代
藤花

鶯
梅
春月
帰雁
三月三日
東風
暮春

子日
柳
春雨
花
桃花雨水
躑躅
三月尽

濱乃まさご　巻七

七夕　和歌不和歌あるみ喜撰式ニ出

●同九三喜ハ年乃同み君の喜以五三日又八七月八日にまもはりそ

さしより渡されし七夕青年も元日に喜と川やぐ渡るもさし

●淺稀・あらかね乃喜ハ喜のてとまでかせうの喜いやう川渡られ

延喜ハ川乃あまの年の渡りとさのふとのかふとて喜す渡らふむ

●喜ハあめ川かりくてと渡りな川あハひかしたれハし

雲遊雲も今秋をとけ喜な川やよわくる喜のひかりれ

雲井よりさ川とも渡り

新勅　天のとのあくるかしかも喜川のすて雲井より社喜ハ立られ

●喜喜の喜すハ天喜気と彼まで喜ハ入て独まうかたしてても渡ら喜ん

渡よ立る渡

天乃景氣とよむ事ハ・天のけしきも今朝よりハ春乃色とそ見へてのどかなれ・山も川もけさ春乃色にかへてかすむと詠へし・こゝろふかきぞ雲けさきくしも今朝ハ昨日のどかなる心に向より心うきさ川・こゝろある比も春くる空ハあはれのどけさ思へしやどとハいはれんやうあるべし

月ハ・今朝よりハなをかすみなれ・夕日影よりもとく霞む・うらゝ松の雪も今朝よりハ春乃日影さして袖に・朝日影さし匂ふよりハへのんきものどかなれ・いてそむる春の日影もやゝさして日の光とやめぐらん・うらゝの春川さへ浪ひかわと影なびく

風ハ・あさこち吹て氷をとく風ものどかに吹・春さ川の世ましの氷もけさとけてむすぼれし朝の松風も今朝ハとしくれさ

雲ハ・春乃霞こもりし白雲も今朝よりも乃付くころそふ・あゆかしく雲けふも春の空も春とそかすむ

雪ハ・春たちてまだ降雪ハ去年乃名残かや・花の白雪ともさして今朝ハやぶうぐひすともあるなり・又春をさしてハ雪なかへりともいふ梅がえにふる白雪もまた花と見て今朝ハ時文字よろし

雨ハ・春乃川に降雨ハ色乃うるほひ春にしまや・冬がれし枝も春くるも萌へでて花をむすぶ

霞ハ・うすものゝ衣春さめと詠めかすミそむる・たなびくらうもとハさほひ乃春のよそほひの衣かや

氷ハ・山川のながれとまりてそむる・池のみぎハも春風にとけそめて波乃あやなすも・みすまもわけゆくの氷も今朝ハ春してながれくる

嵐ハ・花よりさきにひく梅が香もいかにしらむとて袖に・くる春風かしの山嵐てあらいくふく入川・鳥乃声にもくる春をや若葉さらん・こゝが軍も今やさそいて春とむつべん

雲ハ・峰わくとハ夏なり・秋もしくれ朝日夕日にかゝる（朝日の光 夕日の影）

天のとも宿くるよし雲さ川

海ハ・浜乃浦とも書きしと朝霧乃かゝりのとをおふ

山ハ・朝日夕日に生の山にむかひていはとやもなとゝふ・こがらのお

のへ乃松に風おとすりてうらしこ・さゝら・谷の水もとけそむる

浦ハ・かき川も世わく塩浪も書川かる八十浦をく書さ川・おき川

なつと風のどうふ小川ふ舟もうきもときむる

川ハ・山川のながれて水乃白浪書にさ流る・氷乃ひもよく[illegible]

川ら波と祝む。こと[illegible]

池ハ・こほりと流る書風に沢乃名もおとくる（沢の名ハ池の鏡とも云）・お日[illegible]

みぎはにも氷とけそむる

氷ハ・冬とも書る乃水もとけ〳〵て・書川かふハ下とも[illegible]

うぐひすともひて鐘ふ世とこゝふく

沼ハ・水の寄河書ハいつくも書乃書ぬ乃むかしとふて書ゆるふ

都人かゝる袖もえふひとろくさきそゆられる

庭泉ハ・くる書ハさやものふてなられハ山居の手ねの

うちものどうなする源氏物語の語あつき　年くらいの春しられそ

ちのすりとも誤かなくかりねうしうおもさるハ松なりね

きよねの間に泉石乃くさやかやよいろ川とそあいハ川しかと

ゆるむどの川ともよそとのおもおちよりとの川うへのんきの

ひるふぞうゆるとしよりてむとくるいさ花ハ庭ますりくたる

え泉水かしこき湖の宿ゆるくの見りとうふ梅ねひとぞ

むかでの峯とうはづくろんとき　ありやうの消かなとしるべし

林ハ・やどゝふ狂歌そて川さ門松にも年乃をとゆる・冬がれ

しる木乃このみもえきハや庭にゆる・冬がれ乃庭の梢も

わふ書風にをなびきそむる・雲乃間より咲きそめしかとこねの桜

もろこしにも又名あるなり。そこそこにとかく鹿あるは梅乃中よ
梅乃枝は春と云せて乃何月なり。梅乃枝まで折にしも枝とけしよき
日影さしとく枝より花とろふ。谷の鶯の都ぞの梅乃かとる
川瀬。谷やなれこむ

華は。霞まれわしくる桜も今都よりハ卯めくしもん。又のさね
乃雪もいは川しら浪てありてつらくさのかぶりこつからりしそひ
さよしども語り（きつらふ）

鳥は。りくつ乃鳥も都ならやうる春と川ぐる。谷の雪に川の
ある中作るもとりて今都よりや春と川ぐる。又鶯乃いきぶ哉
りねんとよ、語り

色は。春くらしも年乃とびまさくりおもひつるせねとよといふ
。心よの春りかぬえかめぐるとあふぐ。やし海のかも流まりて
いまのとてあてもおくりしき春ともうくて秋ひとつのしむ　ちく

の春ならぬ松竹乃とどりも言はるよりちるぬ乃かおへよらと
す乃都の川ゐなどもあるべし

名所まてよ海べと云ゝ。吉野乃とよのの山も春とゐとぬるの
どちらはりもしと語る（春風）都よりぞくる。春の宵の都よりあらわくに
て雲のこなたにも入る川。見も都その名も都ならず（春くるるぞ）・ゆくて　えね
・都のかすみも今都よりハ春のあけりけりとさこ行くれも枝（さそひ年見）やり
・春のくれ行くかれどよりのハむ乃流とて鹿まつ川やうら
・そしもん。天のくるはまにま乃さとき絵うらりもこに　枝（さのい）ほ
も名のいいは川さ（天のくるも都雅と也紗り）・春のくれきにとくヽ十乃うせの
松も・おりむてむ（さる花春のかなれり）の枝　甚おか点春いい河くいつれのゑ
流りまでも都（向くい）乃わさるる出てる世て甚えん流まえんゐあさ
納とらしあて涼くならと恭の大もほとき　伴

初春 并 早春

• 初春早春ハ春の入月の三五日までを謂し 孟春ハ春の月日
よりいさゝかにて立春ハ初春早春のごとく謂しかたまふ
べからず 殊に初春早春よハ立春乃心をよみこみてもかなふまじこれか
立春までよめる心 初ハいづれも初春早春までよむかよしといふべし
• 初春にハ立春乃心を詠ずべきことにや
後撰 かへるらん天の岩戸の明ぬれハおほくれわかぬけふの春霞なれ
拾遺 天のとの明るけしきハ春霞たちもとむらむとし
• 春立りて三五日の名をいはゞ詠るへしとさりとハ
後撰 さほひめの衣春かせなほさえてのとの袖に雪ぞふる
古今 よしのゝ山ハ雲かすみて今日見れハ天つ入かしも春の風
ゆきといつれも春乃をしめうつらさの景気し
• 初羽ハ立春までてりくむへし

霞

和歌不知夜のつまに初学和歌式に出

霞ハ立春のあしたとかけてふかひかすみの春一春の
景物よハいづれにも従そてくり

詞

• うすがすみ　• 初春又ハ暮春まへしとい
つまても霞気よるてかひてかむこみや
• あさかすみ　• 八重かすみ 春のかすみ もえかすみ
• うすかすみ 初春のかすみ
霞ハいかしもうすく流れる霞ハ来るやをかすみ
• かすみにたゝりれるかハうんもやうのいさかいわか
新古 春といふハかりもこふかれのかきの方にて彼岸まてし
• かすみふかくしかすみこふかるしうらみし
続集 はなるいさ霞ゆへしありよいさのかうら

・うちわバ云てしかもしへわと云て二つもあくらしとん梅し
新古 ふりしくうちもわハ云しうきのハさうて山がくれしとの
・みちよかうもとこのちのかかさかりしとも
拍玉 関路るかもとこのなともろみとへ、八十路の五月雨の
・られなれ杵 詩云霞色隣後赦於赤城 依〱の霞ハ字
こ海のに又夕の霞、これおがれ山もあかの内日仲有のさう
ろよひかりしたまへていこともの名とし
拾玉 おぼろかもとこの袖もなかれたる春の夜のつれなき
・霞のころかもとこのかすさいふ河門なしうよ世渡へし
石清水歌合 村雨やさて八柳の緑こそり霞のころかのもとはありきり
・霞の衣捨姫の衣云てなところもふかさてもいつ
・さなかくかてしかたうよ渡つさへ ・ころもかて風とよ世を経
・霞 かすみへし春ふかくかもとことめてゆめんよし

・霞のおく・うの花とかすとハよみさうもとのこし
・いかり・引・くもるたもとハなみへてよむべく
月紙にあはせてよむにハ 歌にも晩霞映暮日 ・のどかなるとも ・新古
かけるもとこのなかる・うとこの中は新よまず ・うとこ風そ
こゝに新述さ
月 三六 ・うもこゝふくりの月 ・月のゆくやね うらゝなゝれてゆ
暁霞 二六 ・ありはあけの月入りかげに京をおもへし ・うつき
みのかのはるかぜ ・春のくめ明るくよくかとも
朝霞 三六 ・あけがたの夕さへかしらとめる ・かの門てある
かもとこのこる ・あさの玉城かのかとへあかし ・日ぬら川辺
新がなき ・袖ふりとい川みち鳥の袖もかとも
夕霞 三六 ・入日に新かとも ・かもこのおくはかはぬく ・みかのや
袖ぶつとよぶよ ・山のかもうもとこふきゆき ・夕月の袖おもとひ

夜霞ハ　・月はたなびく　・星の林もかくし（月の影とかや）
山霞ハ　・たなびく山もみえざりき　・嶺のかすみにむせぶ
・山のはのあかぬとき見えず　・遠き峰よりなりしとうちそむ
・この頃はかすみてみえぬ遠かなた　・山ふかき谷のもとより立
（かすみは山のはのかなたをまゐらせとてこそ見えけれ）　・〻・と川さ山人・しぐれの
山里・峰の雲とさへいふ　・雲なかりしとも　・里人
こゝろまどはす　・とをくとりみひく　・峰つくさしむ
野霞ハ　・こゝのかどかれもしふこりけ　・空も山あらし雪ふる
のへのどかなりしむ　・みちのへほとりしむ　・ひとり　・そで
袖のあきとも添をみし名残のまて霞かくる人のむさしのに
おもひきたていとくかすみもしほね　・思ひ入りくのゆくも
うちそひ　・ちかのとをさて見えてむかしとも浮べし
関霞ハ　・雲のとハ関路しもとて　・雲路ゆくる旅人もしま

ふかむ名にはあてゝ浦よりあまさの雲の根ひく　・あま
しあふ影の関なりとも浦べし
路霞ハ　・みちとをくはるかなる　・しの中ゆきたる人の袖を
ゆか　・霞の下ゆくよびらる名残まではさひ人の行きらし
ひ　・行きからそくわしむ　・わすれそふむらしむ　・そで
うちむすらしめるなりとあるべし
・海霞ハ　・かよひ路しらき波　・浦に在家とまりね　・浜分
よるへ浦霞の中ほそき　・海人のつさつ天気をとむ　・浪や
くらふかるこまね　・沖舟よしこぎよ　・波風も立ずさす
とむ　・よる浪のとよもしむ　・磯のゝ浪ひもてしまね　・海
人のもしほやくけぶりとも　・しの中まがふる　・しの中にあ
ひきそむ　・浦の名をふかのしむ名には難波の蘆のこゝろを
よし川　・もとよりの浦の松が枝にまそあかうらの夢もしゆく

（住吉あたら浦をも合さり）・す川浦やとこよの海人の汐くむ袖もかすむ
・うらぐみのこしまの松にしらなみもく ・汀おぼろしらく
かすむ ・志賀の浦乃けふりもしらず ・ましきさ川の浦
とも添べし

湖霞ハ ・朝日うつにほてる沖もしら川 ・さゞ浪乃花の楫
もとしやうね ・汀のねざしきえてしむ（湖水ハまぶろを汀の流し）
・あさ川やまねもしふかみ ・春のよの朧月ゆ海もかすむ
（明石の浦ハ近江に湖水の名あり）・志賀の浦は波もろ舟も霞の沖よりこぎまよふ（沖よりもまうろ）
真野近江の湖水乃名ぞありそくしいうれそもより
し 又佐渡の海ハの海賊舟 船を乃浦とも添べし

川霞ハ ・うきとゝなかぐし ・うきとゝ川しよむ
・しふむそぶ（むせぶとハ川水の音乃声よむせぶ うきとゝのとゝ よどのさこうなみのいし うきとゝ）
（子岐みさて いろいろし）・うきとゝの瀬名江なましよしの川を見れなかし

もしみしどふ ・こしの夜乃さらどもかすみね ・よる波とおぼ
とれ繚士乃しよ挿され ・宇治川のあじろ木もしよ立川む
なとゝあふべし

瀬霞ハ ・瀬の白糸しよ乱て ・しの せとにおちくる川な
どもあるべし 其外瀬の白糸と霞の衣よらせても継べし

村里の霞ハ ・ゝの市よ影ハあやなく ・村の烟もしめる
里とのくもを立ちらもとむ（里烟ハ里のけぶりし）
旅のふハ（鴨中霞なを紀みも出つり）・宇川の山つゝの旅人しまぎる ・こよ
の市よしかすむころ ・しの衣かすむく
右歌ハ和歌の重寸初学和歌式ニ出

鶯

・春くらぬれハ年の内より鳴やうふも歌に
（発句 集）春ハさそてよう年内ぬ谷のとまどられそむ ・霜雪

・春きてもまだ鳴ぬやうにも詠り
古今 春きぬと人ハいへども鶯乃鳴ぬかぎりハあらじとぞおもふ
・月に添合ことあり 暁の月也
雪玉 ふしおきつゝねりやあけぬらん竹のよかくれ月に鶯乃こゑ
・春くれてハかへるともよむへしおかし
新千集 鶯乃むもの巣くふハあれぬらんふるすをやおりはへるらん
・ねぐらハ 梅竹又総木の枝にやどるよし 梅にハ巣くハせぬを
係試 いろかハむかしとつくふ鶯乃梅とやわきて巣くくをハせぬ
・初春の心ハ ・初鶯 ・きゝ初 ・谷を出てきむハ ・里なれ初る
・きゝねぬ ・年のうち川もたもとし
・春ふかくなりてハ ・花よこ川ふ ・老ハ鳴ハく鳴し ・下さしつり
・暮春ハ ・花とおしむ ・春のなごりをおしむ ・かくしよる人
・人くといふとハ 鳴音乃人く人くときこゆる 古今 山家なとに
よまれり

・こつたふ 松梅竹に添合也り ・鳴てうつろふ（うつろふハうつるなり 木の枝に移ること）
・つなりとむる ・友をよふれとも詠り
暁鶯ハ ・初らくく鳴てねぐらを出也 ・有明の月に鳴 ・暁や
この二季に鳴 ・谷乃との明さもよくて鳴
初鶯ハ ・初音さへ初々さなる ・初ことも鳴（初音ハ初めて鳴なれ よき春にて鳴し）
夕鶯ハ ・なかき日と鳴くらし ・ねぐらもとむる ・くれかゝる
ちこの声に鳴 ・夕日さし竹乃梅に鳴たしとて
山鶯ハ ・谷の鶯なきといへり ・里人に春をつくる ・花みつ
山のつれ〳〵に鳴 ・山住の初音になれて人くといふ ・名残分
花の夕暮と共にも春をしらせの山乃鶯 ・青柳乃
みづうみ打ハつて鳴たしとも詠へし
野鶯ハ ・ちくれ川むのに鳴 ・雪をして霞がくれに鳴 ・ま
くさ乃野人に鳴 名残ハ春日野の雪ふるのくさのまつるまあく

・（くつろぎは鳴ハうつろふ鳴と　霞がくれに鳴きいづるなど）・いつしかとまだくらのとのに鳴かすよあさも

関ニ鳥ハ・あふさか乃関の杉むらにて鳴・ゆふつけとおもはぬ関の鶏よ

鳴たしとあるへし（谷ニ寺の鐘あらくしてとかふ　谷より流れいづる）

水ニ見ヨせてハ山川のみなもとの流をとらへて鳴・流の白糸くりくる

一し鳴なしとあるへし

柳ニ見ヨせてハ・柳のかげにて鳴・柳の糸をさそふ（糸とくらべて鳴ふと　うぐひすの鳴ほとゝきす）・春風をそふ柳がくれとめて鳴（糸をもてあそぶ）

梅ニ見ヨせてハ・梅ちりてさそふ鳴つゝ・むめか枝に鳴つゝ

目かれて鳴・ちるを見そめて鳴・咲もとて鳴・ひらく

竹ニ見ヨせてハ・竹の林にかくれて鳴・竹のそよぐ

声ニハ（鶯をまつとハ竹のよくふしのあふといふ　ひとつ青葉にかくるゝ文字のあひハ物にはよませて）

のあくるとつくるか・あくるを待の棒に鳴（籬の竹）

松ニ見ヨせてハ・ちよをせの声と鳴くる・時しるも松にしる声と

霞ニ見ヨせてハ・花かくれ霞に入・霞のそこに鳴むせぶ（霞にむせびてと）

鶯のたにのかくれ家・初ハしてさへづるも見えね

雪ニ見ヨせてハ・雪消ぬ谷のとふかも春と告て鳴・あい雪に鳴

ちかひ鳴・雪ふれと春のかりかへて鳴

雨ニ見ヨせてハ・つゆぬれほとて鳴・降雨にくるゝも鳴そて鳴・降

・春雨にぬれてこ河ふ

・

お遊不知安の事秋学和歌式ニ出

子日

・子日ハ大神社ニ従て文也子も日も従り

玉葉集 子の日の松を君が千代のためひくらんあまの山

・子日とふもよろこぶ一つ

清輔集 ころかくやらみ乃子日にもくさはしかくしの従ニ松本の也

・やしろよも従りくしやしろのかれと引らかしふハ従へり

〽らかうひ哉・雪ふれと去の日からもまがふて哉

哉よせてハつまさまはまて哉　降百まくるも中そて哉・降

・為はぬれてこ川ふ

・は〱

お遊不知恋の事　秘学和歌式ニ云

子日

・子日ハ大祥ちよ深つて又己おも深り

（忠見集）〽ゆうかり行る人をときゝ子日それ千代のねひくる人おの山

・浦をとふもよろこをつて

（清輔集）・こゝろれくやうよ乃子日ごとくきはしおくこの浦よ松本の

・やしろよも深りくしやしろの末松とりるやしれハ深つう

・ちよへの小松と引て千世をいはひ　又ハ千日の松と詠ふんで

後撰集〈ちはやふる神のいかきにさかゆく千年の松もしるし經ひろ〉

・又庭の小松とハ則源氏はつねの巻に子日なりけるによろ

ひとせの春とられていはふもゆまとなりかろ目たかれ姫君ニこの

源氏にまかりていはふ宮も引かへたしおもち入乃山の小松ひめ

そゝふしと云

・引こするハよその小松と詠つみて今なくさめるゆるし

姫小松　ちとせのちよと世をちぎるよしと詠む

・あまの縁　引てまつなしとも詠り

・岩ね松　うごきなき岩ねの方川なしとも詠り　・おしふらわされて引く

ゐのかいハ雪にかすむ

ゐさもやまれて引ける雪と小松のむとこる

若菜

正月子日の事初学和歌式に

・七種のわかなハ十二種のわかなにてあり其中よりえらみたるハ芹

なつなごぎやうとよめり又七種の侍らよとかなくしとよめり

夫木〈あら玉の年の始に摘そめて千代を祝ふ春の若菜は〉とよまれ

又清少納言枕草子ニ若菜とよまれの事ニ入り

・あまくのわかなとハ芹といふあまくの菜をもよめり

同〈袖の色から色くのわかなハ十ねもやゝ持田の若菜摘せんはや〉

・いはゝれしハ松の縁によせてよまれし

新古〈ふるさとも根の川しらん八千代やいちはやく松のかし〉

・すゝなとハ海よりよまれし

新〈川へ入るいそれと海へも海士しな苦のくりくる若菜つまなん〉

・雪げの若菜ハ雪の消ゆる沢のわかなゝ

万代〈あすからの若菜の古根ふとみて摘れるに〉やつれん

はるか・とぶひの野もりハとぶひ野の野もりし・ふるのゝ野もりとハ
布留野之・三輪の野もりハ見三野之・やなのゝもりハ野
とやさくら狩のもり也・あさでの野もりハ野ののもりなり
・むさしのハもりとりて入る義也
・そりもり・うらやつき深のとりのこら・つ
ろくむる・つめどく野らは・りし袖る・うら萩かと深り

同 雪ふりよせてハ・白雪乃清ときまりつむ・雲さしかうてつよ・雲
かすみてつむ・ふる雪ハ袖やそくゝひつむ

同 雨よせてハ・ぬれつゝもしみそつむ・はるあめふ雪消てきい
つる・かよといゝ花もやとふてつむ

同 野ハ・きゝしられ者のはけもれてつむ・まあとさしの穴て
それ・ひとれつむ秋のへ・ひかのありかもとられつむ・星人
も野はらてつむ名とふひの八野めりと見・たまつむ野も

山とゝくりふ寄もれてつむかすとあるも野より花ハ野のよせし
寄し野ハもられつまんと寄し野花年寄しのたもとよ（野と寄る人し）
あり寄しハ萩ねとまやう・寄目野ハ袖ふりかへてつむ白妙の袖
まつむなとあるむ（清白ハよる白妙の袖をしもかなかり）其外野よかくれと寄る
えはミターし

同 田ま寄て後ハ・あれこの苗代つむ・門田よひてつむ・山田のく
そをやとりつむ名ハ島羽田乃おものはぜのさひつひ其外・

同 沢田乃もられ・野田男まろかたとて

同 沢ハ・袖ぬれてつむ・山の井よりつむ・ふつの井ると乃もろ
ねの年とり寄てつむ・あくねせりかしも後り沢のもろか

同 ふハせりともおかく後り

同 須磨ハ・海士の乙女こ塩やつむ・うらと近く寄やうに深り
つむ名ハ・こよろぎの磯こ塩やしつむ其外難波つ寄せ濡れた

とふよめり

春雪ハ・春がれのまゝに降とよみて消やすし・日影さしもかゝよはのこる

残雪 并 春雪

・残雪ハ冬降し残雪とよむ又春ふりぬる雪ともよめり
（残冬 残雪なとにしてあつけなりまゝハ残波の名残のそれなるをうたれたる雪）
詠同 なよなやるものゝ冬の春くるにハ残るもとうれハ降るあハ雪

山ニ寄てハ・山のかの日影の中に残る・其山の霞にかくれて山
かげにふりて残・深山の松にもきゆる・日の影もとゞかぬ谷ま
残る・春さても松谷のしら川ニ

野ハ・雪のくさハちとせなる・野べのちりひち猶くもなる

庭ハ・かきねのくれにあかる・庭のおもにふりぬるおかしさ

木ニ寄てハ・打きても木ゝの梢のむらとえる・木の下陰にさえてや

らぬ・光猶あるに残りて松の上にて花とみる

竹によせてハ・竹の葉に積もりて残る・千川がれして竹の竹も
うえんかたへゆる

餘寒

・餘寒ハ大寒のなごりやらぬよしを詠り又冬のなごりをもとこなかるをとも
よめり

・音数 春の空に川まで冬の名残そて寒なる風にも衣をうらん

・又餘寒によう川ニ冬とよめり

同 ものをあらはれ雪に消くらて春ひやかなり

雪によせてハ・とし入り積ぬる雪に春ともかの枝・去年の雪を
と詠む・うき雪も雲なる・さしやらぬ梅の雪に残り
そふる・春の分てれなる雪

霜ハ・朝霜のくさの葉に置く霜 ・春きて水際の上にも

となる・白雲にまかふしらき梅の雲乃又むすふ

風ハ・さそふる四方乃あらし・霞ちる行のくるまもさそふ

・あらしの峯と咲ことに・さ根ひかり乃霞の衣きせさかり・うせ

空てうちとふもあへぬ・むさしの川よし乃春風空にうつる・雲

ちりくるあハ雪・梅さけふるくる山風・さしたりあしれ咲ま

く山風・まつ花さくさき・春さそても空に風さし

月ハ・雪げまくりて・花さえ行・梅枝にて・うきこしや

らぬ・さそはくる月の下風

山ハ・山路も春やならもそへ・谷乃つらくもそ根そふる名残よ

てハよしの山ハむさくの下風枕さし・むさしの川ぞへ乃梢も雪

さむし・いこま山ハ・春さそても花咲さむし・さくらね名乃むもの

林よ雪さ枝る（いこまハ雲むむの林かしいくらの名こいせおくりまて所載）

水辺ハ・山川のせにうかひ又むすふ・池の水氷まよへる・山里の

うつりひの水も梅さくひかる

梅

（和歌不知題のる初学和歌式ニ出）

・梅ハ諸木のさきかけに咲しより則てこのはなの梅といへり兄の花といふも梅の名といふ也

・好くて花の兄の始乃梅としてまして先咲いろそえたるぬ

・梅ハ年のうちより咲よし仍立春早春たりとも咲り

（草庵集冬）見へて紅梅の香子白ふへ春のとたりわく咲に梅のえ

一重の梅八重梅白梅紅梅いつれとも咲りくるをめて梅か花梅

又一花ニはむも乃一つ二ん咲くる也

新古今　やよひ咲とところまてかしつ一重の梅もくらひくへたなる空もかりか

鄰（いさよりハ家咲梅の若葉ごて白ハ春まてさえ花有かへさ）

急山（古今）梅の花まゐりくるみて花の乃風こそもものいろゝとうへかれ

歌林　咲ちりしまがふ散る花の〳〵梢あ乃桜よ川りの白雲
桜会　錦着て咲川る桜の上それもいろ〳〵にあまたか西方に雲風
・桜と木毎と読るゝ梅乃字のへんつくりとされていや二段く
千載　春の花ハ出ぬ風入こつり小木毎に桜とおりひれる卯
・桜ハ冬よりも白ひと雲ニ紛せるよし
・桜ニ瀧合せこるハ　雪　霜　鶯　霞なとよし
・さらえハよ歎よわさるもんとよあり
・月花ニいそれくもとえね　白桜ぞいふし
・鶯さそふ　鶯ハ桜と姉もゆへに桜うくふさきわれらく
・若木の桜・老木の桜・一本の桜・百本の桜・ふるえ・わか
えだ・ほつえ・しづえ下枝しかとよあつて
風　風ニ当てハ・花こそ散く風乃使ニ白ひくる・咲色の空ふひくる
やまざくらの桜咲なぐ人とさそひやり・花ちりしきてうぶかりこそ

へども・小雲とりけて匂ふ・雪と思ふ乃桜ハもひとつ川ふ
ちる・雑多く生ひと咲くとむる・そろけき里花桜ハもろこし
こりとふ匂ふ・桜の春風・桜の下風なとし
雪　雪ハ・白桜乃色ハ雪よまかひて咲・白雲乃かゝりまがへともつ
かくれなきる・桜ハ冬よこかれて雪とりふくちか
霞　霞ハ・かすみにまかれて白ひくる・かすみ二重かくて立へ二重ぬ
曉　曉ハ・桜乃くふ科学おぼろく・有明の月と影とふかげ白梅
夕　夕ハ・月よ川影ニ白ふ・春の日乃夕ぐれなよみえ白ふ
夜　夜ハ・夕しこき乃衣よ白ふ・手燭よ白ひとう川し・やミの川
川くミ白ひくる・やミハ紛やかすくふかちおふ・とりひのむ也
白人折のむかし（りしらく）千千・夜うさき宮す白ひ入・手燭なうそく白ひ
月　月ハ・影月もかげ匂ふ・夕月乃影あるのみかハ・色ハ
それとしるくふかくくつりつり白ふ（白桜の花）・みふめこ〳〵月も影やぶ也

山ハ・山里乃家の語ことも〔[illegible]〕・桜〔[illegible]〕

ろくどやり川・谷の鶯かゝるとといでゝ先桜かくみなるゝ名所

ふる嶺山ハ桜のみなもまとは嶺ら嶺山なうてえ宮

（よわりし花のんくし）・朝日山ハ山乃

名の川ハ朝日も新白ふなさとし

野ハ・桜さけハ花やうつり河もうかハ野ハ名所ハ吉野〔[illegible]〕桜の

白ふんさと語り出さん乃月やちもこちーあもとそへろ・

よしときとふ跡ハ吹る也の声を軍山跡おへ青ひくる

水鳥ハ・むれう古人ま新を思ふ（桜の下れとむのうこゝ　といふし）・家のうち山宮ね

もうふへなふ・桜乃下水・瀧桜乃うちゆ水みしともよあり

里ハ・里乃垣根乃桜くにもりふもさらし海さ・名所ハあま

毎あり本ふもえ川もの里ハむうしのうふへなふ（[illegible]）

人ハいさえもらねふくとハむそむらしのふへなひろ・むめ川の

（といふようりとの桜よハむーとよめり）

・えましおいへむめ川の里花ま宮もむめ川たなとゝ語り

宿ハ・花ハうとるなゝ人も桜かくとまるかめて回ゝろ・くうやなて

ねうさとも桜かくまめて宿りま入・新ての桜乃宿かれハ

人の袖のうちま宿やまさき・新ての桜うくしさま私ま西ゝやる

鶯ま逢会むろハ・桜かくまやとり宮あく秋や〔[illegible]〕

（ゔそふさともうあくなるハえあき）・桜のむさうさされく・桜うし

・ま寐ぐくさざむしろ

白ハ・袖まうつれる白ひと人のとゝむる・桜からりても白ひハ袖ま

花諸て・立よれハおもしむ白ひの袖まとゝ海るなと

桜ハつれ乃むもひ訳すても白ひと語ま

落桜・散花の袖を落る（[illegible]桜の曲）・下訳水まらつりふ・花の

うぐつんもうさくるりゝ（桜の下水と[illegible]）・谷水[illegible]

柳

柳ハつんとうれるとほめれま冬ひく京氣のおもしろさ[illegible]

緑り春三月のたてりて或ハ枝よくきてへなよしともいふなし
れと出発せらハ正月二月のはじめ春も色なをならぬれハ柔ひ
ろごつと云てりて京氣うるし清少納言枕冊子に柳なつくい
とかうしてあびらしてこそあれそれもまた洞書ろうらくぬき
柳ハしなれひろこてゆるゝわふくしと云
・まゆ経子こりるとい　柳のまえ紫のいてねとうひとのすぢまるへしてこれ
（若葉）葉　青柳ハたて色にりれる糸なすれハ春のくるならやなきのかおん
・まゆをとこるとハ　人の眉よりてりとしらの眉とも緑り
（柳葉　手を）靡　それより眉をさなる青柳ハ春つきおうち枝こゝろ
柳ハも乱とよらり靡ふも柳かはへしいふ靡あり
觀　風ハ色もおてちれてくハ小竹ことりの柳なしらてぞの
りしはづかし緑り柳のめのもしいつもしまたもりとしも緑り
（麦末）緑波ハまたうへ春共とすかたうりしていてゆかるゝ便やかなさぶ

風　ふきよせてハ・春風ふきなびくものゝうちなり・吹とれる
春風も柳の枝みだるゝ・なびく柳ハ風のみたるゝと知・風吹
一すぢまなびく・風の人すちよせてなびく
霞　ハ立こめて靡ひくるものありて・うちなびてゆらぐ
柳ぞの青柳・うちはへのすゞしきうちなびく・又ハうちはへ
・衣ぬふ糸ぞよそにて糸なんし
雨　ハ・春日柳ハいと三河の雨にぬるゝ・糸ふふふて春雨・打ちる
糸・春河くもなしき糸　雨乃三河くの柳の（糸どなしに柳し）色をそへて　春雨柳ハ
せいひて三河ハなる春氣又ハ風ととせてからのふるゝ・露
よひふかけいそれならかしぬハもおゆゐなるゝあし
露ハ・むすぼれ・むすびとさらぬ糸・むすびてかゝりていとて（おとどの）まさる
路ハ　みちの六柳も都あも行路柳といへり・みち人も立よる
・うちなびきそゆのまつもくみてなぶるゝ糸・みちのほとりて芽そ

こん・こだてまゐらよりてくる・めでまゐくる糸（えだりへてよらず）

ても・青柳の陰ふむこらるの柳なりとも渡り

川岸は・水もこぼりに乱ならびく・川そひ柳なきこみひたるく・舟

つなぎさしの柳・ぬれて夢と縁の糸・枝のあやよるかさ

さふさ・青柳のうけゆく水・そこ乃も藤に乱とまり（浪へ）・き

しうげに打つへさるく稲乃糸・入江の柳・川柳（かんぱの）・うら

波とこまの浜糸乃青柳（こらわくこもぐなの かさへのまうく緑し）・さらく川うかへなひ

柳（よあり）ゑく河に河ぞひ・ここらせ川ぎしの柳・川の河へちし

柳（柳とよあり）ふかしる新しよの河は・川ぞのよどめ柳糸（もつこのうとれ 柳糸あり）

川ろ浜の浜へつるの柳・（ひろ浜な八 の柳とあり）・ゐすてびの浦のさし

一 柳（ぎてひの堤な八く柳 とあかりさこくさ柳）

若柳 ふしくろ人々羊なし柳の糸乃下くつ 梅（下る庭八柳 の糸の浜よる）

ひくも揮除のこま・柳とめてとくなくまうやとの柳の糸・真ぐ

さくとてくらゝとし

・ことわりの五本柳（若柳八森柳等との たまよりのる）柳の門 姫柳の柳・蘇柳

新の青柳 室の青柳 なりとも浪へし

糸まつかゝりしては・風まかりくる・風ふきよる・ここらや ・新

ハつて・むすぶ・なまよる・かくる・まりの糸・まそあ

の糸（柳彼の よらさこもこびー）・こよりに深る・そなたこの糸（こう うの山）

むの銭（かなとも糸と浪し むの銭八ゆとつりぬく糸て）・うき糸 なよよむし

かきよつんなりしては ・たづる柳のあさねがて 風まかせて 深のうこと

・よりかゝで・打これがて・こでるく・やすくさ・風の柳の

ふで（ふつん）ずては ・むすづ・むすづ・さ浪ひまへつて

アよ柳に見ずては・まゆのきにさるく ・こよりの本柱・柳の眉

ういこのまゆになりしては ・まゆごもり ・小柳くのゆる

月のりまつんなりしては ・こよりにかかる・なびくかかり・又柳

よへ嶋とくかのかりもあつ巻し

わか草

春くさとも初くさとも詠り又ふゐくさとも
万葉　おりゐるのとはやき杉始くさに新るさ春りせ字
わかくさ乃花と詠り
草根　まかくさ乃むすびの袖ふも春日の野にも若菜
・わかくさ乃はつりと詠り
新勅　春日野ハけふハなやきそわかくさのつまもこもれり荻の焼ハ
・小萩とも燒野ゝ草のわかくさ路へのこぎさとも詠へし
秋　よ秋たてハ草ひとのハこ尺しつるや今りいつ小萩の花
和歌　のへ乃春ひしおしてハ川の前へ又川よ
　　　草のもりまく
和歌　春の野のくさの露そひかり・ふる春さとめよの人
　　　ハ春さむはめくら
ハるさりめぐむ下わかくさもえいつこの紫くさも

ひと川二葉よりし生ひる
水草　歌よも讀る草也沢に生草なとにもあるは
ハ草とみるくさは沼又池のとくさなとにも詠り・あ川さゆ
を様へハくさもう川を詠る・沢のくさりおもとえて池の中く
さし詠る・池水をて施けらてこそ緑めくさの花とりそふ
石菖・ふる川のうきねの雪も消えあてり春へくさいは春とあ
うき緑乃あやくさに刈るたとて寄ひむふ・冬かれしかさ
ねのくさもいつしか春となりし萌出る

早蕨

・むらさきにわらひとハ紫塵（ヂンノワカキワラビ）嫩蕨といふ詩によつてなるべし
古語　むらさきのまとのまどかれむらさきの蕨のゆかりとある
・かざしにひとかざしのごとくおほかりしみえ

蕨 [illegible]日くるゝとやまの[illegible]蕨ハ又[illegible]

薇ハ・山ハの[illegible]て[illegible]・[illegible]て[illegible]・谷から

き松の木陰にもえそむる・山里の[illegible]出づるは松の

人もおくる・焼人も[illegible]れて折る名所ハ[illegible]・ふるさと

[illegible]・よしのゝ[illegible]の下や[illegible]ひなきと[illegible]

野老ハ・こけの下も深くぬれ[illegible]・春の[illegible]の

まりもいつゝ[illegible]のひ[illegible]

松風ハ・春日野[illegible]

・よみ[illegible]とも[illegible]

[illegible]

[illegible]・春の[illegible]

新[illegible]

[illegible]

[illegible]猶の[illegible]のゝ気をよふとて春の心 月

[illegible]の[illegible]のも[illegible]

て[illegible]春の[illegible]

[illegible]

てもくるしからむ[illegible]

凡春陽の気[illegible]くうごかれ[illegible]胴もめぐりて[illegible]

[illegible]

・[illegible]の[illegible]・[illegible]霞の[illegible]

[illegible]文も[illegible]

[illegible]・春よの[illegible]

[illegible]も[illegible]・月[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]とも[illegible]

春[illegible]

春月

・春の月ハたゞあはれなるものとして艶なる事專と冷まさじとも（おぼろおぼろの事を執着すべからず式云）さ
れど春の夜のながめあるハ然ままにてうしろめたくやはりけれともよろしき
ことにハなかりくめでたくし春乃月かあほそ霞むと春なるべしそれ
新たに山かり花に花れてし出る春の月先うききしを露ほど霞り行き
・春の月ハ心のなりける にて業平はし侍り
同 照もせずくもりもはてぬ春のよ乃朧月夜にしく物ハなし
同 ものゝ歌ハ斜めならぬよしとあり
・若葉あさぎのあさくいでてもいつしかとめかれぬ春のよの月
春の夜ハおぼろニ風よりまされてもかくろなき乃かけら
よりとと侍り
強千三乃春かくとさまくりハ先きれハ深くと三月やうやうさ
山の氣色ともなりくへ・霞まとめてせことも山の氣色の

おぼろ・松後の春のてらに新と申す事也（松後ハ山の景気を新まらの）
也・山ひめ乃霞の袖と新とよまへ・山のはを出そしるより おぼろ
なる・紫の雲乃明ぼのゝしらく霞ときむ名所へ・かすむ乃
ひまかりのけりょ霞ひたる ゆりかと山乃ハ雲霧ひたる のし乃ぼうちとしミさき春の月の
ひとり もりともむ花ハてとけなくさまかし ともとうちとゞめぐうし
（てらくし侍り かすあり）
・野ハ ・春の野乃くさ花とりかすをいるか・野 わくかたとかるの
ゞようけむり・月くるむ花ハ露の格かくしまうね
海辺へ・うらうらと月のさも おぼろなる・浪の松原風とて
月ハ波のうら新らともむ浪ハ・月新のなれのうらも
る・かすみかかりなれのさる峯よ新くとむ・山ざくらさく花のさかの
川 おもしろきにて寒りろ波もおるかとむ
川ハ・川そひ柳ちらかゝひたりぞむかし霞よ新やどれ・水鏡

なら川きし氷もあやぶまする・川辺とも定め所は難なる

其付・うちとけ乃よすがら月ハおもしろしといひ・花の香

こころふくめりそふところ・こやされるる梅もかへされてあらなる

・定め新の花川をまるれかへるみ山とハいひ・霞まぬる方角のう

ちをたてひ・雨しの香のうつくしめてあかす・新古川むかふとも後

一しふく（うえしくのこ
露の湯ごもり）

春雨

恋ふね恋のるり袖もぬる事式に云

・春の雨ハとも春げの夕ぬるしもまたふはしき降り

永雲 ・降とるふたれぬ網の春雨も紀の己のふ乃川およみかく

一春ふりしまより

同 ・松とるい春さ乃やぢむろいまして花は世の春の雨すりをん

・なみあと降るハ春の雨ハ数日ぬり川ぐく地なつれ流んともねさり

新古 川くもし春乃ゆふあし満ちハ是のてまゆふの花乃松原川

・春覚のゆふふもくりしくろくつきりもウイわたし降り

永雲 くうそふおつるみりも形まよしさえて松水まさ月は春雲降

・能乃ふうとふかと降り新したしかふめやむしんかし世ゆらしふらいかに

雲松 ひらき 春雨もひもさこ毎い数むのかそくことふうかそうやそ

・流ぐるてうちとこねうさの月恋るふうとゆり

恋文白 風さそてあさつものとうん今夜むうえしかふ雨まなすう春日元真さ

あまりせてハ・赤くのこの為の春雨もふむすり川山も色す春さつ・いとく

しくうくともみうむしろ春雨ま山のこえも消り　ら川に色さらねふ

松乃とくしりも雨まいえつ春さく・山ひの乃露の袖も言ふりか

野ハ・ふへきまの人乃せくさもみどりそふ・ハ今くふあさかね春ひ

川ハ・ともへわくうまる春雨ま水源る・する毎年川のちいうりしい

川る　らちくハあふふげ恋し

田ハ・雲雀はなつしろ水も増りけり・門田の面は秋のめてこそあ[illegible]

ねそ系・ある面は門田こ[illegible]く打[illegible]

苔ハ・雲雀は花の莚もりしけさ・[illegible]

とね数・[illegible]河こ増りけるて[illegible]・ひとりの[illegible]

るや・雲雀は[illegible]の声も鳴る

朝ハ・朝[illegible]て[illegible]・[illegible]よる雲雀

夕ハ・[illegible]も又[illegible]めくりし[illegible]・くれ[illegible]

[illegible]雲雀・くるくも[illegible]雲雀[illegible]

真那・めくる[illegible]の雲雀は民の[illegible]・[illegible]

とそれぬ[illegible]・雲雀は[illegible]・[illegible]

うむる雲雀・このめ雲雀[illegible]・[illegible]雲雀

[illegible]・[illegible]

帰雁

八月の[illegible]月の[illegible]・又[illegible]

三月ろて[illegible]増り[illegible]

胡花へ[illegible]

・新拾[illegible]

玉葉[illegible]

・[illegible]増り[illegible]・又[illegible]・[illegible]

・[illegible]もあり

[illegible]月の[illegible]

万葉[illegible]

・[illegible]文字の[illegible]

・[illegible]の程は・[illegible]・[illegible]・[illegible]

・ならずこびハしの歌語よみける　なかとひし　なかと深かり

暁ハ・くるさんと深ハ・有明乃月よなくくくる・ふかく・なみよおかれて

くる・鶏こめひしくる・きぬのよのゆめ乃なごりれりくる

・歌ひかぬでのこゑよみくる（家ハ逢乃別のなかよりあれておもひをそへていかし　このれのこゑ出ひ）

・鳥乃八聲よこゑをそへてけり・きのへめ乃こゑくるもよくこうくる

曙ハ・春乃曙のあけぼのとりとこゑく・ふくる・又ハ曙への[illegible]気

とをそへてよみよらとも深へし・おぼろ月夜乃曙よなかさり

ほしそへくる

夕ハ・こころそれ乃そらふかありてけり・うらさみの夕の[illegible]

門さして・夕ぐれいけくよやどかりくる・夕ぐれのうを

こゑふきしてつくる・秋ハそれぞれけり・うびへよやどり

とぞれてくる・思ひ人のやどるハ・夕月乃そなよそくれて・有（然し）

乃窓よくる・夕月ぐれ月ともなくぞくる

夜ハ・ささがにの海よりてくる・なかまのそらより[illegible]をそ

めてけり・春の夜乃やミハあやなくくる

月よなせてハ・ゆきひよる月をとくる・さやうれる秋をかりてう

もあるほふくる

雲ハ・こし秋乃猪ハ雲あなよりくる・くもひでならかむとなゆる

・雲のたづなとありけり・うなこ雲まよひとられけり・うと

霞ハ・かすむ絶るなのくもと・あふる・かすみの衣かりそ・かすみの風よそ

ふくれなりし・かすみのとららよりてらし・かすみの

なるハうつのうぞも霞よこころ・霞よむせふ（あまをかすのらそかすみ）

花ハ・紅八ほどこころしてけり・春の花乃きえりすまいるてき

こうんにのむわかなの花やまとおわれ・春ひなのこころはえそく

鳥ハ・ものへ乃かとをとすらんハ・ことひくてけり・ひさこゑ

とよれまこえててけり・鳥つぐれくる・まるはかれとの言

「同」田ハ・今ハとてうとひ出の西と云所ノ・麦の田とうたへハうた
鴫[illegible]ハ・三夕[illegible]とるかくる・うしろそこに霞の中よ
うたふ・かしこてハ雁ハすみかくれ行ノ
名所ハ・かしこく[illegible]されし所・なも・花山・よしの山（なとこそ[illegible]）
・[illegible]山（[illegible]）[illegible]の山・[illegible]の山（[illegible]）・[illegible]
[illegible]のゑにして（[illegible]）・[illegible]の音くらし（[illegible]しの宮）[illegible]てけり・うしとこの浦
・大わだの浦（[illegible]）ハつきて云ル・難波の浦（[illegible]）
[illegible]・[illegible]川[illegible]又も[illegible]（[illegible]）・[illegible]すべし

呼子鳥

よふこ鳥ハ春よく[illegible]山は鳴て[illegible]にと[illegible]て[illegible]
とうけんの様にも啼り
古今伝授[illegible]

[illegible]と[illegible]啼り
・夕ハわきて鳴と啼り
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]もなくらし啼り
[illegible]ハ[illegible]よの[illegible]と[illegible]呼子鳥[illegible]とも[illegible]月[illegible]
・[illegible]啼合せてけり
[illegible]
・[illegible]啼合せてけり
[illegible]
・人[illegible]・[illegible]・鳴[illegible]・[illegible]・[illegible]
しらぬ・[illegible]なりし啼り
鳧
[illegible]
[illegible]

まんさくの花・山ふかきところのわらまめ・世をはかなみ
くれぐれは誰がふるさと・松本ともしのひぐらし籠まくら・石瀬は
うぐひすの中にも・みよし山・かしの山・ふたむら山・みつせ山
ふもと山・志賀の宮の杜・うるさぎの森などに詠り

雲雀

・雲雀とはよまねどもあがれる雲雀をとひとひてもよめり
揚雲雀（ひばり）雲雀あがるは春のことさかりなれば雲雀の春にも
・又雲雀あがれども落るともよめり・夕雲雀の詞もあれてあまり
諸雲雀　雲雀より川あけがたのくもれ雲雀につかしうたる是あはせて詠
・ゆふひばりの詞ともよめり
落雲雀　ひばりよりあがりてゆふひの詞も雲雀かへるゝ　ゆふべかな
・日かげの詞とも申すもなしともよめり

野雲雀　雲雀は川の辺に鳴くものなり今は翼ありて雲雀の頭に翔てそら
高くたなびく空に雲雀のあがりて知らぬ夜の空ゆく雲雀と詠り
凡雲雀はいづれも春の季としてのぼりたるを見ればあはれなる物
と詠じ又或は・春の中にほのか見ゆ・雲雀よりくへかゝる雲雀
空にあがれり・おちむれてあがる　雲雀らおちれ
・あくる空に鳴く雲雀むかふさきて鳴れ
・うぐひすは内くもるもの・すゞめ
・野雉　ことゝもとふ　・やけ野雉　日上　・ふるさとの雉
・すゞめ雉　あしたもとどろの・あさひの　・あさらが原　あさらの原
の雉・あさつの雉　などよめり

雉子

・うつろふよしとよめり

遊三のてふあふさてもかの春か無さとのうあらと今云され

みどりのふてのせ川おもかりし

三吟にてら料しや続のこともまうては　おかさと云ふ立の前

・うつりぐちまあり

・新枕うつ人の別ふひめへ乃重つゝのくろへうまてきせかあり

・新み代と明ぶるへくら門しも嫌り

（新式下集）うり乃世ともこかあまて春のゝるぶまそんらうのこらゝ

え云くもと人山よりも嫌ぶれども天神社まで論よあり又宮むも

・うつくそさまうくろへうねう（若しかれ也）・春のくハ乃嫌のいの

（たゝりハ云路と）やくハかうく　・続路のきてたどいひて　ハ嫌れねうと嫌し

・うもとくうれなつて云ふ・雑子の途とうり人やまくらんと

も・みやくの古の続まてとなる・うもとこのうらふありう宮あへ

・忘れかくぶりて明　とかまでもと　・あくさくらう嫌　・うき雑

み・うつ衣もとらもたしと嫌り四句去ら

れども中にも名をく嫌しハ一句そらの小路まとされはよあ

・ひぐら路霧雨のくさびつれ（たしらを）嫌べきり・うつゝ路（者又とされ）（み嫌なり）・ひさし路

つやとりとよりつまくりる・新月のくへ（春の新有）・ありく

とりて云ふ家むかしのへよせし

の糸なしと手字のて嫌なり

四季雑

・ひどりは子と云もとの切字する樋し字すあのよふあ

まりのよしに去ぶでつのむとうぶふなぞなある類とし

（二句去）あなれも立ちまさし河るひぐりまぶやのもとと

・ひとりの家と嫌り又家本むかふもをかまて家なし嫌り

（二句去）へもとこなすと家とひとりのあくあるていふかなまうま

・ひとりハ云ふそてハ明て昔まへてハかまわせし嫌り

集の二の三

の三十

霞（家々集 並年）春のくあらぬ時のこと也つてえし春ハやすらねど山にかゝり或

ハ・霞乃内まおつてして出るく也・春中樂の余ルと及ぶかれしう

とくゝふあるゝ・跡浜の外も聞く申る・雲ま入・雲まくれ也て

さ樂よ落ゝ・霞の中よそぎりる・揺ぐかゝる（霞の中ま落ち）

しの山まか・衛ぢ・かゝる・ふぢふき・まくれおとしは浅谷

又山木も隠されど跡系瞑中とかまくゞり岩ハ・ふき

忠えかぐれおもし・こいぶへ河流の・ぶつハ跡あかれ

あり

花并桜

花の部ふお題のうす物字花并桜也出

九部よて三のふも出の部よ花といそくゝへされさくくしと

も含まれし桜よおする梅桃なりれバむ黄数乃鬼へこしわう

そしふハ牡丹と花と桜むと又海棠といふ（海棠ハ目出の）さくくしとうとへて

花ハいかにとも常ハ数かんと冷まわれ一まハ花ま桜して

今よまもくすもくりふよりむ真実今はなりの桜まもおうくね

もあまり小き数の桜との花しされいかりへちり今まいる

今せ世乃人ハもくのんとのうてらめる桐も多く又秀の言

也言へし其中定家や秀哥よそ桜花の哥かへたま記

大桜 〔同〕里中より出羽乃山のうへより〜ゆくしらて

〔同〕里の乃大宮人ハいとま梅おれやさくらうでかざすら

〔同〕やよとくいまそあしうりくさけぞ為よ〜ゆら桜の花の白まを

〔同〕さくら咲そみねの乃ちり坊のたきくし目もあやなききか

〔同〕とりみそてむのくゝわふ娘ままりともののことはうらしを

〔同〕めさまふハ春の山まゝしふあんくれすまかふれびの霞

〔同〕桜ちり雨へてちとお桜れくなんとしものかそなくらん

〔同〕朝乃まかり河のふかれ弘ついらとつむ方よ立なる猿をも亭

〔同〕まくそらかのこの桜ちりむひ乃雪ちりき春乃峰を花

首 〔同〕又かうのひかり生河なきまの目ま生河ハなくむの花尽

〽此の外古人猿丸乃哥の多し[illegible]といへども[illegible]

〽橘花ハ・橘のこわむかしをおもひ出てさつき[illegible]白枝とよし・待[illegible]

むかし[illegible]・[illegible]の白[illegible]とおもひまはして[illegible]とかき

さむ[illegible]・[illegible]川[illegible]・[illegible]と待

[illegible]・[illegible]

春日とはつくれ・又花とは川[illegible]と[illegible]

〽萩花・[illegible]とよみて路入・[illegible]

〽[illegible]・白[illegible]

[illegible]

〽桃花ハ・二[illegible]三花咲[illegible]（二[illegible]）・咲花乃ひ[illegible]

三千年・[illegible]・[illegible]

〽菊花・咲も[illegible]・[illegible]

[illegible]

〽卯花ハ・[illegible]・[illegible]

〽暁花ハ・有明の月も[illegible]・[illegible]

・むらはつくさ、よくこのて・むの精ありとゆく・やさむさ花の精

闇ハ・さくらぞともふ春の暁ハおりしろき也ひかすらぬせん、ちよ

花乃咲ころ・これらも京氣よくくもりへ〳〵し・暁の雪にし花ち

よりわの二影・暁のそら白妙の色かれのとも、り暁とぞや（くもりをいれて）

霞ハ・朝日夕日ひとそへる・明ころ花の梢・朝夕白

ひ母ふむる・朝まださきふのさくらとゆてらる

雨ハ・なふもなくしおすれくしつ・夜なるもむし梢ぬくる

・山よりひらく人かのき・風ふひりゆるふ・風ふぐふし

・咲むの色もくれり・花さ川うくらさかしさ・あらゆくさあ

ともさそふん・花の下陰は月とすれ・むの下陰根とる

樹ハ・六称月とまとふひてあり・花も枝何まそふ

月中ませてハ・月はいく夜むの白雲・月待さうくれもり

色とそへ・さよふ色むの木の下ふ影れふ・花のまそ

や紅やとに

嵐ハ・咲花と風ハんの手うちそん・ゑしとおふ梢ちらぬかさ風

ふの花れおむふらうく吹らかし・白ふくる暁くる枝のさと

むとお・んうくふるふむおれれ風とのとかくとくさん花を

もくて花ふ風といとふおつしのとありとれと又花ぞむすを

よハふちひくる風とこの呼ぶしとハさりの吹

さうくねよしかすし咲り

関ハ・山さくく花をこふあてもかね・又花のいそう

そるんとも咲り・ふ暁おち花の袖も白ふ

雲ハ・咲ぬ月れゆすすふ・花ひらくすくらく・花のさ

うりまちさりぬ暑ハ声のひし雲か五月を（ほのさそふすれてくりさ うのむよくらて八文月）

（春る）あさんし・咲むとのさそれハ五月ひゆく花白ふ叢雨

雨ハ・咲ぬ又ハ花とりあ散とゆよしと又ハ咲まあてハいふふんぞ

よあり・むかしの川くまに立ねさく・白人も志あり・むかしの玉垣
・むかしおもへる吉野の宮
山ハ・み吉野ぞくて白雲にまがふ桜ぞ・松枝のさとりも心あり
つりかく・山のおくへとふかさで入てこりくくて・仙人の川ま
木のまに花ぞふる・いく春の花ともさきてくる花山かくれ入
・春の川となりてゆく・世をすてゝ入ても世の住よく命ある
野ハ・みよしのゝさくらし（桜のちる時の春）・春さる山さくら・二三月さくて・片山桜
ハ・むかしけふおも影の春を・むかし人に見えてくらすれの花乃ち
えひら・むかしをそくらの人の心びハ
森ハ・源宮の森乃みの木に花そむかし・むかしの春の桜より春
乃まる世もいとふ・むかしをかとる森乃下の
宮ハ・宮ゐむすび木の葉そ霰・そらぬ・旅人もしらぬ春のすゑのと
里ハ・三川の里に夜ハ来てかげる神世・御をのの川に春雨もむ

まれとともに・瀧のおとゝに岬の母もこゑもくる・吹
冊乃滝しら風も白ふ・波高くうこゝろ浮まほし・吹合
ふるひとふ木の乃ことく・むかしハ涙ぬれむ浪人乃袖も白
瀧ハ・洗木ハ花乃ちりしく瀧乃川也・瀧は洗ふ水もなく
なくふ・波乃あやまに乱れとゆる・波乃むせ三かへ落る・む
・まけり乃いくぞしの桜の実も手を上る・岸の水の色もおちて
も浅ね雲月上・花の白波・花のうゝらに（落むしゝ水のあわをさし）
・春やあそく（よしの川なかも）・花のそぞくにて
桜ハ・[illegible]井乃花よ雪む・九重のさとりのち安吉人の
花ハ・旅人もなくさめる春をえ風も白ふ・今宵までおか
もれざ実・宮のあるくも春あかむのう・あれしきをふゝさむ
・ひと・しらぶく桜・春乃まだもしりよ捨む・なつかしの都乃
八重ざくら・みよしの桜なれども浅へし

「紅花ニハ・移ぐさに咲そふ・咲もよあけのまがきハゆら・紅も
さかもみとしりん・柿葉まむの白ゆふかげや・やとしらし紅
白み・客人のかざし・やうぐう妻のひかりに咲む変のいろ
「寺花ハ・法の庭に咲む・佛のよめ・法のむぶさ・そつを
みさのふるもしまでよあが古寺乃をあすうてもたれ竹
「香ほへ・たゞふでひとりありむしき・あるしゆかいれぬやこゝさ
く花もとられぬやどかはまりん・む咲さしこゝへかもへつく
・秋やどのむぶふくふるへ・むあれがこうぬやとりし花そ
こう・夜半に咲そてともゆかすむる・むかふ床・むそかむ
「・花さゞう・やどのむ・こゞうのむ
「挿頭花とハふ・むどおてかざいし・大言人のふて・妻の
かざし・むどうざして老とうくれ・かざしのむ・むのかざして
「花ハ用とハふハ・むどをとりて佛神ささむくうし・よあるむ

・おくしゆる・にしよあうハ
「花　・ねざさとふみさえ人の道のよ宮殿そとすへふさりそ
袋によ入てもれとう紙にさへ川ゝ残総神に宮ゝり権こあ
たくらと幣帛かきつましてもよ函かくし・そのなさほゝ・百武ささ
てくりのて　・ねさこし　・りうか・わさこくしろむ・にはおさ
「花衣とハ衣・むどとこうてもらふ文字に名をいへし
「花鏡とハふハ・大神もれ形よう河里るゝ鏡よゝていなし
「花嘉とハふハ・むのおしきろむとむしろふさるてくゝやあ入へ
言ひしろふちりしくむどのよあり
「花錦とハふハ・むど孫まごそくいへし
「花筵とハふハ・むのさうりとりがさう流を
「花傷とハ言むひと傷をおれし
「花主ハ・むのあるし・むのあるじともいへり

「秋」秋の錦とも云・まつむしのなく野の錦・ちりかゝる浪の錦・へく[illegible]

かりの名所にて・秋の色とも云・[illegible]

「花」秋萩とも云・ちりかゝる花の[illegible]・花さく

もみぢ葉の色を[illegible]・ちるもみぢの[illegible]

と・やしほの色にそむる

「露」露は・こぼるゝ・ちるなと結ぶ・[illegible]

も・雲となりし・[illegible]

うき[illegible]・[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「名所」かやうのくるしき[illegible]山[illegible]と讀り・[illegible]

・[illegible]山[illegible]名所[illegible]

[illegible]

[illegible]山[illegible]と讀り

[illegible]

山 とよめる[illegible]と讀り

[illegible]と讀り

・[illegible]山[illegible]

・[illegible]山 紅葉[illegible]

山[illegible]

[illegible]

・ある所ハゑどよつの橋と付り又　・かもとの跡にさかへあり　・むかし海の浦
ハ色をそへしとも付たり　（其本のさくらと付り）　・なにハの浦　（神の意氣の分りあさくて）　・あしのや
（いそのかみふるころもかり）　・こゝろよし　（松まつ山合せたり）　・とよろきの旅　（旅の泊も付り又）
・まつ又　給ふあせてよあり又　・あさくら川　（ちりせよりそへのこうつろ）
・大井川ハ　落むといふとなれる　・いさゝ川　（ひかりきかれ）　・杉の木
（八重さくら　とよあり）　・まつの大宮　（ひをぬのを　とよあり）
此中にある久保ハ不入川　横斗　真中にも都よりさくら　法れ
さゝ名流をといふ川のかぶるゝ半

野路

・野路ハ　若枝ともおもるとして　野ハ　若枝野也といふり
（定家　同し）　みしく旅も雲も方なれぬるのの松ふ川もの月の夢
凡野路の心ハ　野路ハ雲くるむと　ひろくとおも　赤路にて　すの
まくれ　かりふとし川にかなるたちそれつゝ　のへの橋より

若緑

くもれ・春乃との浅ぢふくまで　りもしくも・わか人乃かれかの久
・かすみのくるのぐてゝんな乃あくかるくなともし
・春の日乃長閑なれ時は　気に春乃ちとやさかゝもるとらふ
春乃日の湯氣とくりいる白ハおよさよし
（万葉　雲に　ありしきて）　家乃なれ　ハてうそせうき白頭て　あそこ　春雉
鶏よりの春と付り糸柳の井をとれハ鶏ならのくしかなきま
こゝのゝ様し
（歌　古今）　春の八鶏か柳にかさ　浅世ハうもとくの（ひ）よかに　あそもす　春
凡若緑乃季氣ハ・こどりの気に残らのけふろくりにて　ひ　かぬれ　柳
めのと深乃糸・日影もたのくせにう・くりかすにの春さくそ
あそぶ・くゝやまくもめそふ・糸柳乃あへゐたくさかなと
よあり真の柳の糸にそへ・又日ハ新兎にくれなかに初むる

よしとなり

遅日

・これハさて春の日のいと永きもおもふとみえて注ニ有り

遅景ハあるゝもくてかく春の日もさへハ冬のいとみじかき人

暮遅・夕ぐれまでハ永くハ冬の日のあさきを思ひてさへいふも永き

永日の気・暖なる気也春の日ハ行ともわかぬ・霞の中ニ永しと云

・長閑てのらりの春日のくるともさえ・春の日のなかくともつと

其ハおかしき・春川なきやそのつれど・虫こゑのいさかんな

と云ものあるべしともよし

三月三日 并 桃花 曲水の宴 上巳

花三月三日にハ桃花を酒ニ浮り・ちよと世の花の盃・幾世

めぐりて春の盃・大かたもひなまつりに桃花のくれなゐの色に今もそ

ひとふる・いしてなりしのむかしすまりし

桃の花ちる・すいかのひ・三月桃のひありかの也・また

ぬるゝ・その日の桃花酒ハ引ける こくろ乃花の濱

曲水の宴ハ・春の川ニ盃うかへて曲水の宴ニ・又の巳乃日曲水

いにしへ上巳の或日ハ・その盃の流るゝニも・盃の流とう川おほ

おもふれ これも水ニ浮て流るゝを又ハ

・こうさめ盃・いかにも鶴・ふるきはずとも盃一凡

てくくる盃・あふれてまう盃かなと

雛家

・すゝれハ日乃むかしより強り紫ハ女子は生れで

新撰集乃稿ハ年のものハそなはりて

くさの乃りて又物名乃色とも

さひとに春の色ハ紫

凡 いせきこれハ山路あれたる跡まかせくらす也又田川ら杜のこ
ふけなしとかも渡りいづれも川にて鳴もらんとあり式ハ
・谷ま植ゑずて山ずまきれも河也・さゞらまきのふかいて
川む・家むまぶどのまぎれ・くれて初声のうきこ小橋
・衣さゝれ立てくり川むじ・ゑきれせさく跡よ一枚あざ・白小笠
・まうきの入乃つがまきれ・夜よき川む・神よ川こらく
・其かむまきれ・むさこれぐさ・又ひより也さこれ・くて也
こされなりよいへさハ植ゑといふ名まのぞそら也・又深あまさまる
奉掃よハ俳家雑誌つがふあさら剣菜かりし
色ハうきも・かうさもて・うさきもうさき也郷りの五
名阪りもくあら許たも・いすさの山路（雑る書に於合合より）・むつさ記
跡（そふかるてよあり）・ま了跡（御記れあさら本をに於り）・ふしこのくへ
門むらり・ふる跡まき（よあり）・こふひ理（みるかきよぞへて）

蛙

・むさし野（ゆうさきのゆかりに蛙なく所さされの身も蛙の声乃花なきて詠り）
うつ川ハ泥つこまかるよし詠り
跡（谷川乃瀬ち瀬とまきのくれて鳴よするひだ急ぎるし）
凡 うつ川ハ水さむ又ハ田よ詠りもえて声あつれまさひしくかまよ
まく秋もとくう鳴よりし・夜のむ乃声所さまむ鳴・永く
さざくれ声さる・池水よさそく所川のハ川乃りうさ
あまさ声乃声もそぞく・うまもむ乃声よ影ふそうくろ・あへ
しうれよ泥えて鳴・水のあさこそ鳴・行き声乃うこれなし
らむ・冬さひき音よ鳴・このもうのも雨鳴（山歌りて）
・宗乃さ河声よ鳴・つく井乃声よ鳴名流の鈴川（雑す語）
日 ・川さ古ひ川 日 ・よし野川（雑合あり）・あさ乃川（よ人）
上 上
川 なく之ぞ揖川（情さ歌まに詠り）・くやの池さくての川それ

れ嫌と（こあり）・大ぬさとの比　打越嫌　これらみなよく嫌ふ処也

苗代

なはしろハ稲のたねをとりまかんとて田子井とかり（きとも種井らかし）

水まかせさて種とひきをこれもよひくまとも種と（かし）

よも種をろもとくも種をまくともこなたの種ともいふ流り

・なはしろをいふハその田の井のめぐりまでをいふとなれし

・水口まつりといふハなはしろをまくせきに入れ水の口に幣をたてゝ

（いぐし五十串とかたわらにどらくもりて　それよりはみなとえきさもん）の花とさとそなたへあの紙とりらず（つかりてもまもしてこゝろとも承れ　同し打ちたるも）

（こゝろともに　初穂したまう川）あし

・どそくしく（種まきなど）とするしもありこれなどせぬもあらく

て乃流井とぞふてまくし

・なはしろの名は種をまくも所とよみ又ハなはしろともいふ

とつくれせきに入るを嘉氣よしとしかるものをくさ鍬

ハつくりとそくろハ早苗とし

苗代のなハ・山川と早苗水まぜるなる・山川まなかつる也

とせきに入る・苗代に田にうるうる也と初る・ふるるまにおへしわ

田水中にちりてめぐる歩る也と知・なゑしるゝ枝のことも

なて知・なゑしる也まうら川嶋・なゑしろ返とありある

麦田

・麦の田ハあをきを打ちこして種をうるをさくとぞ

新六帖にハ麦田にすこしとあり

新六方川ぶく井にあかさきあらてこれ多くろまそ（之）

文田とまんとさとあり

同　釣り・山・むきむし・花さくの数又田井・井おろし・植田時をも流り

麦門のおぼへもと山田・ありとを麦のめぐる・麦をあかくる

と行人し・あら田のくさめ・あしたるとくさへもとかへる下令

躑躅

・うつしハ山吹路本俊海辺より深りつじのえハ・うつりし・こゝえのつじ・かりつじ・文つじ・こうつじ・姫つゝ・黒つじ・せつし・岩つじ下しく深り

山吹てハ・あのゝ色と山人入るく他のかけはまへ・山人の風車さきぜりへ浪路乃あ映づし・壽提とふ吹ねのなくしいろこ江る枠姫乃いへ立亭をしはすゞへさる・文ねかげたそへて山ゑてく流

・さのぐ乃中州乃とうりかきへ色く・路へ乃ゆてよかり名きも・たけむとと旦日の花の色より紫の色もさせ花中部おしきまてそてうつれなけし時おりね花紫まずへ白つじハ限りま中へ宮るまへてハつくし名所ハ・とくさきハ乃山吹つしとふてね色とのをはおのまとまれて・とく山吹又とくとくくみくまて

・おくのの岩躑躅のつじ・河原の岩おのやまの岸・ゆくへの岩ゆききの人のとよめり・心のみだれ安しと・玉津よく柱をなみれて露は後合ぬへかりよわん子勝り・岩のしおれ岩寄りと照り

・こやのうへ鳴き濡れ緒・河原の門・綾のつじ・早川世川色つゝし かくり

杜若

・紫よせてひとむらて行るれと遊り

会宗伝統やゝやの昭のの名を持ちる善とこあてもえよりの

昭百 かきつ川てかれて活子生ぎゝ何 これ川のさかんなる

・らきいくさきねはまゝそてとみかしくるかのをの秋まうるを

・かきつ川もくろ白のてて遊り

凡杜若の八橋滝沢川のみも海の義は時よりれへし一くさへ・ゆく春乃くらてともなれ・滝水の新もらてぬ・沢水のくゝろる

てありて淀り。[illegible]よせて八方へ[illegible]

[illegible]よりよりいふなり。[illegible]

[illegible]。又[illegible]も淀り其外。[illegible]

風吹ば波おりかくる。[illegible]

[illegible]

[illegible]

・[illegible]の池でも[illegible]

[illegible]

岸

・岸の字は[illegible]と淀り又[illegible]

[illegible]

・[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

・二字も[illegible]

[illegible]

水[illegible]

・[illegible]

[illegible]

[illegible]水は母とむる。[illegible]

[illegible]

[illegible]

関

[illegible]

・[illegible]

[illegible]きしなかれのすゑにきかむと[illegible]あり

・[illegible]はなかく人あらじよろこひ[illegible]或ハ[illegible]ていふ[illegible]と

[illegible]の[illegible]の[illegible]・[illegible]

[illegible]・[illegible]乃[illegible]の[illegible]・白藤乃むりてえざらむ・[illegible]

のうこ又[illegible]の[illegible]の[illegible]

名所 [illegible]くてまかなしく[illegible]くれ

川・[illegible]の[illegible]と[illegible]・[illegible]

山城の國[illegible]と読り[illegible]の

[illegible]又[illegible]・清滝川[illegible]と読り・[illegible]

又[illegible]・玉川[illegible]又[illegible]の[illegible]・音羽川[illegible]読り

[illegible]の[illegible]・[illegible]川[illegible]・[illegible]ての[illegible]

[illegible]・[illegible]のふの里[illegible]

[illegible]

・藤ハ紫乃ゆかり[illegible]と読り又

[illegible]川の[illegible]も読り

（古今又よみ人しらず）我やとの池乃藤波咲にけり山ほとゝぎすいつかきなかん

（[illegible]）是れ詠る[illegible]乃[illegible]

・松の藤といふハ藤原氏を南家北家京家式家とて四つあり其

中乃北家の藤原氏をいふ・藤の末葉といふハ藤氏の子孫

をいふ又こゝやねの藤もあり

・まつ藤も読れとまれなる大和紫藤と云あり

・藤ハ色を紫にしてゆかりの色と[illegible]

藤乃ひもとかしと読り

・藤ころもといひてハ[illegible]藤の[illegible]読り

藤なみといひてハ[illegible]

ひ・藤のうら[illegible]・[illegible]の藤 浦藤

[illegible]一夜に松[illegible]てより[illegible]松のことりも此

よそに・唐崎の松に有ある松風・たゞ[illegible]松はならひて哉

手せられ・唐崎は松の緑も春[illegible]・[illegible]の松すゞしく風も白

・唐崎と松の[illegible]ところ・松の[illegible]ゆふくれ[illegible]

・松の名の岩根の水に[illegible]なびく・むらさきに松のこえり

も[illegible]ある・住吉に松[illegible]て唐[illegible]・さも雲はくれなゐに

松もこゝろある・[illegible]と松に契りて唐[illegible]名所は・ふる

さごの尾の上の松・[illegible]の松は唐崎の[illegible]・[illegible]との

松・たけくま乃松（二木の松は宮城に侍り）・いづくの松に[illegible]

橋 によせては・[illegible]・[illegible]

みもさゞなみ・唐崎の[illegible]・[illegible]

（名所のとき[illegible]とよめり）[illegible]

池 によせては・[illegible]・[illegible]

乃歳まで[illegible]けて[illegible]・[illegible]の[illegible]・[illegible]

[illegible]ともそむる・[illegible]のかげと[illegible]・[illegible]

滝 ひかりに[illegible]つゝ・滝の[illegible]けり

[illegible]ては・むすぶ[illegible]滝乃白糸[illegible]・滝乃[illegible]

浦 [illegible]ひそふる名所は・[illegible]のびき乃滝よめり

[illegible]には・[illegible]に[illegible]名所は・[illegible]

松の枝に[illegible]名所は・たかき浦（[illegible]と侍り）・[illegible]

（[illegible]て[illegible]と侍り）・[illegible]

（[illegible]とよめり）

湖 には・鳰乃[illegible]・[illegible]の[illegible]

（[illegible]とよめり）

[illegible]侍り

川 には・[illegible]乃[illegible]より[illegible]て[illegible]・川の[illegible]

[illegible]には・[illegible]川[illegible]の川の[illegible]侍り・大井川[illegible]侍り・白川[illegible]

と読 ・宇治川 汀の松を読 ・まさこの鶴 松まさく ・大淀の
り（名とかく読りとも読り　大淀の浦の浪也と読り）・立田川 ・あじろぎ ・清滝川 ・みそ
ぎ川 わきもふかしり
[illegible]子々世にハ ・銭[illegible]のびの[illegible] ・[illegible]人々て立よりてさる ・[illegible]
[illegible]の[illegible]の下[illegible] ・[illegible]ばよ[illegible]てかざひ ゝ ・新[illegible]
[illegible] ・[illegible]の[illegible]まする[illegible] ・[illegible]せしハ[illegible]川ゝも[illegible]て
折 ・[illegible]乃[illegible]八も[illegible] ・[illegible]の[illegible]ハ[illegible]川乃[illegible]
[illegible]てりハ[illegible]ひま[illegible]それよれと読り

暮春

三月九日比より八[illegible]入て暮春とし又三月[illegible]乃九[illegible]と[illegible]
ても[illegible]しく[illegible]て暮春乃[illegible]むハね[illegible]くりきる
八重も入しし又八谷乃[illegible]もしくされと文
暮春ま[illegible]乃名残との[illegible]ていゝて春を[illegible]心の[illegible]

[illegible]八儀[illegible]ありとて[illegible]乃[illegible]せられくちり天[illegible]の[illegible]合
[illegible]もちりて別[illegible]春[illegible]いとも[illegible]
[illegible]ありのし[illegible]と[illegible]春の[illegible]
それも[illegible]しとも[illegible]ひてる乃春乃[illegible]
とそ[illegible]八さと人ハ
[illegible]のこと春と[illegible]ぬ時[illegible]もち[illegible]
新千ちりの川る[illegible]乃[illegible]ても[illegible]春乃[illegible]
[illegible]乃[illegible]てと[illegible]や[illegible]と[illegible]しもん[illegible]と[illegible]
[illegible]れハくし[illegible]や[illegible]春乃[illegible]れハ[illegible]
あしきなるも[illegible]暮春ハ[illegible]も[illegible]
[illegible]暮春のかんハ ・[illegible]りて春も[illegible]ぬ[illegible]れて[illegible]春[illegible]
[illegible] ・[illegible]て[illegible]も[illegible]
・春[illegible]りあり[illegible]てお[illegible]しびん[illegible] ・[illegible] ・春[illegible]

うちかはし・けふのことを春の別とおもふ・雲ぞよそなりけり・あとく
春くるゝ・霞の衣くらゝすれけり・行春の跡くらくとを又暮
はいくら有明の月も帰る・やよひの有明の有明・いげく
ともかくを知る・行方なき春の別・ゆく春の行へ山の別とれ
しむ・雛まつりくれ行春・行春の名ごりと見るらむ・くれ
て行春のかたみし・春のやよりとおもふとまてかりてとめん・くれ
らねみよ行春・こゝろもてくる春・秋のことかはし別・あつ
さらぬよひのわかれ・こゝろつくしのかなしび・この外あれは春の名
ごりともおもひやる・挿頭の花の袖もうつらん・あうもえたんの
ひらもおくれあふ・あやなくはしまの春ときて・けふのことしる
めくる山・山のとの春の月も曇れはさ・霞も名残りし哀れ
・旅人の帰る関の春・行春の名ごりは・ゆく川の水の流れ
春・春もくるゝもの袖・帰るわかれものとくへ

ねのまゝ・我もとの家にいそがん・行水よりもはやくゆける
・おしめども留らぬ春・行春をおしむこゝろ・こしやしたひ・春を
今日をかぎりて行ひまゝ・行春の跡を見てたへる・新
もやもとかれ行春・よしなき春ぞひとへにせ・春くれてものゝ哀
しる寫・しのぶ春の名残そこはかとなき・うつゝにも春の名残そ
とらむ

餘春

・餘春は無常季かはりなし當季は三月晦日なんとし前後はかはりなし
餘春は春の名残のこゝろふくみ也よむべし人詞は三月季に同し
新古今 けふのみと春をおもはぬ時だにも立ことやすき花の陰かは
喜撰 山の下水白の花の香添て春のひかりありけり月の影

三月尽

・三月晦日のはてよつて仏名春季に入べし又去年古今にも同

のんなくみえも穴なれとそれ以矢谷別し
法浅猿かりし世川にて水難もて穴りひ乃志うとりけてふさけ
新艶紀かくれ数りとい穴川との川よりはまさしい涯もの

濱のまさこ夏目録

首夏　更衣　新樹　餘花　杜鵑花
卯花　葵　郭公　早苗　五月五日
菖蒲　橘　五月雨　水鶏　夏月
瞿麦　夏草　照射　蛍　夕顔
蚊遣　蓮　氷室　夕立　蝉
扇　泉　納涼　御祓

[illegible]白雪・なら川よ[illegible]更衣新樹[illegible]
[illegible]流し[illegible]
（[illegible]）

更衣

・更衣ハ四月朔日十月朔日ハ更衣也十月の更衣とよみて[illegible]
[illegible]へて衣もあし・ね衣[illegible]これ
更衣のんハ・春の袷をぬぎかへて[illegible]更衣と[illegible]・むかしはまぐ
[illegible]・ひとへて袷をじる・さりとて更衣よ[illegible]
・[illegible]今日の白がさね・[illegible]
[illegible]夜衣・[illegible]
[illegible]して・むかしの袷の[illegible]
も・[illegible]霞の衣ぬぎ[illegible]・白がさね・いくへの衣・蝉の衣

新樹

・新樹よ[illegible]の[illegible]葉ハ[illegible]べし

[illegible]新樹よ[illegible]
・[illegible]の[illegible]て[illegible]新樹よ[illegible]
[illegible]て[illegible]の[illegible]
一 新樹のんハ・[illegible]の[illegible]も[illegible]
[illegible]の[illegible]
むら友[illegible]・[illegible]
[illegible]・庭の[illegible]・[illegible]
・[illegible]の[illegible]
[illegible]・[illegible]の[illegible]
[illegible]・[illegible]の[illegible]・[illegible]
・[illegible]・青[illegible]・[illegible]
・[illegible]の[illegible]・青[illegible]・[illegible]青
[illegible]・白[illegible]

餘花 并残花

一 夏におくれて咲花・青葉の花咲残る・残入若乃庭ニまた花
遅る・奥ニ守ル春と咲して咲・とまふ名乃遅桜・咲残
花りや夏くらし残入・青葉ニ残りむ遅さくら・やよひの後の
山ざくら・遅さくらめりしやれの色ひくる・夏かなでる
さそくれさる・夏にまでそそくれて白し

卯花

・まくて卯むハ雨ふまるく雪とみどり咲をしうどふひさし世。
ねの色ならふように乃それし其ハ趣向さまはれるなへは卯
さらしとくてもひくくまし清少納言と枕草子ふ云卯花
売りてなふとをくれと実方のおうしら時鳥うけるなくさ
らんと思ふまいと思ひし歌の人々さ同意許さずとうつそとぶ也

の垣ともかくとのるのをまいと云うで候とかくしの花ぞ言
卯垣ハあそしや雪ノ垣根と咲り袖ニ云ハ白布ハ雪乃卯の花
諸卜 卯花卯月のひも咲ようや山かくくて[illegible]
茂木 卯も垣白ゆふかくてそくうしやむの山にしハ花ぞうらん
云はくの浪乃とこハ佐の波まてまし卯花の咲うあるるもかうのハ乃花ぞ
先卯花と詠むハ我ハ・雪ふかく折れる雪（垣ニ見るくさくらそれぞくもきて白）（ささ出り咲るのごとし）
・山人乃枕木ニさせる・山がけ乃垣根つぶさ咲・雪とまぎれ
つきなでさる・青葉ハ咲て咲・雪とまぎれし垣・垣ねとも
ゆる白波・山がけの垣根ともる・おれうつそむらさき・河原
らね垣ねの雪・夏乃夜の月ま卯花の露・夕べ乃垣ねの月
・木の葉さる月夜・卯ハ雪ぞね月影・卯垣白雪かくる卯
花ぞるし（白雪ふまくらさへ） 其外 あかつきのむさとうの花と白ハ（白雲ふるさと 参考あり）
・卯花月夜（月ふまくらそ） ・うの花くもしといふ空卯乃白の名

埜

名所ハあまたありといへども・玉川の里第一の名所なし
[illegible]ありけり ・小野の里 [illegible]
[illegible]の里[illegible] ・[illegible]の里 [illegible]
[illegible]
[illegible]
・[illegible]の[illegible]
[illegible]
川 [illegible]の白川[illegible]白川 ・[illegible]山
[illegible]
・あふひハ[illegible]と[illegible]
[illegible]ハ又[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋 雲の[illegible]流れて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

郭公 讀方及寄和歌式

・[illegible]
[illegible]
・[illegible]
[illegible]

俳云　郭公まちてよりの郭公が伴とらえて志のゝ根をかく

新拾　あやふくまちつけたれし郭公五月にその時となりかゝり

聞くとも八鶯にもうつくしけりて鶯乃かひこの中よりやまさ

とあるよし　又余云二の子鶯のかひこの中の郭公ひとり

まれて　又余　卵をそだてかへしくらくふそでなりん

・ほとゝきす八妻恋乃ふかきをるし何時も今もさと保ともうし

古今　時鳥八何おそきけおもらされ我くらけとは忍ぐらさに

・時鳥は鳴とゝさにわゝさけて血いつもとへり諸あし鳴ゆく能え

をなれどひけるも望の山の時ぞくしくれなゐのよう　生を鳴

・ものゝとゝさ　死出田長（シデノタヲサ）　四手田長　郭公異名也　文段もその色もう

さて農ともそむき鳥とて過時不熟（クワジフジユク）と鳴といへり

翰疑抄　字苑とくれおしも鳴とゝくれてその田かさしもとも給り

・むかし蜀の王の望帝魂が山に飛し　其説也　上時鳥

と從も郷不如帰と鳴といへり　又蜀魂（ショクコン）ともいふも同し

卯月乃比ハよふもむすハ・初音・忍ひ音・うらひきしきる

の空乃谷子鳴・さ月時雨

五月ハ・さみだれの五月雨・雲なかれて鳴・とらふす鳴・百千鳥とかきる（枝ふ）

・五月雨の夜更そて鳴・雲まよひに鳴

六月ハ・まれまなりとも・ふくよりきく

淡合こうる条題ハ・月・五月雨・むら雨・雪（月影立てそのゆうし）

・卯の花・橘・松（卯の花橘ハ夜もやゝりて）松よもやくりて鳴を待り・あふち・くひな・むら

やり・さみたれ

・待ハへ・いふいくる待まさかなり・ねもせて夜更待あかしハへ

・うつてまのこゑやす・おかしもろ川け・雑雲ま物言鳴らん・あま言るを

れよりいりをせ　有明の月まつれなるき・なまこねさうへれなるきた

なり鳴・おりいれの夢をまさうね・无ふれといふなるかな

くらぶ山・夜るの行に稲さしる・なくさぬ人さよの声・ゑらう

このめなうむしく哉（みさくこのめからよりもとねとし見まさのむ　むかし乃時鳥の始終それはこのめて行し）

・すればんとうくせしや・我がねくやいらふらん・忍ぶはねの鳴の

やさしく・かくふすて鳴かぬ（あやしくに行先入川　なりねとし）・雅高ふ村

むら雨・我なくして人も待らん

稲　稲妻乃花は・稲光しすてし人と我をすつる・一声なそれのましく・聲

かくさゆる聲・雲井まちのよ稲妻・こゑ川しも雅に燕庵

待くて人は行そそびしる・一声そは井ミうし

霧　霧は・稲乃の稲ぞあかれしさ・こゑし鳴のかなくりかくくぬ

・いくめの名夜かぶかれん・忍びくあかしてもて鳴・光乃ゆね

めの一聲・天のとみの明ぞ近く鳴・山川のうる遠空に鳴

鶉　鶉は・聲を明ておそれろしのはて鳴・天のとの明てさ

外　外は・こゑそれ時乃名なまめる・くれかくる雲に鳴けり・夕の色

小聲そむる・みえれの雲のくもるに鳴・月と待夕の空は聲

・今一聲へは行て聲す・山の六月なかく聲は鳴

夜　・ころすも稲さる聲ある・梅にやまりて鳴・老なく鳴て立

・やまのあやからき空に鳴・やすらふくるとれてやすさぞふ　五月やま

折らぬ鳴・枕むかろく聲・枕のとに鳴・稲の夜ふくらふ・鳴

一聲に鳴そうしる夜・夜の稲の枕かるぬ・人志川よりて鳴　踏

鳴は夫の・待よひるそ鳴・老いねの宿とあやまる聲・雨乃

かふうく鳴声かとかせても浮べし

月　月は・月とくもり山の端出て鳴・山の端行る月に鳴・月のゆふ

木鳴・雲ゐの月に鳴・月のとく乃名ぶ鳴・有明の月ふう

まれさ一聲・今宵の月をまちて入て鳴・有明の月をいらへ

つくれく・月よりうつ名宿のみね・月ならうれかて鳴

雲　雲は・雲のゆくの一聲・雲井に恋ふ初聲・雲井になきのる

・霞ハ雲井の一声をきゝし・雲霧にすゞみ・五月雨乃雲よりおる
〔雨〕ハ・むら雨のねりいそく鳴・むら雨乃名残とふす・五月雨の
雲ほうりりり哉・五月雨にねれつくる鳴・雨の音しらうかく
・五月雨小月といひてや鳴・夕の雨はつかこひ一鳴
〔山〕ハ・深山といひける独哉・山ふかくさとの哉・深くふかりいけ家
・深山でく宮すれそひる・山里人の親哉・人すみ山にかね鳴
紫のとの嶺のふもと鳴（家の）・我かの山乃雲にかね・山かけいさ鳴
新山乃山にくさ名に鳴ハかとく多し井のかんたく
猶なれかしハ・いかり山（松に読合）・ささかの山（からきより）・音羽山
（枯そろれに鳴と読り）・稲山（おかひさうき）・ささかの山（知そ鳴に読り）
（その山の鳴ひそくる月かすかに読みよう）・ささかの山（鳴を読み）・初瀬山
（空くとかり）・〔川〕・ささの山（夜をもつて）・夫の（なかのまき）・あしの山
（嶺のもとを読合ける）・うゞかす入山（世にさかなる）・うゞきやとよ

ゆと読りそとい一ハ（初うつくさに読あり）・まちかねの山（待兼山と読り）・ときくるの山（鳴と読り）
・小夜中山（ほひのくさと読り）・さゝ程山（時鳥にいそよりそ鳴と読り）・いくやま（こゝのへ）
（よ鳴と読り）・〔雲〕山（音羽と読り）・入さ山（鳴そいふさと云そり）・ゆふの山（雲ま鳴し）
〔森〕ハ・志のゝめく森の梢に鳴・鳴きてとふ森の名残・くれ
つる森のこゑのまに鳴〔名〕所ハ・いくそのゝり（森の名に行くさ読れて鳴と読り）
・わきでこゑ森（なさふかきところの）りとつげそくり・志のでるゝのり（千蛛に鳴とよむ）
・らくこの森（鳴もえていかくことつれり）・老曽森（鳴老とに行音有り）
〔宮〕ハ・鳴移て宮ゆきしり・宮くゝて八つそ鳴かる・宮守行まよ
ほ命てや鳴・鳴鳥のそら海よいおかね・宮のとの明くる鳴
・我かくさ宮と行のりぞ入る（宮もとの絵さよてゝうし）・名所ハ・あしさの宮（松浜会）
・あかよの宮・あゝくゝ乃宮（なおりく鳴ける）（け読り）
〔家名〕ハ・うりとの小鳴・家のまとのあれて来鳴・住士の子
の宿かくる比・旅への松に鳴・竹の舟やまさかなん・母とあて

鳴・音すのりその音すのりてきこゆる　なすのりをいひそへて　・ききとかくるる
さゝへの竹に鳴・籠人の松の梯子に飛つれて鳴　松の根のあたりおりそへてさし
・鶯まくらうきねをそへて鳴・路人の思ひも里出れてなく
・鶯[illegible]の人に初音すのぞ・鶯の[illegible]乃かはらぬ鳴名残をと
くもりし中にも・ここ風のうつり　[illegible]　・音すふかき　[illegible]
わざのこと鶯松まかせ・まろき古鳴　[illegible]　・二月へのうつり
・[illegible]のうへの　[illegible]あり　・ゆりのと　[illegible]
・[illegible]　・まい川もうし鶯待人の[illegible]
里に・里出れて鳴ならのいて　[illegible]　里よ・[illegible]里出れね・山里
にあなたくこうへ・こがさとに[illegible]川[illegible]らん・里とあま
ふかき鳴里とに鳴・里[illegible]くにの[illegible]　鳴里ともあり[illegible]
・里とばかれ鳴られども[illegible]・里なれ[illegible]
[illegible]・里人やまそ残すらん名残・うつゝの里[illegible]

梅

[illegible]・鶯[illegible]乃里　[illegible]の里[illegible]
[illegible]　・[illegible]の里　[illegible]
[illegible]　・[illegible]　[illegible]
[illegible]乃里[illegible]　・[illegible]やの里[illegible]
花流は・紅やくと[illegible]てまかすけ・紅ちろき[illegible]梅まるく
・うりのひかきにおもやどれ
真弁・無懐まうせて[illegible]のこころをひつくるしれの[illegible]くとあ
かれこころもちろをそへねざめの洞をそふるよしとらひ
・[illegible]まよせて[illegible]のぐつかく[illegible]のも[illegible]
人まり川やどの古乃[illegible]ふかくきと[illegible]あり川きの利や
紅て鳴らも・紅き川か[illegible]くしともらしく
梅の花の千十の千八の花もむかしとその時よし　残り梅まよひしと

其のみこと垂仁天皇御時田道間守といふ人におほせて常世の国
に橘をとりにつかはしける間橘とりえて帰りきて
帰朝せし時帝はや崩御なりしかはかなしみにたへかねてしにけるとそ
のみことはいふ又説橘はむかしの花と読ことは漢書に呉の首七
尺々又云橘鉄々絶古袖といふはむかしの袖といふこと云
新古歌「ことしよりはなさく宿の橘のかをとめてなくむかしの人下五す
・さ月まつ花橘といふことみな昔に続て昔花といふは
あやめの花はまた咲出すれは橘といへるんとて昔花といへり
古今「さつきまつ花橘のかをかけはむかしの人の袖のかそする
此ことによりての橘と読り　禁中右近の橘といふ
・右の川よりの袖かをれりと読り　又右近の橘
・ことしめいとの橘日お
元橘は・[illegible]袖のか・むかし[illegible]・[illegible]袖の

・橘のかなつかしのこゝろ袖・風のかほる橘・むかし思ひ・白妙
・橘のもと守る人（実も花もとる事）・橘のうへふる雨さつき・うしろ
（妻戸のもと）のさと人の橘のもとにふる・橘のむかしの雲・橘のかけにまつ・しくくよ
・すりつる川の橘そ・雲まの月（橘の白く咲　ほろと見る）・今年の花ぞ散る（ゑの）
・ひれふる・ひとしきりふく夏・橘はときさへ本として
・[illegible]又植る人[illegible]
早苗人なとと読り
苗代「[illegible]
[illegible]
早苗「[illegible]
苗代[illegible]
元[illegible]

月毎にあれらでいそぐ・降雨の日も風の日もいでいそぎくる哉
・田子のりもそのねらく・小田のうへ田乃数をよぶ・ふくらく
いそぐ田子乃ゆりも数（田子ハ田をうゆる人也 数ハ）・どちをきとに水
せき入れてうゝる苗とる門乃（水せき入るゝ也）・やとをあけてうゑ・いそぐ
うきしらハ稗の田（八乙女の事りをうつく）・まかなきす苗とりかへる・千町田をとく
うへするごと・れふの日もくれぬといそぐ・さなへとり近江の[illegible]
男・うへたてゝ苗あまりてこれ・民のまうさ乃ぞとおもはん・さなへ
よ濁る谷川の水・りつてゝいそぐ親たちハ・小山田よ秋ともの
ゝて早苗かへとる・さなへとりもげの小さまはをとくる
・嘉か・猿田さかし田をよせて八浦の旅人もけはハりしぼりくさそ
さなへとるらしといふ・汁沙波入日をとりしきをぬとそく・みなせ
る波もさなへ乃ゝとり小さかなへをんなもしなとあそべ
又姥田（ぞ）とハいふ・用とうらへて畠ななくらへむしりなり

名所にて猿とハ田をつくる事あへと猿の文社[illegible] ・折田（折の[illegible]）
[illegible]て秋の小田を渡さるゝ
亦とも猿しく川[illegible]・ふるの山田[illegible]・あのゝ[illegible]田
まかなへ・まいの[illegible]
じゃり

五月五日

・五月五日ハあやめと稱し又端午といふとハ端ハはじめなりあさ
めの午といふ五月ハ午の月なれバ五月五日の午ニあたり
る故菖蒲のことをも此日くそなへと取て用ひ来れり
あり仍而菖蒲の酒をそなへり日と記り
・五月五日ハ[illegible]と記し百錬鏡をそなへてまた五月五日
のりて[illegible]ゝといへるゝありゝ
五采（五月五日）[illegible]す[illegible]のすきそくつり[illegible]
・くもを[illegible]の五色の[illegible]てあくそて[illegible]

のきはひとのそらと思ひしもかくらしと玉五月のむと侍り
五月五日ハ・[illegible]もてなしあめつくへとりて文は
ねよれとふおりたてけりとも侍し・そのかはぎぞかきえ
又・文をもくさ花の葉をもれずまあひきらんといひ・好のあ
やめふきさてけり・好のあやめ入かわるれんまかくらんも
つきんきぬひへし・まつのあやめ入らひて[illegible]とりてて
ふくあやめとある・あやめ入かくれしとふあやめ[illegible]
ぶとも軒ばまつくる・あやめひくあふらの[illegible]まきらん

菖蒲

なかき根とてあやめハ根の長さをいふと葉ハ劔をとれ[illegible]のあやめそ
あやめの根ハそのよしあるは良薬とれ云ふるも凡のつと侍り
凡あやめハ・野沢の花[illegible]沼にしかるゝに[illegible]もち
よおりきてりしひちハ[illegible]されと・[illegible]てめ[illegible]

・[illegible]あやめの[illegible]東風そよく
・池のあやめひく[illegible]・[illegible]玉の[illegible]をかく・こよりに侍し
く音あり[illegible]・あやめ[illegible]して時鳥池のあや
あやめ引かれて・[illegible]このあやめ入らるゝに[illegible]
名なし・[illegible]の池をまよせて・[illegible]よりも[illegible]なり
江あり汀・淀川のあやめかる・[illegible]
・いろかの沼・あさかの沼・[illegible]の[illegible]

粽

・清少納言枕草紙にあふちの[illegible]
此五月五日にはみゆるものと侍
・あやめの葉に[illegible]侍り又家のそらも[illegible]よりその
おもひささ乃葉にまく・吹風にあふち[illegible]・時鳥とす

[illegible]こなく・ちる木のあふち・あふち[illegible]しく詠り
名所ハ・[illegible]の あふちなと詠り・くもの林 [illegible]とあふち・[illegible]
さゝのくまあふち・くもの河原[illegible]詠あふち
とよめり

五月雨

凡五月雨乃くれやらぬ心をいはんとて[illegible]乃心より古今の
ことまてくれせぬといひ・五月の日数もとそまぬ空の下にまさり
五月雨よりも詠るんといひてはれま庭もいゝよされ
入江の舟ハ[illegible]てみ川あさき[illegible]あらそふ河の水をそ[illegible]
と詠ハ・[illegible]・れてくらんともされぬ・日数乃[illegible]もされぬ・は
そのゆくきなす・ころもつとふさきるかりのて・久かたのあまく
もこしぬ[illegible]・それからこ月の[illegible]もふとは・[illegible]
[illegible]詠る・あれは[illegible]の[illegible]くの・[illegible]もこもくるゝ・[illegible]

いくら[illegible]浦ハ・[illegible]のかふり[illegible]・とき[illegible]
舟もさゝげてひかれき・[illegible]下も落てふ・五月
[illegible]遊ひても[illegible]・五月雨より[illegible]といひこれ
夏月・又ゆくくれけれ心と詠よハ・五月雨の空いれて月乃くらけき
つれはきゝ心とゆい・詠るかられる[illegible]より[illegible]の月とる
・又五月雨には[illegible]・時鳥・あやめ・さなへハ・[illegible]
・[illegible]・[illegible]・若[illegible]・[illegible]・まこも

水鶏

・たゝく[illegible]とも詠り
凡水鶏ハ[illegible]ひとまねて[illegible]
[illegible]明わまハ[illegible]
・[illegible]鶏ハ天の[illegible]明て後こそ[illegible]

・橘のくあれハとあり橘よりものくる物し

夏木　宗の詠てくと云ひて陰られハ今もそれそれのなれ事也

凡くあれの云かそへて声ところ〳〵の事ありしとなれハ義ハ

・すくしなてく・人とかねやとく事ハ哉夜くあれなかう

らくしふうるてハ・月さうしこうる稜戸くとゝふかくこく・殊も

・いくびう夏わびうれ・やどもさこあれくて・一点ハ宗ふ

まて〳〵るあれ・うさこ〳〵ても宗のあれたといふ六畑とく曲うんま

よそくてい〳〵し・陰会月　松おきの声宗の夫ハ君流ハ・竹

四の里・里の竹風さふふあり

夏月

打越のまの花云式に出

・夏の月ハ山ハうまハいうて宗の鏡りて明るよし・陰り夏の月

ハ山よりうねりぬう稜とこうし夜の明んといへんとそし

新・[illegible]ものゝ初夜ハ鏡りて夏のよハ入しまう行月乃けれ

玉葉　かくもつて月の傾ふくうしら雲入くおもしむ山のくらくなり

古の云かうら所に云ふくして中ふうまあくうんと清ても秋

なるへし

凡夏月ハうら稜きしうさんと流まうむへし又清しきんそ

・さう程もかゝて明ぬる・山のはとゐうれハ明る・よひの中のを云

ハ明さ・明やさし云新・中元を明る・月ハ鏡りてあくるよし

うかぬ・橘のかの明る程れさ・山の色とちて程れさ・一声も山の出

かさまのうるふ明る・さやうさハ秋しよかふ・もなしくもある

・山のたひまとくして出る・あつしさハ秋やうしる・そよ風涼しさ

月影・すゝしさにふ哉秋まかふる・交ハうそうしむかうり涼さ

・家の夜乃さうハ川まて涼る月影（月と水まてそ涼しうんし）・入ハの声のそ

どう夜の月（ちかよのくしうるきりのかれハし）・秋ねよ明ハうしどう夜乃月

・五つ夏の描ハなよふ山　もよせてよむへし　如よ花おもう

ねやゝふんつれども、さしもさきぬれども、さく[illegible]てよりむすぶ
何事乃給ふよしけれバ時乃のしをまひかれて言のうへ[illegible]てらせ
・わすなまるしされど納涼の名前さへ給ふ[illegible]ても無[illegible]れ

瞿麦

・とこなつともいひなでしこともいふ、和名抄に鐘愛（きやうあい）
抽衆草（チウニシユサウニ）故号撫子（カルガユヘニナヅクナデシコト）艶色装千年（エンシヨクヨソホフセンネンヲ）故曰常夏（カルガユヘニイフトコナツ）又大鏡裏書に
深な大臣さろく（おり）しも[illegible]る時流るさらさとくれて[illegible]りしくお
かしろしれハ瞿麦（ナテシコ）御と申しろか甚ふ[illegible]らしくえん[illegible]ろうす
るとありて、今なでしことあつこあてとなけけらハ甚法
いとしく[illegible]そくわてしし[illegible]
・岩なでしこ（岩よりはえる） ・ことのしくなけ（[illegible]）
・姫撫子 ・から撫子・大和撫子・いしの[illegible]
後撰集「君が代の[illegible]日影の[illegible]の[illegible]

なでしこのいや[illegible]日ことに新しく咲るれハ
実家[illegible]いや[illegible]の月乃[illegible]色に[illegible]やとのとなり
元[illegible]ハ[illegible]せて[illegible]ね・[illegible]とも・妹と
[illegible]ね[illegible]・ひとり[illegible]家夜・[illegible]
・和歌の[illegible]ハ[illegible]（[illegible]と[illegible]の[illegible]）・[illegible]
ね・[illegible]なそらへてそ[illegible]たし[illegible]
・かそしこハ子[illegible]そくて・[illegible]それ[illegible]
・[illegible]る・[illegible]風[illegible]せぐ・[illegible]
・[illegible]あり[illegible]を[illegible]・[illegible]の[illegible]の[illegible]
・[illegible]・[illegible]の[illegible]て咲・月[illegible]の[illegible]
・[illegible]・[illegible]の[illegible]・[illegible]へ
・[illegible]咲・[illegible]の[illegible]・[illegible]と[illegible]
・[illegible]我[illegible]・妻白[illegible]・その[illegible]

（さゝ草くさに　くさくさなり）・すゝくさの露　笹によせて（よれり）・ゆきの露　雪によせて（とみなり）
・のどかなる露（のどかなる露ハ夏くさの露にしも嫌り）・ありく露（ありくとも心を寄せて夏とく　どもなり）
・露とおもふものこそ（露のことゝ嫌り）

夏草

・夏くさにふくさのやうと嫌りくさのいろく茂りて夏にをき
・夏くさの露ハしげりあひたる心と冷に嫌り其外秋のくさと
も嫌り
萱草　夏くさの茂るゝ中に秋のはぎせんせきくるなどの気
其外露ハいふくさおいそれと出来りしといふ昔の歌
しげりあひて秋風ともなく心をつくす咲くをかしと嫌り
又まことな川ひめゆりかしとも嫌そへて
几夏草ハ・月おそひてゆく野のくさ根の住さうくかする心といひ

かは川くさのなびくも草木人の折と嫌り・若みの夏草そ
こともつれ・夕立くるれも折られき・八重むぐらしげりてや
どかはくれぬも折る・夏川くさのしげみをとるとふ
ふりなし嫌り其外秋草わか葉きくさ似合の心にて
づくふしもむぐしきれどもかゝる茂れ夏の名にてさぬべきさ
とくハ・夏日秋に夏の雲かのくさを（ふひくるれも）夏
・ふひ秋（みちからもとぬれ）
・むくし（おそれそてなくさえくさ　さしお寄し）・夏やぶ（秋の野川く　かしめくし）・いく秋（ろ）
てらくのたか・みくさ　夏くれの中ふらき　みちのこぐへ
まとふ　夏ゝ夏

鵜川

鵜川　鵜川のうち夏季也
・う川とも鵜川ともいふそでかりに去れどもこ夏しきとくハ
従夏うるとぬさ世のまとのまれ解さらあへぬ狩子明かす
・又鵜もうふハ夏としとあり

夏草

・〳〵 （こゝろくさ こえたくさり） ・すゞくさの露 道にかゝりて ・〳〵 ゆふさの露 [illegible]

・〳〵 のぢする[illegible]夏くさの[illegible] （[illegible]のおそし[illegible]讀り） ・〳〵 [illegible]とおもほせて[illegible]とよめり

・〳〵 [illegible]のこゝろの[illegible]とよめり

・夏くさふかくさのしげりと讀り くさのしげく[illegible]て[illegible]

・夏くさの露は しげりあへると 冷に讀り 其外 秋のくるを も讀り

夢草 夏くさの[illegible]秋の[illegible]せまく[illegible]の氣

其外 [illegible]はいかゞ[illegible]ねと[illegible]の[illegible]し[illegible]音の葉

しげりあひて 秋風をもまつ[illegible]涼しさを かこち讀り

又 [illegible]川 ひめゆり かくしとも 讀り [illegible]

凡 夏草 八 月 おぼひて[illegible]乃くさ花の[illegible]かぶる[illegible]

鴨川

なつ川くさ乃なびくも[illegible]人乃[illegible]より ・[illegible]

こもり[illegible] ・[illegible]かれさ ・八[illegible]むぐら しげきや

よふはゞくかも[illegible] ・なつ川くさの[illegible]とよふ

まなしに讀り 其外[illegible]

づくふもしも しきれどかる[illegible]の[illegible]

・〳〵 [illegible]日[illegible]の[illegible] ・〳〵 ふるひ[illegible]

・〳〵 むさし （おそれなく[illegible]） ・〳〵 [illegible] 秋の[illegible]（かしわあるべし） ・いくおきし

てらくのたか ・〳〵 [illegible]くさ[illegible]のこゝろへ

おもふ

鴨川 鴨川の[illegible]

・うつ川とも[illegible]いく[illegible]

[illegible]

・又[illegible]とよめり

文末「鵜のなる鵜舟に一夜の寝られハ瀬まかせと鮎のゆるさぬ世

同「ちゝる鵜の先まかせ篝火の奥まかくれさりける

鵜川のんハ・月といふハさしも篝の煙やとさとこ河水とよめり

・夕やみにふいてまでいつもかゝり火・平瀬の篝あさしくたた・鵜舟

の棹のさしかへ・瀬々のつくり火などやく（うるさの篠まくうる氏篠などやくやうまくるさ）

たゝみ・鵜くゞる・鵜の出る・鵜飼ハ・さびしくとなふへか

とし其外鵜字和音或ハ出所にもとく寄りし本まさかさ

う河也し・いさ世・大井川・桂川・ひろ川（此上鵜川よ）

かり出之れも桂川とらたれハ鵜かひの此ゆらへてさ

きよしられり（いさ世ハ松まゐとゆく篝より焼り）

くるまと焼り・うつ川よハ（宇治川ニ下と）

なまぬのうらの鵜舟焼り・宇治川まさの流され又ある

へよまあり世てり・大井川を川ら流を甚すか・よしの川（みるれ下れ）

・大川世川なしく焼くてり

照射（ともし）

照射のこゝ和字和音或ハ出

・ともしも寄る袖てハ世わする或ハ鹿よりともしの篝とも云

ハ又ハ自分鹿山をさけてとるんも焼り

さ川さやことりれハ川る・鹿とるともすれ・もゝる・松のひとく

おぐらの松・このしたやみとてらび・ともし火ハ川ちも知る鹿と

とも

さ川・山路ゆより氏みなげなるし（照さの鹿の）・さやまるのひともちの世寺

宿る鹿のあとあかしる（まつ和音鹿もる）・すゞか山の寄る鹿なくて・神かくも山おも

ともしとる・さ川とのう・かり人のしゝと・後の世の事を

はかりが鹿の山ゆりしの影さ寄る・まさとくとハ世すんとうくる・寒

あら山べよ至りあらん・ともし・とる寄る根まうるとく寄せ尻えて

ハ・とぐくらみ（ハくさんまくらりて）貴をとらつれ焼・いさう俺さ山（鹿よわらしてあけさら）いしく俺く山のとりと焼

・うちの山（あおくゞくろぐみてとりもくるんでとあり）・かう川あさ山さえとしのくる川さの山（かたくつるらり）

・くらりし山さ川をあらくろつり・引さよし山（夜まうらりそえくりの鹿もすまとあり）

一あ〻さゝ山 あふさゝ山・つくら山 このもかのもの ・こゝやさ地 （その上 まさき）
（こゝやさ地ま〻の雲） 其ふ小・むさしの・いふかと地ふ 雲浅り
（[illegible]）

一なかくらて雲とかへてくらし

峰雲 音むくも須なり 雲の〻世の又くらし雲の峰やなか尾

雲の通の火しよあり

忠岑 こうりき夜ふよりハ雲の通の火をしこめり（[illegible]）

谷雲ハ・ひろりたる谷とて〻れ（ひろりたき谷といふ [illegible]）・谷水よ

新とう川と・雲ふうき谷とて〻れ・谷のんも足ひあれや（谷の [illegible]）

（の雲と かゝりし）・ミとし渡る谷の絲橋・うくれずのやうけますり（[illegible]）

野雲ハ・まつ〻うふの八乃くまさ字を死雲・ひしり柱み中の雁

よとふ雲・書白跡（[illegible]）・うけの[illegible]

少跡 浅芽う浅会・みなす跡 [illegible]

氷雲之ハ・氷萱かゆ夕みつ りゆ[illegible]・池水の夜すもりゆう〻の
水もりうち恩ひ[illegible]・河[illegible]
・れくうね 夜の[illegible]ひうちて[illegible]・[illegible]
里ふとふ 此浪[illegible]・わ[illegible]くて[illegible]
のうけよくれてわ[illegible]
・河水の坊瀬とて〻波・山川の[illegible]・池のく[illegible]
・瀬川瀬の[illegible]
りひとう川を深く[illegible]・河水よりて[illegible]
しるふ・池水の[illegible]
名沢[illegible]・[illegible]川 ・[illegible]
・清き[illegible]・[illegible]川 ・大井川[illegible]・清滝川
・[illegible]川 [illegible]・新[illegible]・[illegible]
・[illegible]・[illegible]

・たそかれに（深きよ）あくり ・涙の川の流るゝにも ・苦かりの滝 [illegible]

海 名ニハ ・いさり火の海 ・浦はよそへし ・みらくろ海は [illegible]

こゝろも ・もしほくさ ・よりくる [illegible] の [illegible] ・海辺 [illegible]

・波よもぐ海人の [illegible] ・舟よしろく [illegible] と照る 名には

・なみにゆるゝ [illegible] ・小路の浦 [illegible]

・伊勢の海 [illegible] そ [illegible] の浦 [illegible]

湖 名ニハ ・さゞ波 [illegible] ・水まくる [illegible] ・まゝの浦 [illegible]

・さゞ川の浪 [illegible] ・その [illegible]

窓 まきせてハ ・夕やけの [illegible] ・ [illegible] 竹の [illegible]

[illegible]

閨 [illegible]

[illegible]

[illegible] ・秋 [illegible]

[illegible]

[illegible]

夕部

・夕 [illegible]

[illegible]

まとのうくらき清少納言枕草子に文字おもはすも似つかはし
つけたるおかしみある又き蛍の虫して蛍のありさまいとくら
かゝれとも源氏物語夕白ハ詩歌上の部にへぬ細
凡夕白ハ源氏物語夕白の巻にとりてかくしも奇
式ノ子出其外・夕白の垣ほにかくれて・夕くれの宵
・夕白のみおもひや・垣よくめる軒の夕白・夕白の花
・夕白の垣ねの夕白・夕白ハとくる・夕白
きたなく人の家にかくてあり

蚊遣火

・蚊のこゑとよめり
凡蚊遣火ハ人にてかゝるを夕くれ蚊の多きを里の夕
凡蚊やりハ夕くれにたく芦川の辺の夕煙のとほくかすか
より蚊遣なとかくれとも見えてくるも

・夕煙のみとれかれ・くれかゝる芦の屋・一村の蚊やりの煙
煙おもひくゝくれかゝる軒端くらし・蚊やりてとくう
ひ・よ軒のかたへ夕けふり・むらさめの蚊やり
芦川のゆふけふりとくかゝる蚊やり　蚊やりの芦川の蚊やりも
蚊やりのいふせきをとふへし
くらしとして
・夕かの煙ハ・月夜のくもると詠り　・青葉　青ちかき蚊屋のうちより青葉
・夕白・軒はの竹・夕かしく
名所ハ所くの里すむ川ハ蚊やりの名所に詠ても
くるしかる中にも深くあかるゝ名所　・宇治の里
・さかの村　里すむ山里の村と・難波かへくれなり
深山の里のうちにもしかるへし

蓮

東寺塔の池のほとりにてかすかなる芦とあらはしかて
此草夏中にかゝりて其のあたりの好なるに

かゝ宗の僧ハ浄土をあそて参をゑとしてやとんとより細

・こぞめの蓮・野の（さかん）ハ病・千本の蓮・蓮のとき紫・蓮の実

紫・蓮のさらバ・蓮の葉がえき紫・蓮の糸・しロの（か）ら付

・白蓮ちらバ・入日の蓮・池の蓮ハ演会さう独ハ参（なかを）焼り

浄し蓮（なかを焼り）・月・この寺（株ま）し・寺・池水・ゆうりに・法のむ

・らつの浴り合蓮・ちらバ（晩）名所ハ・池の江・あさぎの池

氷室

氷室の事ハ和字和寄式ニ出

几ひひむろハ宮内にてる浄りく夏とより花なりんへといひ冬もて

よりとちりわたしてる　又ひ陰所ハ和言さらかしも焼り

・ひら川まで浴が歩・冬のたゝらり・おりの[illegible]水のゆうる川と

れて浴が路・こしゆう・おりの人川（[illegible]）

やよんハ・ひむろかりる[illegible]・[illegible]の浴家り[illegible]

（きえく）

名所ハ・加茂[illegible]（[illegible]）

（[illegible]）

の（[illegible]）

（これも[illegible]ひむろ）

[illegible]

・[illegible]川の[illegible]

[illegible]

夕立

几夕立ハ・[illegible]夕立・[illegible]夕立・夕[illegible]

夕[illegible]・[illegible]夕立・浴[illegible]・[illegible]

[illegible]の[illegible]

・[illegible]

[illegible]・[illegible]

・[illegible]

・[illegible]のひかり・[illegible]川の[illegible]・[illegible]の[illegible]

てるころ・車せり空かきくもる・夕ぐれのかきくもれかゝる
・おそれの（ゆふ）とふてをとし雷（夕立のふりくる）・森のきさハぐ
・夕立の後にも月・日影さす落る露・くもりみだれさハぐ・そら
く・木の下陰すゞし川・浅きも淀・いそげどもぬるゝ・宮社
雨る・山河のにごる清・旅人のぬれてくる・中川なか
まふひぎきてきる・井ノの里より夕立の風・舟人のよは
ゆふきあわ

蟬

・うつせみ　蟬蛻（うつせみ）虚蟬（うつせみ）とかきうつせみのぬけがらの事なれ
ども今ハ後ハぬけがらにかぎらずいきてゐるせみをもうつせみと
よめり一説せみと蜩（ひぐらし）蟪蛄（けいこ）といふうつせみの声聲とうけ
物なるにこれハなくむしにあてうつせみとよみきてうつせみのは
いにしへよりよみ来り万葉集中不見

うつせみとも詠とあハうつせみらしき（唱）とげりうれけり
らしきんて（世俗歌の）いきてゐるせみともうつせみとも詠ずるもの
後撰うらみてなくはうつせみのなき声秋はつる比
又ぬけがらとよむもあり
古今うつせみなるもうつせみもかへりみ深草の帝の御こゑ

・蟬ハうつくしくしと鳴といへり
（燈花集）とこそつくし聲のさくらうつる梁をやさしと（蟬ハ鳴凡）
凡蟬の声ハ涼しきものにて法文あり落り松
風さそふ聲・声の音かれ（声くらく蟬も）蟬の声のひゞき
木のかげふ・松と梢とる・梢あまりて（蟬の声くらく）
夜かけさせし・梢さハぐ・梢より深く落る声・夜のつれ
よれ鳴・山下とよみ鳴・とうとう鳴（梢てなく）・波も
くれかゝりせみの声（数蟬の声と）しきりて・青葉

・うへせこの木風雅秀 うへせこのはにとて秀のくうれて之のひくよ
名所ともくるしすれも・とうとら山 わらく秋之れ此わすうり多くよむるし
・えいせ山ゆゑくさひゆうま・ハゞくの山 ・とくう山 [illegible]
のなくうさまなりて白家のりう山と涼り ・ふくとろのり [illegible]
ちのの奈もの [illegible] ・志のゑろりつちくみ [illegible]
よ色くうり宮けまゐ とよあり ・さ地ちり川 [illegible] この縁し

扇

・あふきとなすとふる八和漢京山峯扇譬之といふうり
しり又あふきと書することハりくうくし班婕妤といひし
官女團雪扇とつくれり白きことりのます作まうらうは
雪のことくかゝるものうりて團雪扇といふ文ういかりの扇とい
くハぎりのこゝろりとからハふしりとかきし ともいろそうらう似世て施し
丸扇ハ・こね秋うよよ あふきの風の涼さハうるとみ・あふぎの例れ
女のものひてうよふとし

うよふ秋風あふきのつよ八扇のくゝしそれと・涼しさとほかり
せぬる・涼しき風とてむる・あふきの風とてなくれ・うちも
とられぬ・ほおならい・ならうい風あふき・まゐうい風の宿
・絵やうあふき

泉

・むすひをひて涸涼をう 父岩りるとよの涼しさんと浅
みすり泉の影さいハ・水のしみけ 岩りる志みづ川・岩井乃水
・岩うらる志みづ川・板井の志みづ川・松の下の岩りるの水・岩
ゐけ志みづ川 ならしうめうりくるてさらきい川る八うう水筧し
泉のへ八・泉乃水よ 松やむらもとん ひもをぶてさ夜と云つく・む
をぞでこくるもむくしき・松陰よむすぶ・こゝろうりわのまぎ
・岸続りも乃てむきのこひ・結ふての宿も涼し・庭やくの清水

・まとゐして語ふまとゐハ車座く・たそがれの中よ水ながれてくる

・たゝみして語ふたゝみハ畳の上よみなくし

納涼

・納涼には釣殿とも夕涼とよめり

月清（同）とさ云る松よりおりの納涼ハ夜ふくれて語きたりなる

涼た（夕涼）夏ふしひとりなすのふくり秋のくしさハ森の下風

納涼ハ山陰水辺木陰月夜風あかきをしあたゝとよめり

・みなげな杖やかよへる・杖しるしげる山の下陰・山井の松とむすぶ

・山ばよひとり涼しき林陰の・松陰よ夏をわすれて・松風と秋の夢さむる・松陰ほかふもくらし川・涼しさハ秋とも見る夜松風・松よ柳の岩井の水・夏をさ（わすれ）ねとさめる閉け

・すゞみ立る松風・さそわめふかまくの木陰・夏山のあさぐるかりと

・秋にハいつかたよりの涼・月涼し・夜涼・川辺おとよ松枯風・月影も秋をしらず・さそハるゝ夜さむくね・秋あふて枕よおくろく・ひとりさめ風ふくり涼しき・衣打も音ふ川よ水やなかれて・夕陰涼し・川邑・川風のかる沢涼しき・秋や今底よりそふる川水・涼しさぞ竹の下風・おきよりも涼しき竹乃夜風春にあすきいのいつまも風涼みかゝうてよむへし

御祓

・荒和祓（アラニコノハラヘ）神のみそぎと云ふ一説神をなごめて送り奉る（読とをなくそとも云）・名越祓（ナゴシノハラヘ）（一説ニ川と云ふとよめり）又（やかわくるゝ）・夏祓（六月晦日の）・六月祓（同上）

荒和祓（同前）谷くハみなりのとえても大くるしなり川辺のんと与みハ和汁麻の葉よのせて・とりて川名をもちて有川に流ご御祓とする

名越祓（季夏）「川ぞふ川瀬の流乃夏ハ今日くれぬと云しもつてもしく」（きさ）

六月祓（千歳）「川ぞへてもおもしやかあらぬ年ハと祓さる門る夏のなれ」

元流祓ハ・祓祓に川瀬とじき・こ祝ちら川瀬よっちゃ会あき流

・夏を家代のひとへ・こるる前ハ川るひとへ・いくつてそてから かさいん 年中行事

くしとあきらかり川やせとこうして川瀬よ・麻乃・祝とき・をけ川ハ上とけるあさの器を用

さそていふしこれハ乃ぐし（あさの器のまゆふとなけぐし）・麻の大ぬさ・あさの葉かれこて（そきさ）

・麻の中のしずし・あさらむとかぬさ川つまて人さとうりて・なかにらの

（猿あさの葉とかへし）猿ちと神ましてあさを・あり／＼る神ハ・さ＿を大付神ハ大ハ

くぐさし

のとくお川すら・流祓して会のみけなと誰つ・ぬく乃ん中ハ こきよ

かりきれし

き流すこころざしとる・うきうすとうけ川ハ付・おきさらしすへ大ハきき

・あさのいふ色ふとかそてつくくさかそでおそあさの中ハ こそし こかて ひかすん代

をといのなりふのて祓ぐさ・よのとぐとうし給 をおぐらして父さよ

かろき・川瀬の水みなか川そて ちかさもかりとはれ・人なさと

まこさいざきとる・千年のぞこそききも和として よりゆ名流ぶて

おかし・中すふも・なごしのりうこ川瀬の祓りの・川をとこの表

祝とらこえてより又加茂川と・かすふハ分かい人をそてをかるとよりも

かゝとあらかひて見とりゆとかも会より

・みそのく流るなふふお流・ふらかる乃とと祓川なきの ときき

（余くり）

きのそしよりし・もととのにてもてこりの祓祓ハさるきのそとにしる

ところくし

あかつれのハ流祓かれハ・加茂川うれらは・川くろし川

流祓よとる交ゆおるる流祓と 流会くり

ここところ小ゆまよある名流なり

ならしとこれほと河さて流祓と流り・おもし川たなてこる流ふの内

・ならの小川松みまりかもそら・なかの小川流しきん・ふらのの川

（白ゆふなひもと）（ようしなり）

・ささよつさ川家・川けいのけふらけ家・かきら川

・みそぎ川 祓凡のそり川の名あ かなかちよしと き

（なりとこうさもて祓り）

美のうしさゝ秋目録

立秋　初秋　七夕　秋風　荻
萩　薄　女郎花　苅萱　蘭
葛　草花　露　秋夕　虫
鹿　稲妻　雁　霧　月
駒迎　稲　鴫　鶉　擣衣
九月九日　菊　紅葉　暮秋　九月尽

[illegible]

実のをしさこ秋目録

立秋
初秋
七夕
秋風
荻

萩
薄
女郎花
苅萱
蘭

葛
草花
露
秋夕
虫

鹿
稲妻
雁
霧
月

鶺鴒
稲
鴫
鶉
擣衣

九月九日
菊
紅葉
暮秋
九月尽

濱乃まさこ　秋

立秋、（早秋 初秋）　右三ツハ古趣の中初学和哥式ニ出

・秋くるとしらすや風乃身にしむとよめり

後拾　蝉乃こゑ秋をそ乃衣うちかふやうてとおしむ風のをとけ

・秋くるよりや物あはれなるよし　[illegible]

千載　秋のくるしきの中の下風はさらそふ袖ハあはれなりけり

・秋くるとは風乃をとかはりけり

古今　秋きぬとめにハさやかに見えねとも風のおとにそ驚かれぬる

・秋くるより袖のあはれし

新拾　秋きぬと思ひもあへぬ衣手乃さつかへしにおいかなん

・立秋初秋よ一葉ちるといふハ初秋ハ桐の葉乃一葉ちりそむる
これと一葉乃秋とも詠り或ハ梢の葉梧乃葉の一葉ちるよし

嫌り 仍一字あるといへハ初秋まてなりといへとも
・はつあきとハ初秋ならてハ入りかたきものなれハまねて[illegible]
これも初秋なるへし
・荻の葉ハ立秋乃朝よりあるとて[illegible]よし 嫌り
・萩ハ初秋よりもさくよし 嫌り 苔むしの中にも[illegible]
山ほとゝて立秋のれいを嫌ふよハ・山風なとのやうなるハ・川に[illegible]
さゝねの松もとゝる川る 名所まてハ[illegible]
名所なれハ立秋初秋よもとゝふませあり ・[illegible]
[illegible]ハ秋の[illegible]嫌り ・[illegible]
[illegible] ・[illegible]山[illegible]
其外秋ハ[illegible]名所の山[illegible]
[illegible]名所とりとて[illegible]
の[illegible]とよそて[illegible]
野分 ・[illegible] ・萩の[illegible]

・野分の風よ秋かぜ川・なんひくおきらの秋の野風・家ちりて
むるゝ名所ハ・こゑやさき 萩をきくとさ名所なれハ立秋初秋なる 嫌り
・おくさきのへ 秋風と[illegible]よりハいとく[illegible]
・宮城野 苔むしと[illegible]名所なれハ[illegible]
山野 秋さそ[illegible]の・野[illegible]の山野[illegible]
又萩ともよみ
もろかり其外名所の名[illegible]山の[illegible]
紅葉ハ[illegible]ハ秋の色[illegible]白妙[illegible]
の舞のかりもんせよ 秋ハ風の[illegible] ・[illegible]
[illegible]の[illegible]松風[illegible]松の[illegible]
くる・[illegible]山[illegible]立そむる ・秋風よ入江の[illegible]
名所ハ・[illegible]風[illegible] ・[illegible]の浦
[illegible]の浦[illegible]
・[illegible]の浜 秋風の[illegible] ・[illegible]の[illegible]

よすがら八雨にけの露をこゑもろくなりつれ[illegible]・長かつつ
よ河てりもろこし竹そよぐ蟀よ哉
こゑても秋恋の夕風とりもしへし

〽長か・八重むぐら蓬にやどるふ秋くさ・まおもかうし幸
のれもやどりて・くれ竹の一夜まかる秋風・お家むる秋
かさにゑり・たゞし鳴さ秋れ・萩の葉の秋のくれいぜ
・いとやも秋さそいそれ・あらりそむつ・お[illegible]そ[illegible]しる
・くれ竹のよ露をしめ・秋しいへバあみさ涸・このねね
る萩乃風・うしろさかしさ秋風うしもとゝれとお
のらふを・雨ゑ枕の夜とむかすれ秋たかしくりて
てらふし（こりよし）
・秋きていくるもあらぬ秋のんし秋さそ・秋深ぞあくらう
が家・ゑるの竹あひとまり（二のちくの色し）

殘暑
お秋ふお恋のてうお清水

〽殘暑ハ・秋風乃吹もつよく夜つらぬ哉・宿かれも河社
むすぶ・秋きても猶風とまり・秋きてもあつさぬ（もえかさし）
（ちりゆきてありし閑涼むゝ）・夜乃衣もぬぎぞの秋・秋きてもあつの風さ
のむ・あつさも夏のまぎハ哉

七夕
男をハひこぼし女をかぢハひめといふ七夕二の星、
あふていふかさゝぎ河ハ七夕河まくのかさゝぎのはし
とりしげまとりの舞ることひの影（あれハ釜るいのきし）・（世ほしとほし）ひとて河ほ（月上）
つまむかへ舟とハ書とかうふる舟し
一七夕乃年に一粒乃あふるハ神代よりそしめそ　しとし（八雲御抄）
百栄千天地乃ひらけ時より天河のひらひとて一年に夜あう哉
一八雲御抄星合ハ七月入て後といふ説あり秋始

万葉十七「七夕の舟のりすらしまそかゝみ清き月夜に雲たちわたる（此八雲御抄に七日の月入て後也と）

月ハいりぬれど星のくまなくさやかなるといへりかゝるときを（いふ説あれと又万葉家持卿の歌ハ八月の入ぬるをみんは／あやまれいなとしあれハ当説とすへきや）

一 七夕の橋の事 ・かさゝぎのはし 今按天河にかさゝぎあつまりて

うちてはねをならべてはしとなれしこれをかさゝぎのはしといふ

乃そしともかさゝきのはあひのそしともいへりはしおもふべき

つゝくさとしも誤り・万葉の橋八雲御抄に万葉八をくしハア

ともふあるにあるにさとハあつまれいふしときを

・玉はし（雲の玉ハしともいへり／玉ハ添かくる詞）・うらはし 云 鵲の羽

一 天河の事 ・此川ハ川瀬八十ありといへりねえどうつる水と

あり（八雲御抄）八十瀬の舟八十のみなど（八十の舟）

わたし守あるとて舟ふも天の川より天の川おさやかと川 天川と

かけと誤り又八雲御抄に天のがハさとさわたるにあるなハ雑ふ

らハえしつよう川てく近きなしと誤りと云々

一 七夕の舟ハさほ舟 くれ舟 天の川舟 つまむかへ舟 万葉の

ふみき舟 川のこなたの 天の岩舟 あまとふ舟 八十瀬の舟なと

とよめり

一 七夕のとりてハ五百機（イホハタ）とよめり

万葉「七夕のいほはたてゝおるぬのゝあきさりころもたれかとりみん

八雲御抄にてうきゝある白衣法衣も ゆふなるかたとよ

めるハ非説ナ七夕ハはたをおりてといふ衣とよめるこそ言語道断（ゴンゴダウダン）なり

兆のほかなりとよくに 機の糸七夕のすきて妹（イモ）らそとへいふす

是木女川とる機乃七夕にまつりとおもえあまつあるねの夕くれ

かぢのはの紫からの紫にくる玉川さたかし誤り

一 ねがひの糸乃事 五色乃糸をさゝかにて星に手向てねがい

事を祈るふし 或説子といのりいのちながゝらんことをねがふといへり

願ひの糸さゝぐるいと又うつしつる糸とも號り

一 牽牛七夕まつりける糸の末久て年ゆとたよくらひやわらくん

一 七夕祭ハ竹のさへ（るくせ心）の世話くる施酒筆硯針糸衣あさ

具からくつりの衣服のさゝひ又琴笛とそへ願ひの糸を

竹なま竹どてんじ香をてさ弐ハ諸つくり和哥を添し

女ハどのゝてわざとなしてたしくるしられと乞巧奠（きかうでん）といふ

一 七夕ハ天川あふ歌なしつひつれハ七夕といふもしおかし

風雅 天河あふ世にふとくる白波ハいく世をかけしなくりさうらん

凡七夕の名ハ一年乃侍をさゝんあふ歎乃これしさわかれ乃恋

のかくらりますてされ人の世乃ならりふうくて思ひやり又ハ哀

世うらわちらとらむやとむげほひあし衣うし願ひの糸

止うくらなしくさ海ゞくしさもな六・一年といふうづ（一年ふつる逢）れにうう

まひとりふまとし・糸よ結らり・天河年乃わたり・年よまれを

をちかへり・年ニ一夜・一年ニ一度あふね・天河年の渡りとこ

ひもとくる・七夕のむつごと乃むしろ・七夕の御衣むすむ

・星の契よりそふ・七夕のくれを待る・秋ふのくれを待ふ

こ・七夕乃としにあふ世（天河によせて）・七夕の行会乃空・七夕の

衣の川ま（てらよ）霧ニ色・二乃天乃川衣・七夕の雲の衣・うらめ

づらしき星の衣・稲ハ雲井乃星合・雲の上てそて行合の空

・七夕のちりのちかり（とかりの船）・天の川よりきぬぞそそ・天

川あさせむしまふ彩ふくる・天川とりひかりやせ・八十の舟

と云ふ（流舟ハ七夕の舟を）天川よあり・天川よわたる舟・天のり

りての岩まりまくら・あふせハさゝ宮らくて・星合の契とかく川

せき流水・星合の夕際さ・あふ瀬ほせね天川・天川乃舟の

舟也・こわたる舟乃かぢのハ・いそぎよせまく（八重流扱ふすらくハ我この心とろん）

夜須・あふ世も乃けとの衣・天の古床打つる・星合のふ

こ

けふの空・まつりの座によす琴（七夕まつりの座によす ことてかうし）・庭の竹（七夕に竹たつる）
・年をへだてしかふ系・七夕の秋のあふぎ・あくるわびし
き星合の衣・天川たくさの舟（の舟し）・あくる程れる
・かちわたりの関・天のかはきりわたれ・かくる鵲のはし
七夕は後会、過、・萩・星むかへ・宵・ことゝなすへし
むらぞゐる・鶴が巾（巳上七夕のことをいふ）・川ぐくさ（一夜橋といふ又天川にかけくさ）
えりげまく水の・いね（わあひのまきちのうへとあかの橋みわ）
びまあくさし（あひのうせとしてあかれ七夕の行合ませ）
てらふ・ちくさのむ・萩・うらの系・竹（竹のすゝかけて後 まへ あつねまのう）
も きこり 又ねそひの ・あふぎ（あふきを金にませ）・衣（くらし 又うたとも）
あまくさし（又七夕よりそうし）・琴（ひきそへしむるよりさしとひひ）・糸（わかひの糸 又いハ）
ゆふのいとひて（又ハそへしくしても）・さゝがにの糸（わかひの糸よりけるあふるにとひひ又）
おりの衣きはみよせても（七夕の糸よりわかひのくものふるまひも）
・ひくさとんむし（七夕のよわかるまをとう）・ひくさのそら
・かざまつりの上日・川上日・雲（衣をまとて又うすまぬひく雲れ）・みそう（衣文 元ま）

和近き和哥のちぬ和哥家出

ささり赤氣とゆひ又七夕のとがりまゑそて又天の川きらとも

名所ハ・天の川（河内の天川天上の天川よりいふそし）・かさゝぎ（あまのかはらの子とあり）

・あふ会の瀬（名よし嘶ふ）・紅葉の浴（あふ会の瀬をとあり）・紅葉のはしのひとさ乃

滝（七夕まつりてさゝげたる）ねのかとり

萩

・八重原抄に庭中水邊にもあくへしと云 又渚野にもよめり

・萩ハ秋三月に渡て物よくされと別して物に秋くるよりそよとくらしてあはれまさりむ（すちは）添り

・萩ハいづくの庭にもあふれとさかんとるしとる物か野ハ宮城野もふかくよふよかあり

・萩は葛と添て風なきさは立之し 或説萩は風にかゝるぞ七とくとよまれハ花のんこりをいひり 和歌（すなはち）の先達記

後千 我秋ハ萩の上葉乃ゆふくれや てらおくらし風露こほるゝ

新拾 ひとりゐて大かちむこ宿ハ秋さひし 萩の上風乃聲を恋ふる

・萩ハ風乃やとりと諺り

新千 [illegible]川ハ風乃やとりと聞やうそ 聲まてふくるる花の下ふく

・なまいけさとし諺り

喜撰 なるかい川る入江の萩乃上葉と結ひもつてねあらき乃下々そ

元 萩よハ風とてふらすあの萩のみさひ風のさひしくふかしかも

なみ・とともらむ・ちそり行さ・ととてさへ[illegible]

・露ちらん・秋よも露乃こほるて（萩の上葉の露と咲けつ小さて 萩の葉の露ハ秋さら露）

のそわそ・萩すらちくとさつ・萩のとととも露もいとひね

・実人まずる（萩のそよめくそと 人のちるるにまかれし）・風吹ハあらしや次よえるし

川さ・松風ゆふよむ音さこそ・うさ秋ハ見せてなく・紫け

の風（紫ときハ吹むちるし）・萩すさ川辺の萩原 一面乃[illegible]

・かすさ露まくら秋きしく・たよりさ萩の友・枕露[illegible]

の音・宮との花ふりさ萩のとし・きさおさ（萩の下家風の下）

名所・いそくの小路（秋さ[illegible]小路しよりけり）・しさ[illegible]秋

（[illegible]）ひの・[illegible]やさ野（秋[illegible]と諺りと[illegible]）・いたく[illegible]

（[illegible]人の[illegible]）なれくとよりけり・のちのさの原（[illegible]）・[illegible]

川ふたかる（井の手[illegible]萩の江色とよりけり）・十ちの浦（[illegible]の萩）・[illegible]

（せそ露もむさ[illegible]）

萩

・八重居抄ニ白ふしとそりききらる不及左右（萩ハ[illegible]）

又家 千をひくまゝ野よ白きを秋末家ふう[illegible]

・同抄りしあくハ下のあくとし一[illegible]ハ[illegible]

古今[illegible]野乃りしあくの[illegible]萩家と[illegible]風[illegible]

・月抄　鹿の妻ハ萩とまろかくさとよりむつましくもいふてし言
是非ハ定し　但方ハうくの秋すゝきの下鳴鹿をつまに
うふらくかとしるり也や男鹿の川まかんと妻とよし
て詠し　けんハ萩ハ鹿のつましといりくし秋萩ハ妻一又ハ（つまくしいとたいりとのんたらり）
万葉　かな鳴まきもしかさ鳴を川萩のされ妻といふ
・月抄　源氏ハさとうの妻ある萩の露ふもとよりとき
・同抄　さとしうのむほおよらるき　ひう又ちうのさ
うしいふかさしのそきをすひともとり（むすさけハ鹿の上／もしられし）
・きさかむきりしいふ八萩ときめく萩の色の袖もうつさとに
ぬまいかさりてもたれき萩とをかみの
万葉　植よしの庭宝との玉萩りてすくにハ衣にうつさめ
・其外　小萩・まろさ・ま萩・こ萩（あいくし萩と注り）・萩乃下川む
・ふるえの萩・うらさしの萩・萩のみしさハ・萩の古枝・萩の

下露・秋萩・のへの萩原・花の錦秋原なとゝ注り
萩とおもふもしさてハ・秋の野ふさうぞかれし・拵鹿（いかさましひとく）
も萩のふしまうちかくと　・むのふ
さしうしかさ・萩のうしき・露は浅ふ萩（えんかれとも／写の柳し花の色の）
萩より露にちかりり・白露のもりてつさる（あくふふらね）
べさ萩乃露・露たうしいそでまわん・露梢ハ露やこ
もれん・秋萩の露子ぬれてる衣ま・露子まちく・つゆ
ありける萩の枝・露子ちかうえぬ・白露の世なきうち萩
・白露のこかれて白ハ・むしくきけとふくてくる露・萩の下
紫とそむるにほひともる・露ふて萩く花川す女の
・ともしふかさへき萩の露（けんもさくハ／何ぬくさし）其外露吹ちょうハ秋風
とうしとしくらる又风いく妻乱のもりいさんも
同・とよ世てハ・花ふとかたる萩の露・あふらと妹乃土柴

まくらやどりに・秋萩塗のさやどる・月影にちる萩の露
みて後・月もやどれる露の萩原
野萩ハ・跡をこまどりかつらよしとかひ・さそうけ云ふしひ萩
（野の萩）・のべ乃萩原・みやこ乃ふりさき・秋萩のむらさき衣
手折枕・秋のゝ乃萩乃うりいち・萩の花乃枕くさ
名所ハ・もとくらの里にも名をくらき萩ハこうやき跡（萩子寺 一のえは）
（おもひのまゝ萩花の下に鹿月なし）いつせ跡（約なえかし よりの約出）
（まくらよくおいでなり）
そでにあり・しきりのはしくさにさしあはせてよりあり（萩のひくさき）
・むしが跡（むしもなくれはあはれなり）（萩の花にも）・むしきし跡（かくれなり）
・さぐ跡（萩の声とはさくれきんども浅り）・さみ跡（まくらきく声と浅り）
・ひく跡（萩よりあり）（ふく衣にあはせて）・武蔵野跡（まとなき名にそれよりもいとよりあり）
・ひら跡（萩よりあり）（萩とまり枕を）
水辺ハ・萩の下水にまくらる・みしき浅り（[illegible]）

ちりの家・むくさき乃花の末ぐらき名所・あけの（あけのちりにて）
（川とこまり萩にみえしきもの名にしてく露とまの露）（なりれもこまたなくといひ又月影をとりなる）
・萩のひまこのゝさき（ひきりてかまするへくなり）（布引と布に別て）
名所ハ・人とふねすくきに浅る・秋やどおちつてなくいる
・鹿のねぐらし（宿の萩なれハ）（たちと色なく）又人の待に折てしやうかし浅き
・庭の萩原・宮人のなくし名所ハ・とくらの里（にはなてはさうれ）
（なかと浅り）・むさかりの里（さやうの花の中は浅り）（村里）・玉川の里
（いわしの玉川）・そでかりの里

蕣

・おもひハ草の末にしるし あさかほハ 花よなかひくさ人と
手折く袖に似るハおもひぐ袖ともまねくにも見浅りする
くさ乃秋とも浅り

夜寒｜秋の夜の寒さの寒さ身にしみて・まね・袖さむし・夜さむ
かなしとは枕し涙の中におちつまり
新古　さよしくの入秋乃寒衣かさねても妹のは衣ません
・衣のうちとさのんし大方年ふりてねよし涙のうつろひて涙
うつろひもあり涙は秋の夜のさへ・いひつし・いひより
・おもひの寒・秋の夜のあはれ（とかく）・うちとの寒さの夜すからに（わかこかりける）
おもひ　秋のあはれ（さかし）入日に三色の寒かけて長閑なるおもひかけ
尤　おもひは夜ふけてひく寒気のかたしろきよしなとふし・おもひて
なかし吹風（かひくれし）しぐれて聞・我寒年ふりて秋・風すさまじき
寒・こぬ人まねく・夜まねく・旅ね（こてこ）よしくれ
く・夕暮の夜寒のおとひく・おもひくるめく枕に・一とせむくら
荒れかし・山田のくろのむしく寒・おもひは秋はとく・夜・夕
寒まさる衣くる袖・衣のおもひの後（ならさて）・その衣のうつし寒（かなしく）

ひころ（ひろく）文
後合｜隙のんするも用・老いたひ寒（おもひの）ころ・衣の（かさね）ころ・うつし寒
後合ふる拙い・風・音・月・寒（おもひの袖よとく寒と拙）
うつく・ハ・むし・寒く・寒ぬすれ（おもひ袖の聞ゆるあくうり）かく（かうこうり）
・おもひかりと乃世ひくそし（夏緑の寒りより旅よりまよひのすし）
名所｜ハるもそく（良枝よ衣ひへゐ）むかしの寒のかとかく
・おもひくさの山（ふれけり）衣の寒を・稲そく乃とかめくのいと
衣のふとひふ名ふる似るを（おもまねくへ寒）・衣の寒の中の寒
物まりそく社とまねくと涙・くるもとの山跡（されてくふくろうその）
・さか跡｜おもの寒さのれきくよふ・くしもの跡・鹿と寒・いとひ跡 文旦
（京の寒と）・よまりせそり（かよりせそり）・お跡（鹿寒かうり）
なかんそう｜まきく（よまりくわ）・かう跡｜後会ふり・あさの大跡・寒の旅ね寒く
・とふさきとの寒さく（ちわかとわさ）・もそのちのこん
跡｜浦波まぐ寒く（鹿寒）・むさしの（とうかそくてり）・かう跡（鹿と後）・かの枝そてゆ寒 稲まさ
・いく跡｜（うちまれく）ひ人のいくせの・いう跡（ゆそり）・その後（なかひのかとそこう）
（てころて文）（てうは後会）・あしもの寒（まさるの寒そくころさの）・ようしの門

一夜さそろゑ荒（ともあり）・よの入にかくくさ[illegible]て度（かくし淡へ）

女郎花　（淡へこもとの武士也）

をみなへし多かるのへ（[illegible]）・[illegible]かる[illegible]

ひく・おもいね[illegible]・[illegible]

八幡の守へ（ろくてきん）・[illegible]

とく[illegible]・女の[illegible]

とくる・白くるの[illegible]一夜れん・[illegible]

（なるよさとふ）・秋萩よふしく[illegible]

わの[illegible]

なへし[illegible]

[illegible]の[illegible]のまへ・

それとも[illegible]文

・[illegible]白露とゝ[illegible]の

[illegible]秋[illegible]

[illegible]・荻・月・[illegible]

[illegible]淡り

の[illegible]淡り・[illegible]

[illegible]

あ[illegible]の大[illegible]・[illegible]

[illegible]

・[illegible]

・[illegible]の川[illegible]夜の[illegible]

新萩

・[illegible]淡り

桑[illegible]秋[illegible]

紫

（まさ紫／紫草）山路にや野辺にはまさくらん［illegible］

花うへや［illegible］ときめくゆかりしより・ふかく染てもゆかり

［illegible］・むらさきつまもふかく・あさき紫は［illegible］これをか・お

れくさ・色が紫［illegible］・むさし野の男かかり

てつみける・深く染る袖は・月・雪・花・ゆかり

名所は・むさしの［illegible］のゆかりの人の［illegible］・許路（同）・真

は・あさき川路・［illegible］・あさき［illegible］かたをすすり

・［illegible］家でよみつつ鄭声といふ色を

りみ人［illegible］といひし女家に紫といへり［illegible］

［illegible］紫は［illegible］家に［illegible］

ひともとゆへ［illegible］

のとりふこしあれはそれと詠ず世にいつ［illegible］

［illegible］

［illegible］

・［illegible］・白家に白ひ［illegible］

・［illegible］

［illegible］

・［illegible］

・［illegible］

名所は・［illegible］

・［illegible］

・［illegible］

うけかとんゑも秋
うら

葛

・葛ハ夏のすゑより秋風ふきてうら〳〵ひるかへるがゆへに秋風ふかれてうらみともよまれり又論語より（がし）いろ〳〵とそむるよし又くずかづらといひてハくさゐかづらもしらぬなき世中のくずもかへる川るようといの新古今ニ河くきのとうの葛葉も名付て今歌よく此秋の葛風夜葉秋こそあてらるゝさかの葛かつ風起きうりうつゝ人公都秋ニ至つ世の行の中のまさかりかくしの中の振りうちをれとも風くるといふ是寄ふ姫都をかもハひくるよし浅り風ほかれ葉のとうおりそひいろ〳〵いふしもそなうらむひれと此うるまり・秋風の吹とうらむる・吹わくるも葛の葉の風

・白露にもみぢく〳〵葛くもの葉さらの色の　・都ハよそに一むかしをちこちぐ
ふ（吹くいそ）世よとさし　・萩のいろさとふりかくるゝ　・うらみかくゝ　・これをむらさ
くずも葉　・まくずも葉　・くずかづらのくず　・ゑくずの葛葉
葛のくず原　・葛の下風　・葛のうら葉　・葛の葉の葉ま多あり
読合ある物ハ　・月　・露　・風　・虫　・鹿　ノ　・うら〳〵
名所ハ　・うら嵐山（返り）　・よしの山ハ山（に返り）　・吉野のまくず
くずかづらもよしの山（にまけり）　・うちむれの山ハ（よりあり）　・まの葛
・こゝ（ぬ）のくさの葛の原　・こゝくさの原の　・まのかよりかよひ
さかのとくやまのはまの（かきりのかせ）　・ある浦　・よまくず
名をよせそあらそのあり　（くず葛と返り）　・いまさら葛
・くら野　・くらのくず（文鹿子返人より）　・ひさし野　（くもの葛は又萩を返り）
・まくず原　・くずの原　・ふきくもの葉（うらくず返合）

草花 并秋花

草花とハ秋の草をいふれもあり

（淡右 草也）なにとなく草のゆかりのむらさきの色にもめでゝ花をみるかな

（玉蕊 同）[illegible]

（内籍 同）咲そめし世乃秋かぎりて花 [illegible]

（千秋 同）秋ふかうこそ それ時乃葉にやひハ草のさかりぞ [illegible]

（含弘 同）花むしろ秋まてやく咲まさり [illegible]

（[illegible] 同）秋のハ是れ見くさ乃飾をみれて そうつろひて [illegible]

（[illegible] 同）秋のさかなくを花咲しより色のちくさに [illegible]

・百くさの花・ちくさの花・八ちくさの花・くさのいろ

・ものゝふしく秋の・玉ぼこもちて・[illegible]

・とふ川る心・むのゑく・秋のむみ・[illegible]

・咲むる月もんとに川を真に萩 [illegible]

てりくむ一しる所又あれ

蟲

（玉蟲）[illegible]

（新年）あハれ虫秋のりたの白露かゝる [illegible]

（[illegible]）[illegible]

虫ハ春夏も啼くれと歌ニ虫といへるハ秋也冬ハよわりたるを [illegible]

虫後の虫ハ名別し・あき川さとくさの虫 [illegible]

・虫目ぐれの虫・同虫を [illegible]・夕月ニ鳴て・夕虫 [illegible]

・[illegible]・くさ葉よりうち・風よもさく・虫のなく虫・枕

の虫 [illegible]・[illegible] 乃虫・こゑと虫 [illegible]・虫の枕 [illegible]

・[illegible]・虫の手枕・虫の合・虫のちぎり [illegible]

・虫のめぐし [illegible]・[illegible] 虫の [illegible]

（[illegible]）[illegible]・虫 [illegible]・虫のこゑ [illegible]

・初夕音・音かりくる・荻の音・くさの音・秋の音・秋の夕暮
・音さらぬ音・よのゞゞゝ音・秋のこゑ音・みな本の音・うも
さくる・音ぞこぼるゝ・音ぞさゆる・音の衣・其外
音楽の音ハ就中最情有りといひとく音まふらぬれ後
ひるとも又明ぬさしぬむともいふなき渡り
寝よせてハひりそぶくれバ肩も我やしれ又合を
号やしれにもさふの音打つぬ合も物し湖草の音も
とゞろえてとき嬌るなしとありて又色遊様ハたかくらぶ
乃音よし起くる又音乃ハけれぐさしかてるハ音楽中かくさ
えて渡り所新ハいつとなくも渡くし其ホかいも多渡
かれるハこやさ雅（本でも音かたに）りぬれハ
・ひそし雅（いきよわり）・ふかくさ（音のかくさしに渡り又ころし渡会とう）
あらしの音（新音の新と）・あらし雅（無音多あり）

秋夕

此題ハ古来より秘事也

・秋夕のあはれなる心ハかなしと思ひ物哀れくなからさみけれ
よし〳〵といひ又ハさびしさんともふの文又ハあはれしともさひし
ともいひて気魂乃さびしき様ともあり
強くふかくもおもふこそ何る洞尽いりれし時こそ暮くるゝ夕くれ
（寂蓮）さびしさハ我やとうちひと雅よせもかう秋の夕くれ
（定家）見わたせハ花も紅葉もなかりけり浦乃とまやの秋の夕暮
凡秋夕ハよくよく心得てつかふへしとくハ能り手拙れしさ
んといふもとそかくハ身にもふかもあるハてらしさ
ハさこさ乃世のむくひあるとこよわ又ハ世につまくろう
さ物とかくあそあれんも物のかなしみなしハ雅とまへろん
あとさくて秋くれハ夕暮れも秋の夕べこさとも
いふし其外・かくとそもなき・音ハかなくさんあめう

そふ・うれしさの身にあまる・うきもをしかる身をしれ・夢
ゆくへと思ふれもわかぬわかれしさ・冬こもりし秋の色・うらし
とてもこれゆへたまらぬ・うきもやがてのころたまらぬ・夜風
もやきなどゝみへし・うきかわる身・さりとてもことはりなく川ゞも過
・こんなる契久敷・たよりとなる夕の空もわすれまさる・くるる
木ゞの人もわすれき・さりとては川こもおわれ
「浪合さる枕ハ・雲・風・霧・薄・荻・露・一ノ・うづら
・ちぐさ・松山・竹の上山・こうり・桂川山・浦波・沢辺
川・八宮ひゞき・あさぢふ・よもぎふへ
名所ハ海山野川とかれぞさびしく数あまる名所と飛むへ
しづくも添ふる・ふすの山・ふ川ふ・あ川せ山・ふ
みなと・志賀の浦・すまの浦・あこぎのうら・おきつ浪
・大河のこし海・あ川しほ・まつかげ汁具入へつしくきる

冬

とふ夜ぶ

・むしの聲は枕もとに虫ふるくをそゝろもしゆゑんもなり

後撰 虫「人とやあやむる来の枕にはんなくもまりしめかり

玉葉 同「きりくすとねざめの床とひあはせて枕のあたりにしも鳴

続古今 同「鐘ふりきねざむの気も鳴りかてくかりくふ虫の声

新拾遺 雲「されぐまりとるむしのねもそて雛別ちれ家なかりけん

新勅撰 きて「この夜なんて鶴人なりはやらぬ川は虫声の穴くさ浪鳴く

「松虫は方川とき気まつて人の待川しうれまつ川しし・又
人とうねやしれいその人がまきひまさん川しのかといひ。四人ハ
むかしそる殿ちようむあぬかくなかいも・雁むじやとおいい
とくなにまつ川んふもあり・又忠さにそてもあるなくさら

まつていづれの方で人まつらんと云ふれく松はふりそゝへて
ねのびせし松の松むし・名のみも鈴むしと云ふうれしき声おかしく
も殺り殺秋より鳴きあき秋ふりくたまる海にね松むしとを
び秋もすゝきむ下わたり・鈴むしは木ずゑにつかひとあり
名所ハ・あらし山 鈴むしも有名の ・ときハ山 松虫の峯へ（松まちを）
山の松虫
うつろひなかしと（鈴のねふる 淡人をまよはせてなく 人かくれとうしさ）
よわり ・あづまの 　　・くや野（ほまよはせよわり）
これぞなやの・みやぎさ野（をなるなか人） ・うつゝの里
鈴むし
・ふかくさの里（うらやまさくれつくとはない 淡路の花いたる宮をひろむ） ・もとくしの 松虫えまつ
もゝむしハもぐしとりふみよせて・かりいでいはで・ふりうちしさる
・かりもとてあさ・白露の下からハてぬる・秋の霜は鳴ねかりゆく
かまごふりそよもでむしの声・もそむしの鳴ねかうぜんふう
みしの後のもとむし・ふるきふきうれのもとくり ・ごさくの音
鈴まもそく・松をやつてひのむし（鈴むし 淡路のひとくいふ ）

名所ハ・とやまにかすみつ鈴虫ならぬ・松でまよふ かるもの花もち
・むぐら山 かのよみの名のかぶるの ・かぐそたち 作言葉ゆゑ
ふる社 しげりうら （れいきり）
ろうのひきかり まままだいつ 跡なとせどこまの末を
きりぐすをハいでも竹ときなくて・いうぞ人さまも七ならむ
かとろくを・又さまざまかりし・又詩経ニ七月在
野ニ八月在宇ニ九月在戸ニ十月蟋蟀入我床下とよう
・ゆふべは鳴・ゆふりほまつつ・枕よりつく鳴・よるくのかの下
小鳴・しくちらハ鳴・しらこの下小鳴・うぬハ鳴・ゆふまを
かりて鳴なまりとうりかぐ鳴ハ今宵のあへし枕の下床の下
したにいなき床下のくし ・草をハ虫の初まてりをもへし
名所ハ・いのくさ衣川 さのさとふ ・いのくのとう
宮れのうりかの花宮とうちかうりにと行り 秋のさくの
あとのかりかくのとうの寝たり ・さゞ野 さりくもて
・むのまの原・めぐらよのとの ・くげぶの里 さらぬか
のあのみとよの 　うとくはお鳴

・衣さむしの里　衣さむしとするハ・ふかき心あれバ里宜る
ころもうつハ擣衣とかんミよせて・衣とも秋のよに鳴・衣さむし
とうきひてハさむる・さむけの糸いとさむく村雨ふりくさ
の糸・秀のねかたしさへよあり
名所ハ・二むしく山ニ鉄り
くつわむし　ハ馬のくつわむしにて・駒むかへてのさミしのび
又一種もあり人ふよこ合せいろ
名所ハ・おふさか山（ことびくま）ニ・にしき山ふりしかせて（くつわと鈴）
其外ハ名のむしハ・くれはのくさに鳴・くさハ繁りしとかる
・ころもまきとらく・かたのき衣とも鳴あハさ・夜さむし
とまふく・梅もちくるまつし・夕月のくつわの葉に鳴・ちなか
ちなの友・ものおもひさる妻のあやとるふ・とのかなく
なくむし・くさむしまありかさくミへれ鳴・月夜とくさ

葉のさわさわなつむしわがぶる・ぎりぎりすよまそゞく　きりぎりすハまつむしの色（又きりぎりすといふ）
・轡さわしくひしる・家のすどり鳴・むしのこゑ・こゑく
さわがしつよつりわ・くれてまなる・わ秋のなきかまう
らむ・わ秋さきふ・鳴ねわりさ・鳴ねとひしき
名所ハ・みやぎのゝ原・わ秋のなきはら（みやぎの原）
むしのねもいそなく　・まつ原（ことはのうら）　秋の渡り
よしよしり　・よ野　萩の原（萩人）・むし野（わかうら萩人）
いる所　鹿もつくさまに（萩人）　其外松虫鈴虫くらべてかくしさとう
くつわむしハなまむしとくなる名所ハうよハくしてかわしくしし無
名のむしと混ぐる名所ハ松虫むしでもむし等ハ用ひざる其
ゆくハむしとも家ハまでもむしすわむしいつれもまつる世名
なり松虫むしハ別ニ一名をかさねバ又ともしハ
なげども松むしむしハかまるわ他もあれバし

鹿

・鹿ハ秋ハ野ハ出てしひるハ山ハ入ゆへ字ハ入鹿の詠ゆきさとする歌なりけり
新古〔哥〕明ぬとて野へより山ふ入鹿の跡ふきおくる萩の下かせ
・うひよと鳴と添り
夫木〔哥〕秋ぞとハいなゝきせぬ川捧鹿の[illegible]とりいりし鳴[illegible]
・夢よるると添り
同〔哥〕さうしつ命をこひかの人をやさしととおもひにならくなる
元〔?〕鹿ハ妻こふなりしと詮ず添り・妻こふ・ふまま・ふ[illegible]
ともしかの川邊・つれなき妻ハ[illegible]・月小川よしふ・秋
萩と[illegible]・秋萩とひとり[illegible]・[illegible]
て鹿・捧鹿の妻とふ山・[illegible]のふりしと・[illegible]
いつれの山乃さとしを妻・日秋の[illegible]・[illegible]
のねさそふ[illegible]・秋そそなく[illegible]川なひて鳴・さそ[illegible]

の聲ハ川山・つれなき鳴・[illegible]の紅葉[illegible]・秋の[illegible]
つれと[illegible]妻ハ・秋風ハ聲ハ[illegible]・なくさめ[illegible]との
なく[illegible]鹿子[illegible]・秋[illegible]・[illegible]秋
ふ鹿[illegible]・声の[illegible]月・[illegible]
ひとり[illegible]て・あとふ[illegible]・とこ[illegible]花の聲・山
[illegible]・鹿の声[illegible]・[illegible]
ろくれさそしかの聲・秋まちろき聲・さそしかのあさ
[illegible]谷・秋の[illegible]鳴・[illegible]のかものさと
し[illegible]秋の[illegible]
名所[illegible]・[illegible]山
・[illegible]との[illegible]・[illegible]秋[illegible]月[illegible]の[illegible]
・[illegible]
[illegible]の山　ひぐらしの[illegible]・さよの中山[illegible]鹿

・うつの山　[illegible]　・あつさ

[illegible]

・[illegible]

[illegible]

・[illegible]

[illegible]

・[illegible]

稲妻

凡いなづまハ[illegible]にも[illegible]それとなくてハ秋[illegible]

[illegible]

雁

[illegible]

・一ハ[illegible]

王粲　我[illegible]

・この[illegible]　[illegible]

新千　[illegible]

・一とせハ秋もなかばよな／＼わたりつゝかり

初雁（秋）ハ初声しきりに鳴く・きぬたの秋風の音を知らる夜すがらの旅

其外の声ハ余所気にて小沙汰り

初ハ秋のかぜとこそまくらして鳴と又ハ翔にあらし

かわり・翅のさゝ・さ川の今・今朝ハなつかしき・いろ

しきと鳴てきふかり逢し・河しの初の・今朝鳴ふくろ一ノ

鴫ハ・寝覚の空に鳴也・よく寝ずに帰るしきの・明

くれの空にすゆる・有明の月さ鳴・あさ川きやとの宿る

なく・鴫さかの社の家とぞいふ・沢あをさのれ

鶉ハ・秋のよの明るや鳴そてくるハ・飛わたりけるにねと

ことハ・あさ沖てなかむしさされすくるノ

鹿ハ・又むかふのそれ鳴り・山川のもみぢをふみわけ・ゑく

谷の沖にくれかね・秋の夕の雨をか

ふくり・夕されハ衣すさしり・秋くさのはなのかり

・玉ものゆるでふかくノ（ゑのゆるでハ夕のかるし）

砧ハ・きぬの音よく鳴ノ・やまのう川すま鳴ノ・声ハ一すぢ

ことよもりかん・砧さむひのおり鳴そ鳴・秋の夜のせをも数ふまよ

ふ・ふ若かうす軒の一ノ・おくもりられる妻ノ・嗚ちら

うく鳴てくる其外月かよせてより

月ハ・影見せてハ・ひまつれなき一ノもなかんむやとき・月まよ

こぼる・月ゆかれてくる一ノ・とのつき母すむひ月・み

山月かむそさむる・月かなく一ノ・月さえ渡

ふりの月の夜ゆうこんかむとむ月・月のさえざよかそ

す一ハ月のろそしと数す（まうくべし）・月よ意くる・おきひの月を

ノ・月乃光とり

雲ハ・白雲まよふつむらぶ・雲のゆくへさ・雲龍よ選

雲路とゝもてらる・おもしろくてハおもつれくも・雲路にむせぶ　雲上
しきみ（かゝてくらく）・雲の衣とりそ鳴・くもゐかへりなくなり・雲井
ゆくゝ雲・雲をわけて・浮雲ふかりげさゆる

霧ハ・秋ぎりに川ぞこ立ほこ・きりのまがき・秋ぎりの
晴ゆく空・春の中にハ霞ハ鳴・秋ぎりをへだてゝ
出てゆく・きりこめて・それともしらぬ

嵐ハ・山をひく松・山風に川もさはぎて・雲もちぎれ
・ふりくづる・いくへの山とこえてくる・雲の形おと深
・木の葉のちりてく嶺に鳴

・とやま山（秋ぎりのふとう　の山ぞかくし）・しかの山
みちのく　名所　をぐらなかたの
・たつた山　・よしの山（春の二八六ひの名所　秋の先人なれも春の花の紅葉）
一おく（和歌）・しかせ山（和歌　侍人）・みかさ山（ふく紫ひかうなど）
・あさの山（らもあなすらは　侍今いと注よ）
・ころのとひよりて・ありてくる山（和歌は　侍人）

・こしのすゞゝ・かりの山（日上）・こしの白山（雪ふ被　ぬかり）

雁ハ大かたハ春の帰りハ雲ゐよりわたり秋ハ・雁の声へときわたる
く鳴てくる・雁とびこゆる・雁のなみだ月にむかふくる
け・雲路のとりも鳴かはすも　名所ハ・白川関・勿来の関
・かりの実（おのれがのりは　ありなりあら）

鶉ハ・ノ鳴ての〇のうづらなくる
を野をわけて・ふかくさの里・野の〇のうづらの〇〇
二ノ鳴て野もちゝ原も野辺なる　名所ハ・いはたの小野
（みなのうちの〇〇歌子　鴨おたのわつ〇〇）・こゝのおはせ（せきれのうちの　大鴨とたり）・ひゝなの

鴫ハ・浦をとく鳴てもわたる・やまぶ（さかいろめきらなり）
（小鳴くゆて　余氣とありり）
ぐれのさ葦みまかのふ　鴫のちぎりてゆはら
くる・しづくに鳴・こゝのろみのふかでくる・あゝの

の事なくうして所かゝり　・志ほのせまでぢかさゝく

・浦波よせてもあぐる　名所ハ・なにはかた　あしや（つゝなと体）

もしほ〳〵の浦（又鶴衣の浪　かゝつく）　浦そきくの（浦漕とも作り）・さしの・鶴ゝゝの（で和歌の浦　義子なり）（このゝ浦ハこと浦なり）

・よその海（よしの人）　もとしほの浦（浪ハ）・大よどのうら（又松江の浦）

うら〳〵（松江の人）・二見のうら（月ハ）・しほの浦（おしきの）・しお乃

よせ〳〵（私は）・こよろぎに（家の名の浪人）・すみ田川・鶴（やゝの）・よさ（月ハ）

よせ〳〵ぞ上下・おしぐて（浪ハよられ又月）

氷（よみ人　又奔川）　氷とハ・れよれうる・さいつまる

其外（宗よろこぶ）　いづし川（ちくその玉紫）（おちせら）　名所ハ・大井川　紙

名所・とのゝと文字にて〔とりよせ〕てかこむ、川さとにてよめんとてさ　・川ろ渕　・こしたに

ひやても・春松の雲ハならむ　とかけて〔そ〕のたゞくみ〔う〕らう見んとかも

のならくさとうきの氷くろくうみハならんもとてかけにるい、雲なれ　〔出〕ちけこれ〔と〕そ〔に〕　れとどまりぬ・ささ夢紅〔葉〕

のなうしなくさんとかふ　（洞よそくとうち　から行へ）　雲みつり・ちるそ

霧

名所ハいづくにても霧なり・霧中にふかく・山のふもと・夜ぎり　・夜ちらしき

・なのみ・うりと鳴音（にかにかくれ）・はさ雨ぞ今・衣ゆり

まぎ・とのかはらよ・朝くれ・一つり・家つくまを深り

聯合せしむる物ハ・雲・青・嵐・風・月・秋・森・古沼

・峯ハ・嶺・松・夕暮

・青ぎり常に朝ぎりゆふぎりをまぎとも深り　又万葉集ニ云　山の霧

夜霧なりとも深くれとなして秋を寄せ流るべて霧ハ気ちゝの

独り拙ともらしめてそれもかのむねにもつゝむれ持つへき

霧の気とりてむしく〳〵しと分が花まちるれ

八雲御抄霧ハ病の名こゝに付て〔いで〕詠むべしとこそなから

てさりと詠む事ハなほそれく霧氣こきハくと読むべきなり

こもうしひれ抱むりしかなるんぞくくるも文人

乃あれハ川ちかきものなりともゝとつゞきて縁よくよし

後拾 「釣舟の行方もしらず山ゟ流れて下りてとゞろける松乃川ニ有

後拾 「月の入こゝも悲くなかるゝ歌あれて川ごりかゝる石の下より

新古 「大井河ゆくなミなから[illegible]一つ川ぶちの青の方入袖のさゝ波

千 「まつ出てむかふ日影やつれよふらんほとりわたす舟橋しけ

新古 「ひさかたの月も心もすゞしさに入あひの鐘乃ひゞきとかやして

・ふらじとてねりてかくれぬ・山のうしろの水の音・かすれ

あひく・山のそばい川の有軋よ流れておる・同名を松竹との

こゝ渋す[illegible]・とほまでかゝらもの知らぬ・岸もひとつ川よ立

こりる・雲まのほとて川ごり・こゞり吹おろし山風・松に

づゝそれともなれぬ・嵐の前の[illegible]川る 山里にとゞまりぬとより

なかれいそれは 浅瀬ておふい・山本のふりくゝ上せわ帆さゝる 見とゞくそのの和

鈞舟ゟけ・ふりよわひゞく日の影・ふう[illegible]入やまとら

・こゝりすゝれ行山本 月よされ行 月日のひかりハ それゆかし・ゆきゝら

ふるふさなひく 立よりて秋風乃らくさもとしのなる・ふり

方迷ふ旅人・行くさ帆影ある・霞晴つゞ川に松青

・雲のとの帆影もつゞる・こゝりかとゞ岸の霞・霞るも行

我やよ水の・ふきてみすゞみて川辺り・川つゞも帆影をぞう

・そのあり川のとゞりて花ともかふ・舟よりふすら涼しもとし

ね瀬にいぜなかろり・青の夕ぐれ舟くだれ・涼しきふかき瀬

もさる夜・川舟の行さもとる夜・青東くれとともかつて秋

ふりふ旅さしつゝなる夜寒・行舟も帆影よつゞ川る 舟まちの宮立

・舟この夜も帆影さしゆ・ふりふ秋で川る夜の月・りつ寒や

く烟もつゞる枯ざり・舟とゝもゞともかねぬさり・秋

ざりの渚月夜に舟るゝ沖河鳴・ふすゝれふしぬつてふう こゝ[illegible]

[illegible]にふいさらふ・かし へ迷ふ夕青・いかにもとゝね枯さり

・霧ハ秋のみくハざり火其外・朝ぎり・夕ぎり　春ハ朝夕（いにしへやねかさき）しこ油・八重霧（霧かゝる）・霧晴とおろ行のかくし
・霧晴る・霧波（霧とたちまよふ）（ころもてさる）遠・うき霧・霧の海・霧の（ころとかく）（ころそてうる）まがき（霧とかくるゝ）（らふてゆかし）・こえ川ぎり
・うきぎり・川ぎり・霧ハかくす（ぶんハ）（りのこし）不二の根
・霧ハ三めぐる・霧ハ晴てく・霧の雫へ（霧はらし）（つまろへさるゝ）
・うらぎり川ぎり・きりぬぐくる・霧さらの空
演合せしハ絶五て秋の立秋ハいづれやも落合せくん
名所ハいづくまでも絶えし其外も落たゞれて八よく
らふ山・ふもの山・ふり山・うつせ山・うら川・大
井川・田面・あり・たまふハおもしく

月

三日月　夕月夜　上弦月（ジヤウゲン）　十七日月（キヤチ）　不知夜月（イサヨヒ）　十三日月（ウチデ）
廿六日月　臥待月（フシマチ）　十九日月　已上　桂明抄の汲初學和歌式

子也和歌説汝ま云ハ
・月ハ三めぐりて後の秋にくゆるぶもち三ゆ也し並ひ
初音れハ秋ハ仍秋さき一夜と言八ゆり月さへ今ハ四つ一夏人
と待うらさとてらし又六らさし月かくさむゞきりなども月の名
を秋の夜とかたかく其外の名無名遠き様称神祇などいろさ
とよせむとも云ふなど待
寄月　名にめやハらふ小夜も待ち行かんはらくをひとの秋のいの秋さあ
続古今　からくなる名さてさそのい情にもや世も月もちで寄る待たる
拾遺愚草　月の影のなかに世の秋も見しを月ためしの秋やまつらん
金葉　月とてもふんのまなくかたへもあるくれぬまし
新後撰　さうしたきやとかむてゝ山の秋にも思ひやくもの夜の月の秋
後拾遺　誰しれく心ありのさくらうやなかうかへりの月の家ありかたん
風雅　たまくひさしくそのうさ松にゆるそうれくりやすさ猿

「隈」なく（千さと）くもゐつ雲井乃月の影なくば秋の心ばいろそへてさくなつし

陸後「貴賤」もいとはず君が代乃月よ又万代かぎりてかぎりなき

「三日月」ハ・ミかの月の影・ミかの初乃月・是のミち月・秋の

三ケ月・ふりまよそひ・ありなそむき・山のまゆより出る

三日月ハ夕暮の空はあれハ宵のまを・光のあく・影ぞのどかなる

「夕月」ハ・夕月の影・ゆふ月夜・夕の空まい月さ・ミか月も

なきはおもふ月・ゆミハり月（弓とはかたりて月のいる／なからに半の月をいふ）

月の舟（半月と舟ことていふそら／かハり月の面かたちいりて）

其外夕の月ハ三日月ともよもひ（宵の月とも）

「よひ月」ハ・入日まよひふ十五日の月ハ入日まで（さし出るなし）・さしのぼる月影・さる

「持乃月」・望月の影

「いざよひ」いざよひの月ハ・いさよふ月・山の上にいざ

ひのぼる・山の端をいざよふ

「立待」立待ちの月ハ十七日の月をいふ・たちまちの月・待かねる

・月まち川と言やもりて嬉・ねやのときさでゝ待てる・まよひ

あまりゐでく待・山の峰にひさひてさてる

「居待」居まちの月ハ十八日の月をいふ・ゐまちの月・なうひるまで

「寝待」寝待月・よりゐて待（柱まちのとなりよ／よりゐて待くし）・そしみるして寝待

「ふけ待」ふけ待の月ハ十九日の月をいふ・ふけ行く待ちかね・ふけ待の

月もいづるぞそしとふ・ねまち・よひふして待　其外いろいろ

あくるなほとよせてふしかねて待んと言そまいねまかべし

「更行」の月・更行なの月のさへる・更行かなる（更待）

（それと其日まで待れさしく）てやうくいでゝるんと淡し

「有明」有明の月ハ・十五日以後残して出る月をいふ・影にてむ

・ひろわおさけする・山の入にさふく（山の入にさふく有明より／後の月の影もむしされて）

有明ととなりてうふく・入る月・中空にはる・のこれ

かしらむし

る月・有明の月乃別れ・あさ川さらなそ待いづる（九七八日の月）

半解とハ月の半天にあるをいふ・なかぞらにいる・乃おくる月なき・まちよひ・かたわれ月・み山まちかねてれしやさらね・空にも今かくるゝかなる・其外いそしき入ぐさ山もかすハなくてしもとふ・わかれとも待るにてかしとめる（月のは天にあり）時ハ外の五しおり無なく・おし恒のつまるさかな（月のさ天にあれ恒のかげからしそ）

新月とハ詩に三五夜中新月色といへるハ八月十五夜の月を（てしをんし）言ハ子遊ろハ八日月三日月の名いひあらはすことをいふ

初月とハ・新をの名てかふといふ・のこれる月・有明の月（おほえて有明の月はそのいせるまもあり・山のそらに新の／あり明ハこれおも月ならなし）こる・なる月にかりして明る

八月十五夜ハ・秋のなかば・秋のまかゞみ・月のとよひ・こよひの月（まだてこよひといふハ十五夜に）・名よし五の月・いざよひ川

又（作満月なり殺生禁じあり）・こよひえん（八月十五日の月の詠むなして引ニ声）されバ八月十五夜九月十三夜乃月ハくもりなく晴をこのむかし（うらみさの詩とかいひし）より新乃月てらしたらして月もよる月をすゝむかはなれぬやうかれおちあらんとなひ金毒もとなひの元ハんぎよりてやさればかんといひしこゝろにまわりたらしの元もおかしいひかりとなるらんといひとうさやしきとをかくてひとつ川となる川るともに其外世ひとさうらんずみハ山川独・池沼などにうつるもよものへしくしらるゝも今こゝろ東山なきハ色にて涼し海ハなく海さしあるいわる眼ある京氣ある京氣なかねハ月かさしもひかる形蔵子ざらがこれハ十五夜の月よさしも（やるんハくいうかひやさしく八月の名月ひてのんなしとこし云／ひかりあらしと云ひやさらんかし）又是日の歌式ハ千なに十五夜くまなき光をまく派ハ名の雲なくけらかでハ海山川いづくまても影色のをよるかせてよしむへし

九月十三夜ハふるき哥に今よひといひてかならず後くるまじきれと十三夜の月ともよみ又ハ名月のことよめり・後のこよひ（八月十五夜はさいはして云也）・文ちくなどにあはせてよむなり又ハ十三夜はまちかねしなり其外十五夜と同じ心得し

待月・待よ宵月・山のはにいでやらぬ・待ちかねき・待よんと月くるゝ・山のはをとゞめいで・人あてのふしふけまひてまつ時・待よ次き・いそがせにかはるものかげ山風

山月・山のはをさえありけり・山の月を見てハ川をあかた（の飾見し）山風よさいなうれいける・山の月をなかれての歌ハ・山のは入松の木のまにもし物る・山風さくしづる・いづれより見捨跡よりける・山の月を待ふりぬる・山寺のかの月・山下みち秋風ける・おく山の苔の上にす月とゞる・谷の人やとて流・入るの山のはちよし・月からうかる…の・住人の月ハ…

・山端乃月かへる・山里の鐘きけいける・ゑはのさる月に明・月まちつの川をこえ　**名所**にては・をいせ山の衣（ひろさは川・みのゝ山の外かゞみ山あかせて隠し）・より松山（をば捨山の人又ま衣のうれ）・ふしみ山（あかし須磨・明石の浦・月よみ）・とかもて山（月を見てさしかゝる名所也）まつかさてつと山ぶる・とかもて山・月のうらん山（ミ山の外さいかに雑代）・いもしら山（上月）・大のうら山（名のかうよミ人のかはる秋と）・しら山・とりさいの山・よしの山・とと山（松風のそよぐといへるいけるより松のそよ）・しほこ山（月とりもまさるそてにも）・みかさ山（雪嬢香寺雪見と）・ひさご山（入月と浅り）・有明山（有明月の浦）・みのは（岩之し）

夜月ハ・赤のるとりつける・赤の木の月にすみ・ねる宵も月にみかるく・月くてさ赤松の下た

名所ハ・をはすての月・かりの下草・にくるのりり（二浜松風）会いり松風いくとのりりよまかれり

野ノ月ハ・ひろき野に月はひとりすむ・月に鳴虫の声
・秋ちかい空もくれなゐに・松虫を月にまつ・きくのも
の露に影やどれ・野べの月ハ草にすむ月・月にうつりゆく
野べ乃くさ　名所ハ・むさし野（くさより出る　おもしろき）（さやかに見えぬさらぬ）
・春日野（月そこしれる）鹿　萩の露・みやぎ野（さをしかの）（萩の露）・[illegible]野（ことに見ゆる）・やさ野（あさらあくらむ）
萩　木の下露　鹿なくと読人（みやぎ）（よく人）・[illegible]野（よくにも）（よく人）
雲ノ月ハ・雲のはつかにすむ月・雲さえぎるく
りる月・雲路をとゆる月ハ（あさくらの）（雲に隠り）　名所ハ・ふじの雲（月よりてらす）（みえるる）
よる雲し根つたり月ハ（雲を）（月をもち隠り）・あしがらの雲（よりて隠る）
・あふさかの雲（実のなる）（ものとてよ読人）・ふじ[illegible]雲（よりて隠る）
もとむ月　読人・しが[illegible]の雲（ひよりて）（よく読人）・せく[illegible]
の雲、（月よりてこそ）（とよる隠り）　旅の
（わさ[illegible]よよく人）

田ノ月ハ・いなばの露に影やどれ・門田にうつるも月・うり
やまむら月・かりがねの声とりかへす・りう人の袖の露や
どる・ねやの露に月をもる・よそにいなばの秋・稲葉
のくも・おもかげ・いなづまし・稲ながら月もよ合せくち
名所ハ・とばた（大江山）（かねの道）・ふしの田（田の口）（曲井読人）
橋ノ月ハ・をかしき（なかるよく人）・ゆきそなふ[illegible]
名所ハ・ま[illegible]の[illegible]しる人給へ・なつうの[illegible]（なつらの）
いかくらてかさらす隠りぬ[illegible]て（とりぬ[illegible]読人）
月に[illegible]も渡る昔なりきり[illegible]を渡
やかに[illegible]て[illegible]やり又[illegible]ちら・うらうつ
うらのうへ[illegible]より[illegible]（え所のかな）
てよう隠りもれて（ある[illegible]の）
月ひとり平ときと読人　・くるの光つ（そのくすしか）
（読人）・せとのなすつ　・あふのりこそ（[illegible]のこまく）
川ノ月ハ・まつしまの秋もなかくて（月とかくてのえる川）（まつのはしとやとひ人）
・川すじふ影とやどれ・川水に月のかとひとぶ
・月にあらむ川とと　宮城の[illegible]

のかげとこゆる・月影すみぬらむ・月よ渡るうつろ
くむ也・すゞか川わたる月影・さゞれ石のかげにごる（月影さよ）
（それ八川水のながれふかなるべし こうのかげかゝゆるらし）・いすゞ川（こゝろとゞめてかむ月 又なき）
の原こゆるくれを・いさら川（袖をよせてしむ）（よしの人）
・玉川（二夜の秋かはるさゞ波）・おほゐ川（この月）
（名を）浅合・[illegible]川（松代 小倉山）・[illegible]の川（[illegible]月）
（[illegible]やせ [illegible]浅人）・[illegible]川 [illegible]（浅人）・かも川
のちせこゝろきかされ（[illegible]のりける人）
（浅人）・[illegible]川（おもて）・[illegible]川 [illegible]のすゞの月
[illegible]（[illegible]人）
（[illegible]のもとゞ[illegible]）・[illegible]
（[illegible]月ま[illegible]）・[illegible]川（浅人）

「水辺」入江 江 沢 池・入江にむかふ・ゆくりなの花そてむかふ
・入江の月は[illegible]・あしまよむやどる・[illegible]（[illegible]）・みを沢

の水に新やとれ・池乃[illegible]・池水の底を
あら[illegible]・浪の[illegible]やどる・浪[illegible]むす月
「海辺」・あま[illegible]むす月・うら[illegible]・うら
くもる・うらのとやまる・うら[illegible]・うらよりと
ちまむかふ月・うらちる[illegible]むす月・かくれなきい
み入月・沖の波[illegible]・月すみなぎさ[illegible]・[illegible]
そむかふも・やそしまのかげもかくれなく・白[illegible]
のちさゞ乃雲ところ・[illegible]むす月ふ白[illegible]（[illegible]）
・磯の松風[illegible]・[illegible]舟のかげとゞめ・月の[illegible]
[illegible]つり舟・月をむかふのうらゆく・[illegible]月の奥に
[illegible]・月よ[illegible]つる・月[illegible]・月影の
[illegible]・磯の[illegible]すむ月・磯[illegible]の月影
[illegible]乃うら波むらゐて・月ほ[illegible]

名所ハ・にほの海（舟よ寄る[illegible]の名所し月氣のかゝのうらなるとて　くるハ船をむさしふくし）
・あり　光又[illegible]の名所く月氣の　・なよ木ハ（あし入になけれ　かぎくか浜[illegible]）
（ありしのうら[illegible]　[illegible]又いと海や[illegible]より）　・かう川浦（いつ舟[illegible]　[illegible]や松くまと浪人）
（[illegible]より）　・とし海（日上）　・志賀浦（[illegible]）　・ゑそとよしの浦
（[illegible]松のおほ人の海）（うらく舟浪人）　・すれ川らぶき（[illegible]）
（あうら浦よ入[illegible]）　・ゆくの[illegible]（ゆく[illegible]松舟[illegible]）　・もとの[illegible]（松[illegible]）
舟浪人　・[illegible]川海（[illegible]月[illegible]入に）　・ふさ
・あけの[illegible]の海　又[illegible]　・志く海
（月[illegible]の[illegible]海）（[illegible]浪人）　・きうくぐる（[illegible]浪人）　[illegible]
（[illegible]松よ[illegible]）（[illegible]浪人）　・ふけみ[illegible]（[illegible]）
（[illegible]川の[illegible]浪人）　月[illegible]のふけみの（[illegible]松浪人）
甚[illegible]の名所[illegible]もしそ[illegible]いと海あしむ[illegible]
まても[illegible]の名所[illegible]用ハ[illegible]や
湖月ハ　・[illegible]　・[illegible]浦る　・[illegible]

・てる月なくも　・霧の[illegible]あかつる　・甚[illegible]以前より海[illegible]
・磯辺ぐ　・波のむ　・汀　・沖　・浦山　・[illegible]山　・ひらのね
うし[illegible]山　・[illegible]山　・[illegible]の山[illegible]も海なとし　名所ハ近江
[illegible]のみなといづれも海也し甚[illegible]よも　志がの浦
（ひらの[illegible]山）　・みつ海（日）　・[illegible]の浦（[illegible]松）
・ふどのうら（松[illegible]山浪人）　・月てら[illegible]　・よみかつ浦
[illegible]浦山　・あさ川よ（[illegible]山舟[illegible]）　・[illegible]浦（[illegible]松[illegible]の浦浪人）
・[illegible]川（[illegible]浪人）　・[illegible]川の海（[illegible]舟　松浪人）
甚向　・むつもふ　・打寄る　・人とふ　・夜と要ふ
・ねぶよきなる　・[illegible]　・[illegible]川さ　・すうき[illegible]
さゝね　・[illegible]川　・月まうれてり　・ひとかたぶ
めて地ふ　・光のなくさま入りる　・秋の心いと[illegible]　・[illegible]
びねの家よまる　・[illegible]あつる　・打[illegible]　・[illegible]

・むし渡る ・あまのはら ・月あかる ・月白さ ・月清さ

・さえ渡る ・ど[illegible]のまる ・てれる月影 ・月影より [illegible]

[illegible] ・月の舟 [illegible] ・月のかつら

らの[illegible] [illegible] ・ひかりとひとしられ [illegible]

[illegible] ・月の白ゆき [illegible] ・雲よりまうく

し [illegible] ・霧よりすみゆく [illegible] ・ひかれゆくる ・うつれ月

・天てらす月 ・うつろふ月 ・[illegible]さし [illegible] ・いさよ[illegible]

・入[illegible]（水をさそはせて浮し） ・月落て ・月のうつろふ [illegible] ・月の影

の月 ・月新白ふ [illegible] ・よりぐふ

[illegible]の月 ・あさらの月 ・くれ竹の葉にゆる月 ・むしの月

・[illegible]の月 ・老となる [illegible] ・月の[illegible]

・松の月 ・月更て ・月さ冴て ・社の上乃月 ・くさの

・この月 ・坂の上の月 ・さやかなる ・くまれさ ・さやかなる

駒迎

・こはむかしのことにて初学和歌式に言へる八月十五日より九日さ

諸方のまきよりひきまつりし駒迎ハ逢坂まで[illegible]

〔[illegible]

拾遺〔あふさかの関の清水に影見えて今やひくらん望月の駒

新後〔あふ坂や[illegible]

[illegible]

同〔[illegible]

同〔[illegible]

夫木〔[illegible]

〔[illegible]の駒ハ八月十五日なれハ月をよせて[illegible]

げまくら・ふりかへのくぼはぶらひにして・さいとる・入
もつてゆかしきあり[illegible]・あふ坂の秋月にをさ・[illegible]
とりいれをくる・ふでとらぬ・宵の間をうつしなし
ふくさの緒・いとけの緒・[illegible]・雲井
の庭はいづこ（[illegible]）むくさの[illegible]・や
人のなぐさむ（[illegible]）・うれのくさばね
・かづらのこ[illegible]あり

秋田

「秋田ハ稲葉のおりふしを[illegible]といひりんへのかんかんの
ともうたふし
「山家　これハ伏見の門田打[illegible]
「拾遺　[illegible]あれ山田の庵ハ[illegible]の[illegible]や[illegible]

「稲葉ハ・立付・[illegible]・[illegible]の波（[illegible]）・[illegible]
のくも・[illegible]・[illegible]
なべて・[illegible]・[illegible]
「[illegible]・[illegible]
・やさばの[illegible]・[illegible]（[illegible]）・[illegible]
「かり庵ハ・[illegible]の[illegible]・[illegible]・[illegible]川[illegible]
・あらくかりほ・かりあれ・[illegible]・[illegible]
・[illegible]川・[illegible]もの苗・[illegible]の[illegible]・[illegible]
[illegible]・かり庵つくる・かりほされ（[illegible]）・[illegible]の[illegible]
（[illegible]）・かり田の庵・かりの庵・ひと村庵
「[illegible]ハ・[illegible]・[illegible]
[illegible]文[illegible]・[illegible]・ひさ（[illegible]）・[illegible]
[illegible]文[illegible]・[illegible]・[illegible]

・しぐれ（いなしぐれ封じる）・白妙ま・そく川（かそうし）
名所ハ（あちはけらよ）おちはれしとさ衣くさとく誘しハ・と畄（秋の山田 鹿并誘人）
みそとの山田（ろうさぎさき 鹿 風誘人）・ふもの山田（ふもの山田ともいり）
・かりわか山田 秋 雨・しぐれうしさき田 浦の秋も（ろうな）

鴫

・鴫（上平）ハ田所よ足に誘りそのぼく江のさわく文路 ほかを
とて川えてとのあられなつかうしし
芭蕉 閑さや沢田乃おりよふかき雲の中より二羽ゐる鴫を
蘇抄 百ちうさはうく鴫もさらく彩るひき拍足かな
ちうさのつど・さ沢の鴫・ころ了の鴫・さ川ー・ふもとー
・えはくし 鼻ぐさ・ふもとーの床もとさむ・羽音さひ
さ 又おりろまきも・そばかさの粒とうそぞる・秀え海

・須磨さびしき・月に寂しく・鴫乃にとに秋の寺・ふき
須磨よりとも誘り又鴫乳くとも誘けり
名所ハ・なら原 田了の鴫（ともいり）・みなれのさく未 みかのさく未（とも誘かと誘）
ふり・ふりと（ともいり）門田の志き・ふくさ

鶉

・野あれたる庭なとにすんで鳴声あさひしくあはれなる
うし又枕も鳴よりし
古歌 夕まくれあはれとはれる秋来たる方の（?）ふく鳴く
同 息ひさし路とあれてかくる宿かれや芭の了れ子鶉鳴し
発句 身にしむや世の秋は有文て鳴や鶉の床の秋風
うつらの床の秋風・鳴さひしき・鳴ごゑふしむ・あ
れし籬よ鳴・くろ了鳴川・うつらふとし路・そがやが
下ほふもとうづ了・夢吹風に鳴・さむとき所風よ鳴よづ了

・夕のきりふ所とす了・あくれかうけよ江所・とのゞかど

・住ら〻象よ了く・庭の千草よ所・昔ぐれ所・福やあれ

ぬる所（風なくしても　よせて云）・よりぐら座よ所・うづらふ（昔の人を　しのぶ）

うく・哀しくものにふ所　朱筆ともそくあり中よ

も多くあるい・とくの山とりの縁の山・ふしゑ（稲葉　六田）

（淡人）・ふくくさ（くもよそへる）うらみて野をかへる里（かまくらまでぬる人）（ひなともあり）りれも中あり去か所

松風言・まつ入江（お物語）・大原の里（ふるき門ハその名）

（よそ人）（よろこびて　かしく沸り）・とりさし郎（弥子　淡人）・いとれ郎（伴き子淡）

・うき郎（子案　子淡人）・あり川の（昔の月　なくし液れ）

擣衣

お衣ふお恵の子勁学ねまし式よむ

・きぬたハ衣をのべたとひあらわすためにしたうとも稲ねよう

友よもよあり文旅無子没るハ衣ずあり（ねうし式よ　ミーン）

擣衣擣ひとへ五乃花所ときしひとふ人室よひとあり人　衣打擣

衣打　千とらひ打さ乃る風音小夜更て砧もよ秋の夜をさうる

擣衣擣ら乃たゞうかねる下よの衣をおせりや秋や人のころもうらん

千衣　うつも妹うかりらんと衣をぬくの音乃宿よかさる

擣衣　人うきこしのてひ人待よ砧乃ららよ衣うけかうる

たゞきし擣ひしぐうし打・うらが衣まくり・らうびうり・夜寒

やらうびなくうむ・衣うさむ打・打人のねなよきうくく

・うけのしぐ衣をくらうそ打・ひゞりあら人の衣か・衣

のき〻ふも夜よくり・うちもこ衣よ・衣つ打るく里子

くさねて打・千里も同し衣打・さと人の衣ちも紀

・ゆふく月よ打・衣なくうて打・月のとを郎よ打

・月をむやとふ打・うれ待在て打・一夜もうれ合打・お

衣のからころそて打・よ寒ふそても衣おくろうれ・月のよを

とふゆけり・つち乃音のやむ時もなし・夜半もゆくふけ衣
・こなたかなたに音きこゆる・打と音をきゝとびて打・うち
むかしもなく打・長き夜もさえてきこゆとさ・里ごとにうちて
ぐさねるい・衣きぬたうつ（左をうつ）・志のはうつ（上 日）・うつ
音さきゆる秋風・小夜更て打どとく聞ゆ・月に新たに衣ともき
ねてうつ（月のさゆるさ乃よすさらり／るると寒にあらそふらし）・海人のいそやすみ・酒手
よ音に嶋もきこゆる海人衣・波うけ衣わたさすてうつ（海辺の／なし）・うちを
乃枕にひびきくる音かな・裁衣のむら衣・白き衣・麻乃
さ衣・から衣・うす衣・まそなれ衣・花色衣・秋のよぶ衣
着の衣・長川乃たか・いとまなきにてよある
砧ハ室まハ川くまも添へし　恩賜賢注（ヒンケン）（チウ）に云　室に擣衣をと
と河の蛍を寄しと涙して浦例と来まに及しうしか本とも宕
そゝめしるハ妬てよとがて人と都の其亦よ[illegible]

・おするおのゝ（秋字ハかなわ／おとしてけろ）・ま海のさゝ打・擣ち衣・なまぬい
・あびさや（まきり）・ゆう川鴈（よこ川）・嶋の名や・えゝがの紅（しきさゝの／しらんと淡）
・えゝの里（月みよ／淡人）・鳥羽の里（月も淡／ふしく人）・月見の名所・ととのさ
と（秋風のとといの里／言ひとのしかと淡）・ふくくさ（あれいの里／よき名所）・ふしを植
のよしの里は（いよ川）・よしの里（左里をいひく川と淡り／又名所よき人）・めさま
の里（いとはあり／よき人）・玉川の里（まき川）・若さむしの里（むしの／若さ）
渋（んをはり）・稲さあの里（ねさあして／けんと淡）・あさみの里（あさみて／けんと淡）
・さゝしかの里（月なぐさめ／かしこも）・恋の里（衣打）・さらちまち（やそこら／人の打）

九月九日

・重陽（チヤウヤウ）といふこと九ハ陽の数也九月九日なれハ陽と陽とかさなる
ゆゑに重陽といひならハし今のよにもちゆるハ費長房（ヒチヤウバウ）桓（クハン）
景（ケイ）といひし人にをしへていはく九月九日なんぢらが家にわざはひ

かひあへくしあやしきふくろにま老ゆゑにやすらひを入て此ぢ
みなけさくらほのあり菊の酒とのむへしけやくびとの
あそくしとひひよう用ひ尤とりて此日のあすハ
いつれもさく〳〵とよめり菊の日そわりとせへし

菊

・大和白菊と此外にあり其外黄菊紫菊そのほか（雑菊）
（黄菊し又承和菊し又地のそだひに浅くるといふ）むしろぎく　八重ぎく　ちくさ花色
（ええて言かりけるん）なとしあり
秋秋にしと秋といふわかなかうにかうしのくちねをあるきも花色ハ
付　こしくさいふ秋くれて花の下しきて小白おれる
百　のまゆらせく小さてるその菊に志かさ枝のかれてくる
秋秋　八重さきくの花乃秋とあくれいあ下秋のうはさとおちるゝん
月　ぞ川かへふみかきます子ふきとさて見へ村さらくくも人へいひつゝ

雲かぶくへし時にかの花のさくくみ露ともあかくる千とせこれふむとも臣
九菊ハさかりの花と雲井にとけあるこよ世の秋をちかふさり香よ
う川ろかた菊もそうらんととみりをへてそわのさくれ
以房とみえて川ろふさくみ八重と外ふよあり
・移かりにくはうつうて（猫八ゆかろくのむかしきくかゝくのむのとりけし仍法合り）
山家にも宮はつれむ・香も是あり・きくのうか香・きく
の宿殊ハなし・きくの宿たまで千年せのふる・山路のき
く年すうけむ・山人のきしかゝ家・やすふ人の千世の
きさし・世のさかへしまも露にさくく・菊の下水ぞと
せく・ち水に千よ世の秋とう川む・きくのかれたかれを
うむ・ちよの流くそえるきく・みさう川さ・笑杖めぐるさく
のさう川さ・八重咲よむ・白ある紺よすみ・（おや）あり・つし
まをすかゞくの白ぎく　うけらぶ・さくのと（枝花をよあり伐ありうふ陰）
きし

・八重ぎくさかれる白きく・あすか川星かとあやまたる・ひと
くさ乃花のもぢめ（ともちハ残しきくへ清ひのもちの乃名）・こゝへ重て菊ひさ
川る・きくのわぶきゞ仙月と手川・咲きくの露ふちゝ川
ろふ月影・月影よる菊ずふ・白ぎくの露よりすつへつ月
影・きくのちぶきゞ小服ききく・動ぎりか白ひも二ゞ花る
・家たかうれてゝぶさるむ 岐のしまぶふ白ぎく（れ花よはよいせあかうへし）・二もすいうい
・初菊の曲水でゝ世る（白きくて書る菊の白く動くれひとき残とと打すゝ余し）
ろ白きく・うつろふきくのこ紫・うつろひ移る白きく
・きくしようつろふきく・うつろへハおしきぞよまうよ
谷所ハいとく多し中ゝ中も寛平に時菊合のこれハ十所（此の極あ）
あり・見わたせ（松なし侯人）・大さハの池（紗る侯人）
・菊ぶうつきりきゞもしとき所むしきさこの所 きくもきくとあり（きくをとしありたり）・いとわせ
書きとの浦 淡路ハみとも・きよ川（十鳥侯人よりきいれとすき）いろの名をれいらんそえし

・みげめハ濱 秋もやすひわうり（ふくろ白き所く 又中ゝと子ずわう所） ・みぎあけの濱（秋の所あけよ 又京たよ三太）
・あふさう（そて手なか所しろのききくとよあり）・あぶみ濱（寛平菊会のきき所 宮川のいとくとれ）
・わうか所（おところ名の きくのひと濱り）・ひらしね（一むさくと濱 ひくさこの）・あら
の桑（あしきのあ所 ようよう） ・きくの濱・きくつ川の里あと濱り
已上菊 寛平菊合名所し 其の外

紅葉

・紅葉されくても山のおりさと乗しき梢の秋のあるかしらぬ子さ深
る枝たかしいひつれハおけさい波なき吹子ちるれ
路枝あ思くれけ雲の下その衣かやさ山のあしさもいろ濃うた
五紫とひるふぶりとの梢のひとくさとされるちる林の名ぞけ
新勅あ紅葉さえのまう小波まりちゝれまなりる錦あい紫
田舎のうさとうちく・日さきなひてさ錦のかれ・山ひとのよ深乃

ふかき・うつりて紅葉はそゝぐ紅葉・夕日の色をうばふ　日のうつりて色のこきこと
・霧雨にそむる紅葉・露の下紅葉　しぐれは紅葉の下染・露も紅葉
ふりそでをむらさき・紅葉といふもひとしぐれ・しぐれおさむる
あらしの紅葉・しぐれ色まさる・うつりかはるおもてひとしほ
つゆしぐれ・しぐれ・しぐれはくれなゐ・色ぞめの紅葉ぞ
くるゝ山のしぐれ・染めてはせまい錦・うすもみぢくら
くさに染る・先ちりはしめてはじめて・ちりしぐれすくなき
色にてり増る・木末そめてそめもやさしな・秋さかりのこずゑ
引ひきに染あり・あかきあかき・あめまさりにぬれて色
こき・雲ともおもむる・紅葉よりはやく・白雪まで
ときはに・入りきえし方は紅葉・うしろの・こき色のて
さそひかけて・ちる・あらし・よそよそ木末の紅葉・峰黒
てらす紅葉・うつろふ染め紅葉をみしひくる・木

「みきをうつりおとし　風のまにまにちる紅葉
「紅葉の名ハ・もろこしの紅葉・くもの―・ねぞの―・そで―
「紅葉・かはらの―・うすの―・なにはの―・うすその―
・錦の―・すきもの―・かり―・一本―・やまもり―
「いそろ―・落―・積―・残り―・月にうつろふの―
「色ハ・さはらひろのてるかさ・くれなゐのいろ
うつくしき・らさそ・おのもさぞ・移しは・ちしは
・八しほ・ひとしほ・いくしほ・ちしほ・ちくさ染
・うつろひの一しほまさり
「もろこしの紅葉ハなにがしを錦・花よりもくれなゐ
ちるはちりなき・くれなゐ・千しほをかけてまさる　こゝろ紅葉
・もろこし・うすもの花・織のりかえ袖
「たつの紅葉ハ楓と云木也山路にあるとおもふなり

・なの浦て乃ぞ[illegible]御題・りくえの[illegible]しかすと候より

同 ふ[illegible]の御題ハ・ゆふくの浦よりふつさ・うらさふ[illegible]・松よ

りよつこの御題・松の[illegible]人たよ[illegible]・うらぐ[illegible]のうきの[illegible]

さわらさの庭よ[illegible]ひ（のちんし）・こむ[illegible]はかり・[illegible]の山

・うれ[illegible]りむ[illegible]のあれ・[illegible]根のつさ

同 [illegible]ての御題ハ[illegible]の[illegible]お題[illegible]と[illegible]・[illegible]

ねるぞ・[illegible]ぞて・波つ[illegible]ぞて[illegible]

同 [illegible]この御題ハ[illegible]つろ[illegible]し ・[illegible]川の[illegible]（大和の国[illegible]川[illegible]の[illegible]）

とし・[illegible]を[illegible]の[illegible]と[illegible]し候り

同 よ[illegible]さの御題ハ・[illegible]より[illegible]さの[illegible]御題[illegible]と候り

同 [illegible]の御題ハ・山[illegible]野[illegible]小候[illegible]・[illegible]の[illegible]御題とも

同 [illegible]ハの御題ハ・[illegible]れ[illegible]の[illegible]し候り

同 [illegible]での御題ハ文[illegible]の[illegible]と候り[illegible]て[illegible]

紫むらさきよし

同 梓の御題ハ・梓の御題で・[illegible]御題[illegible]と候り

同 名所ハ[illegible]しやおもくさく候[illegible]し[illegible]

・うつ[illegible]（こゝの[illegible]）[illegible]の名にしとらり・[illegible]山 ひか[illegible]と（み候へ）

・いなり山（秋の青葉[illegible]と候へ又）・とくさ山（[illegible]）とくさ[illegible]

紫[illegible]れ[illegible]の御題とも ・あらし山 あらしといふ又あら

こ[illegible]と候へくら[illegible]（[illegible]）

・うりむ[illegible]山（[illegible]候へ） ・うづまさ山（[illegible]）

（又[illegible]）[illegible]

・りうもん山 [illegible] ・みさとり山

・そのふ山（[illegible]） ・こうさき山 ・ところ山（[illegible]）

・さほ山（よみ[illegible]）[illegible]の御題と ・ときは山 ・ときは山（よみ人）

ちりて[illegible]川[illegible]し候り ・[illegible]の山 ・やしほの[illegible]

それ[illegible]やしほの[illegible] ・たつひの[illegible] [illegible]とつけり

とよみり

・おいそのもり（まゆみの紅葉）・ならしはの杜（まされわきのりゝとなり）
と志くらの雲（紅葉の錦ハ白川の名　おもはぬんとよめり）・たつたの小錦（[illegible]紅葉と）
よめり・ふるくの小錦（うしの紅葉とよめり）・くら錦（そのゝ[illegible]）
とよめり・大井川（きうしの紅葉とよめり）・となせ川（あらしの[illegible]）
けるかな・ねのひさこのくさ（赤とあさそむ[illegible]）

暮秋

暮秋ハ紅葉のちりしひくれの雲く行は暮る夜と暮秋の題
同　風さむく月さえ秋も暮れの[illegible]あらしの秋の暮れ行
秋をは我袖にあると暮しても行月や末秋のおもひやられけり
凡暮秋ハ秋のなごりとふかく惜しむいひ又山門[illegible]
と云ても暮れ行秋の景気さびしきさんとも[illegible]
おしむともとまらぬ秋・きえても行[illegible]ね・ゆく

妹乃もとへと契し秋の夜・行秋乃おくり月の月・秋も八
やとるののうちくさしぐれて・むしの鳴ねもよわりけり・行
秋まての[illegible]の夜・行秋のくさぶさのこされし紅葉・ゆく
あきふかねくも鶴・行秋とうつる見[illegible]ゆくくれをくる
・夜もいやましなりけり・秋もかぎりとおぼされけり・秋の
なごりとも今はくれ・秋もいなかり・行年もおしむとこ秋

九月尽

九月尽ハ九月晦日の名也さむく暮秋といふおなじ九月尽
の心と織てもくるしかれ九月尽との詞にて暮秋の心と
くひろく[illegible]心得へし（右二つハ暮秋とも[illegible]）
まらも多し
例　けふのことくれゆく秋・けふまではらひる秋ぎり・今日のとと
秋もつきぬとおもふられ・秋もやとりあへすくれ・秋も

もろこし雉とおもしむ今よりぞこの知 [illegible]

[illegible]

濱のまさご冬之目録

初冬　時雨　落葉　寒草　寒芦
枯野　霜　氷　冬之月　千鳥
水鳥　霰　霙　雪　網代
鷹狩　衾　薪　炭竈　埋火
神楽　佛名　歳暮　除夜

俳のをしへ　冬

初冬

十月猪はなんをよあん
譬へ、山のすがたは秋もさびしかりしが去と今朝よりつい冬と變
冬をさて立となりぬとも候り
風雅業んてさびけるべき姿の色よ深ちりとらぬ菊も咲ける
淡白ふりにえぬなるこの意とこゝまて紺ほあれ能も分風
冬さぬと風のとらる・あらしのうせまくを冬くる・山風もこの字
よ物んこかゞとしさ・さぐれも雪よあして〳〵ふ・神無月
出ぐれそびら・人の鉤よりも冬の字に・・・こうよ
つゆこのかおあ・さ風・ろうのかよひとかりし雲も霜と成
崖のあはりの河もうるとて候る・こうこ風冬くる

名所によせて添せハ・ととふ山嵐のととかの・あらし山（山の名のあら）
刈にこなりし・紅葉も清し・ひらしの花・ひえの山（学そくる）（上其の）
小倉山嵐川いつれの名所よそても・さなよせて清へ
ましてしぐれにも及ぶべし

時雨

其かハ古気乃あらしとふきんと流し吾ゆふへんふふく
あられちらんをいれかりとかくをもまてうちたすことと世のて
これさいわさことへ心をも見るへし

雪　ふりても又ハの頃ハさかりぬるにふる里をしぐれてふる
十哉之前まさ・積もあともしくれけりふるへのひなさと二寺
彰千かきくらししくるとのハこねとしこれも定めれ世のなきひ
ふのおかふるしらしくれ・山風よしくさて雪乃やくらすらハ・嵐
のくさしくるも・くりんとしくれかゝれわ山の大・しぐれ

さむしとて風・山のはかくりかとしぐれて・とくさらいくれ
風さゆる・さむき風にしぐれてハ・風のゆくてにしぐるゝ
山の日の夕日しぐれて・うきまようひすらしくれ・めくるの
雲よりこしふる・風やさそふ我よする・風さそふ
きのふとまり・この松ねる折ハこのあまふりしぐれ・松
つれなうふるしぐれ・かちハあふよふるしぐれ・しぐれしぐ
さく神無月・冬きぬとしぐれよつぐる・しぐれはてくりる
月乳・しぐれて月は月乳・しぐるさくとまもちる月・ふる
もさらぬぬむらしぐれ・松やのうまとよ川もてわ・松
やのいさきまりるしぐれ・日幡こもしふるしぐれ・とと
ふるへ種とねふれハ・りしぬしぐれる秋ふけ（ねおのらはな）
（よそのみそれ）・茶の天つとよ月のあくれ・松さとおの寺くくとと
ふれる・らくさびの霜あかつれ・松かめの扉よ秋わう寺

・やまくちをぐるむかしざれ・我めぐり逢くてしき
「名所」ハ・みづくき山・ひと夜山・ふたつの村杖・・天のかく山
・ふ川さと山・ときつしほ・山座など・ま津の里ぬ川くもも
すりおりの名ゑぞりしとなし

落葉

落葉ハ風ふきハもお翁とひまさんも新
新古「川つきの露よあしの露をもりなから吹つ露
新後「と山のあるめ落ハとふこさて枯のさぶく木枝ゆも
新古「山里のかせとさよし紋をすま木の葉訊てりハ
「山落葉」ハ・山風まきのふくとて・山風す強かれハ木葉の落ほる（ゆえこと也）
のそかく・本落葉おろそしもる・ふりまぎりんくれ
・山風の木の葉とまさお吹くゆく川さ・山ちのぼ椀りとの里まてつ
くる・山本おあまさ木のおちゐる・山のハ内私ともでちら

「庭落葉」ハ・人もなくて庭の落葉ハ跡もなし・庭の落葉ふかく
さつく・庭の木の葉跡をとどむる・庭の落葉ぞそくまれ・ふか
の事まけもしらぬ落葉ぞ・庭のとけしふ跡しく・
「水色落葉」ハ・山川まきくとりくる落葉ぞ・水の色もよろしなる
こそふちりかかる・落葉まる川ひ谷川・なかれもかへり
ち楽・みせさふあとひくれなる・ちりもちるまさ
かつる・おち葉とぞれてなをなき・くれなゐで川胞・えか
うきふあいふらし・江の水まかりより・いとふつき
かれ川むいろまちりくき・ころよする水とまるる・ころ楽
とりそて舟くるきて・そまのそ川ぜいろかる・ある楽
「ともむ渡の東」
「橋落葉」ハ・石橋です落川でし・山風よ谷のかけ落葉する
「名所」ハ・月まきくくし落葉・木の葉まどれまどれのまをよ

ふ・[illegible]名ハ[illegible]

色草

凡色草ハ小萩[illegible]桔梗[illegible]

[illegible]又[illegible]の[illegible]

[illegible]大[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かれおもひ[illegible]

[illegible]其外[illegible]草の[illegible]

[illegible]の野とも[illegible]

蔦

海い[illegible]

[illegible]浦[illegible]

[illegible]入江[illegible]

[illegible]入江[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]入江の[illegible]

・うら枯の草は花さかず・みどり草しほれ水鳥 ・声のかるゝ
暮てなる・あしかれて中空のうらひちあく [illegible]
〔名所〕ハ・たかのゝ小野に 駒つゝ舟月（浮名） ・くしまに 淡月（淡人） かしこに月舟
・きりの浦 つまなと（浮名） ・すのへ入江にとしよ行人 ・大井川 [illegible]
・うぢ川 舟 よさよ 浪月千鳥

枯野

・冬かれてさびしき景氣と云ひかゞみ見べし
〔詞〕それハおちこちたゝき手なかれ・冬がれて花もなき庭も荒ると
・冬かれ・草は紫の露に風さゆる・秋夕暮はうれ増る・草葉の
うれ紫は露乃ちさく・うれのふかさにしも・うれ草は
かるとさく気・うれ野よさ中夕かし・かゝる折うれかぎ
なくともなり・扨秋のちくさしの露もうちすそく
みす乃みしきおきのりとる景氣といへ未だりとし景せく

霜

りひさる也これとかる也〔名所〕いづれの野にも景氣と
・むかしを今のさびしき景氣といひ景色ともしく [illegible]
とも淡く
影干霜ちりし庭の深ちる風色てそれ [illegible] さむき雲のいろ
〔擬石〕いりしと [illegible] 世ハ花ハ白くいと [illegible]
延文 [illegible] 我かうしきおもての云ふ [illegible] やりるよりも [illegible] しつ
〔ふりよせて〕ハ・家人のうつる旅の景・旅人のうき・のうへ
とつ露・山陰の云乃ともかも霧さゆ・山の竹の朝日かくれ
みそく・氷雪ちるほのけへし
〔詞〕ハ・さくかくる野乃影景・日新よりかかるみへのそれ [illegible]
・うれ野まさむさ夕露・廿人乃 [illegible] ・野へなとく
[illegible] やくる・朝あく雲のくの

〽香炉ハ・簾まきあぐる（朝雪 夕雪）・たゞわたし庭乃跡ちらふとく雪・雪

もつもる庭のすゞさびて・庭の芭蕉も立つ・月影の川の

ときはの雪・冬がれの芦乃屋まとく雪・ねやさむき寝覚

・ねやのひまより雪

〽舟ふよせてハ・舟つなぎも雪まとなれる・舟さす竿もやりぬ

〽夜のんハ・雪とて羽れぬ・雪さへあられ夜どこの雪・雪も

夜とつどふ捧の都　（吉野の湊の雪 さゆの雪）・夜の下の川にとんだぬ

鴨ハ雪衣とまふつ　又夜ふすとも水鳥の雪もとらも涼一し

りのく

〽深ハ・雪ちよいろを埋むしろ松・雪をれ松のちりもせも（いかにはるく）

（十八公深雪家後に いはうりいり）・雪やさびそけとれせぬさうくさ紫（さゝき はるき）

深なれハ雪まれせぬし雪やびとハ真の松の青緑子もまつ

びらのひげ小雪わるゝと雪気とも涼へし

〽竹ハ深ノ雪ハ・竹のその立もかふて雪・くれ竹の紫竹の雪

（ゆふくれの篳）のしくも・竹のよふる雪まとち・竹のうらにふれさやぐ

雪をてけハ竹のみちさやぐを・さくのへさふく・雪よとふある

（ともめの紹し）

さく子これも雪まやく

〽名所ハ・いつれの名所にても吉野と・此雪を名南の海といひ

て南海よハ雪と取きれ南国の名所へかれあるべし

氷

千載〽河くまの月さへとくる水も（一方の雪）

新千　おもふさへ河浪の音も来りにて忘方まよひ（一方の雪）

千載〽とふ雪のうらはやとくもおれはつらくみずまの　（竹の水）

〽月とてこゝに河さわ河水・むすびそめつるうちの・汀とうに（ふる水）

うらうひとうらうひハ春波・あしまに袖をちぬむさ・山の井

よ新らしたもこちる・こほりて下ゆくまた山水・水をとくく

山風・岸流の氷もおひなる・朝水もむとれくか・池の三

氷もむすほふ川る・竹の手に汲水・氷とこぐ舟うけ
・あらしにちる流水・月よりかゝる流水・岩がねよりこ
ぼれ落る・はれのよどむ水・うけひの水乃
こほる・みのかもこほりぬる（水の底とい紋 紋の中とい紋）・こゝひえ
こほる・いくへふる・なかれ行木のいもとりふせらるゝ
・かすみたゆむ川舟・池のうきくさとらぬる・水鳥の
つく〳〵の床葉あり・池水のこほる夜ハそれよりもちあく
れ・池水のはてはいはらもかすみえ・袖のみ・なかこくの
こほりたるも諸り名取の氷まいまハ所くふし諸へし

冬月

・冬の月ハ時雨もあらく冬ふかくなる体ハまさしとと
りて霜と霰のさくりれきんとあり
（延宝 出合）くりかへし見る月も出る時雨の夜や雲けなるらん

影秋は霜を結ひ初冬の色かはりしとよくつゝきて霜夜の床に月とこる哥
同 時雨むらふれのときつかさやき気も月も霜を結ひつゝ
木のはにくもる月影・しぐれてくもる月影・冬がれの木の葉
ちりて残る月・あらしのとまるゆる・あらしにはる月
影・木のはもれてる月・霜にはれする月影・月まちて出
く小松原・むら雲はらひたる・山のはの雪とく
わける・山のはを出でいける・袖のたまるしまこほる・霜夜
さえれてさゆる・影もさえしくすむ月・月もむしろ
の氷らし・月の名くもなく・跡もなし冬がれさむく
すむ月・冬がれのかれがれ袖に照月・霜がれのあさぢが庭
にすむ月・月にさえしろき天の川・大空のとんびともさむ
くすむ月・くらぐらの雲に照月・すさまじき物あり影
霧ぞよく照る・白雪のうへもひかりまさゆる・月すめりと

なる流水・波音よりおこりてかはる・出汐も夜ふかくうごかし

そむ月　名所ハ秋　月よりと出へし

千鳥

・千鳥ハ冬行寒氣のおりしへさらんといひ又鳴　春入うへおも

つれなふんによりあり　海鳥也水鳥ニ旅せり

家勅　交ちどりひれハなをさらに淺さし比月白きに海やるつらん

新後拾　浪よりも先ふとくちてうら風の吹ときぞ磯ニ鳴ちどりかな

ゐ望　うら風のさむく夜ハ海人衣つまとふ千鳥鳴ねなるらし

千鳥　かよふらんとふ人乃けハひも絶ていきれて鳴ちどりか汁

浦ちどり・濱ちどり・夕ちどり・夕波ちどり・磯ちどり

川ちどり・濱ちどり・むかふ鳥・友よぶ鳥・友なしち

どり・小夜ちどり・浦のとわたる友し・浦をあさる

千鳥・浦風ふかハさ乱て鳴・ともよぶ鳴小夜ふかし・月夜と

濱る浦し・ふるく月に浦傳ふ・うらがれくも鳴し

・浦よりどちふ友さそふ・夕波ちどり声あはれ・うら風を

ふ夢ちらせて鳴・なくこゑちかくするいそし・あら磯邊を

まつひし・うらむさてなぎさをとゞる・あまの衣つまと

ぬ・をふゆてかふもさぶし鳴・あまのうきねをとふ

（のうきね　とふかく）・濱ちどり跡こそあと（手跡ふよせて　多くあり）・雲井にさ

のぼ濱ちどり・沖の波ともとふ川し・濱松のねふあらそれ

て鳴・河風さむく鳴し・河瀬の波子ふ川し・河波のをと

友て吃・さゆる夜のねざめの川し・つれなき聲をしくて

鳴・やくの川ふ鳴し・友なし千鳥さびて鳴　其外　落

つかふ・ゝらぬれく・やらよと鳴

名所のもとく多し・ましほのゝ　月　淡路・まくらし浦　松　風

（淡人）・大よどのうら　松によよ人、又大よよのうらにて鳴しよよう
・あこぎのうら（書きよみて鳴んよめり）大かうらふからうむるのとかべんあり
よめり　・すみ川浪　松風浪人なを　・ぶしやのうら　れのやく浪ち
がね　常盤のかふり　・塩竈のうら　よ浜人　・とうあ　そひてかくの留　同
（よよ人）（冬日よ浜）・よぎのうら　おと河ゑせふける上　・三輪
うら　・あそのうら（よよ人）　大のうらにて　・天のうらにて　・浜風
（月よ又松風又吹きもる）（なとつくそふり）　・いこ浦
（いまかへりてこのうら）（とつかふり）・みくらの浜（月よ浜人）
・吹あげの浜　浦風のふきあげのかもとよめり　・すみよしの浜（松風浜人）
・二見がうら（浪ひくさなくる）（月さくりて鳴）（月こよ人）　・さよくこかる　せきりの浜　・いせ鳩
（よよ人）・あくの浜（月よよ）・あかのうら　松風浪人
・うも川（月浜）　・よしの川（よそのさかりのかりと流り）　・大井川
・うぢ川（すゞし姫）（宮よふ浪よよ人）・たきよさき川名（月秋のこよくさのひさとさあつるきよ）
（さかりなき）あり　・あせの川　あちせもちるん（吹きまくる）

水鳥

・水鳥には鴛鴦（おしどり）鴨（かも）鳰（にほ）あぢのむら鳥

千載　河ここ鳴けり八毛乃ゑとらふ帰んよも鵜のうれ枕あまよ鳴

後千　詞とをまん氷と鴨とは池水よ鴨のあとへもこへ人　しら鷺

夫木　冬さ氷の池水にほりしてよふしあらなるあら川村り

新千　池水まひもとふ氷のひよをゑて打いりつ浪や鳰のうきひら

番　・つかねとりのひとかね　・とり群のとりのりろ参　・池水よ

うきねのとり　・とりのう毛よとくる　・とりもなれもそくく

（とりと鴨ひとなひよりとく）（寒くハありまく）　・とりの友風（とりのかよふなれかは）（ひかしあけう）

とりもうかり池水　（れくハ氷と）（おちとさるひて鳴をし）

・つまとありそよ　・とりの衣　池水よ友かけくとり　・もどる

くとり鳴　・とり鳴の小夜のうきね　・其かとりからぶろふ

うきしあそれハ池水よ川のひさかたぬとそて巣よつるとうる也

けら孫とゝてハ我ひとりねの衣をもおなし　へつあかれむさ
しかうしあるべし　又立すゑらせてハえんをしるなどつゞけり
鴨　・鴨の青葉とて春　・水鳥のかもともつゞけたり　・鴨の
うきね　・あしかもハさはぐ入江　・かものうき巣　・あはうの
小あさる（あさるハ食をもとむる）　・ぬれ羽さえて　・あをかもの
まかひの羽　・うきねどもしとなくも　・かものうはけ
・ぬく川のもとかる（川からものゝこゝろ　川しいる）　・かもの羽あしもとて
らよ川さゝき　波なそとつふ　・なかふむしとめてあしかも　・む
立ておりうち　・かけく鴨しらり　・入江すかきうきさ鴨　・かも
のむし鳥　・おきのうきすも　・かものうき舟（ものゝうきにこゝろ　舟まくらそこにて）
其外鴨ハ海のうへ水をさしに沼沢水も波り
鷗　・ふなあそびとしうハ長明無名抄ニ海のふちくちひろ
なれいそれと去て鷗のもどくふいありのくるゝと申まゝあ

出でかれとつ川うきてハ　てふくひれいハ立やとてハしかる
鳥ハひさまさうひてくらふとしとふ　・川く鴨鳥
かうらひう　・まゝくる（水の上とくもし）　・あさる鷗鳥　・そふく鴨
鳥　・もむ鳥　・鴨の下まち（水をそとくるまとらし）
鷗　あらのしろ鳥　・あらもしとがうりも浅り多くすむれてある
おきかもめもいさハぐ　・沖り浦に水をこなしふなふあう
水鳥　水鳥ハあなもいろとく水鳥とりよ飢まハ光の名ある鳥ちあとも
みな鳥とかゝらも浅し　・水鳥のそとども立ちさ　・水ちやとう
らく乃まくろ　こ鴨　・うらもの床（上日）　・うきねのとこ
（上日）・むもの床（上日）　・むれみる　・あしもがく　・かもの
むれておりゐる　・とのかぞるせも立いくる　・水鳥のうきね立沼
・月影を川でさのふねしいつ　・水鳥の下やといふね（つまさや　れなくの）
らかやすけかれとありのけふかれく　・あふ鳥のわのいつ飢さ
れうさらけるさ去をつらぬし

あしのはよそれさ　・あのもし鴨　・水のうきとり　・沖る

衣はすそようくく　そへてとし鴨なすこの池によとれるかへ

さぬれやも紀まけりのうし

・池水のこほりねかうとふせぐく

名江ハ・なか小池（とよかり）とし鴨　玉もの森　・ちとりのうへ　鴨にかはれは汁

・かもの湊　鴨　・大井川　あをさの波さ汁鴨と湊　ここによりさ川　鴨と湊

我まさりぐとよかり　・さ荒川　さきのよもろろそ　・さ川さ川　鴨を

・うれさ河　鴨　蘆芽よ　・かうしの川　・うれうつしの

濃さ鴨とよかり　・りかくとの鴨と浮舟は　・もそかさの池　も鴨とよ

・ふもやの池　とし鴨も浮そよ淡へ　・あの池　とし鴨冬　そあをおぢ　・ひろ沢

鴨著・みふとの浦　とし　ともこのうら　くたえ秋木のうら　かしくかあり

・まかのうら　あらちもて　とし法　・とりくさのとうの湊　とし　・しるさ

川　我為梁　よもしく　・むかしさ　あをしとし　まれまみれ　をかくかかり　・よもろの

池濃とし　・うくしの池　鴨とあり　とゝれとあるへて　・そうし海に　とし鴨

霰

・玉ゆのにへし　・みつの浦　とし鴨　・うらその崎　鴨　・ころ

まつ江　鴨若子　よかれ　・うしきらの池　みつ　・あさりの広　鴨あり　後

・そへのうし　あらのしか　・よどの浦　かし

新秋　秋の花よりく小嶋ら室のくまかとへくかう来つても

淡後　淡後　ふくねくに孫笑うられる冬のよとなも咲れぬ弟哉つても

淡秋　あられすく音をゆかよりらんにてし女のうへとを乱れさるか

風さしてあられありくる・たまつのあれいは松るかなれ・まてる

よりこむしおけり・あられちりくるさ風・村鳥九ころせて

きてする霰・あられまさふくむ・よこさきうつれ吉

川・風ませまへむしおけり　風寒世八九月し　霞も合し　・あられまさ

君乃ひえけ・ねきとしぬる　玄八孫そてくくめしよけてあられ　のことへとおもかねさかり

にしやに・むささのくすまさしくて・近のくちそらふたさなか

・山とふむそぬさ　山のひくかりつゝ　・松やのくずまがき
ぶしはさちかへくそ　・まさごのこやまとどろ川か
・かりやの杉まふる　かやまがあられの音　・あられとをこたへ
さし・おちハかくまじる・玉も月のさえかへるあふき
しきのとよ竹に山まつあられ一ゆめふくつゝ人・ゆめすぐ
ざくる・こ萩ののくずまふる・玉あられ
石ハ・あられまふ　雨のさへあてす　さゞ波
金葉とあり　・のらぬ草の原・かすとの末の原・あられ松かゝ
住吉とあり　・あられ・ふし(?)は川がけあられふるとき
玉川の里とあり　あられの玉川の　よかあられハ川くの名ふ降ても玉も散る

霙

新古　同　風まぜ雨ふるさむき夜のふるさかよ　あめまじりみぞれ
萬葉　同　夕されハ雪ふる空の末の庭さへ川くれて

雪

丸にはれいふしてん朝まかりも・ふりもさおるね・さ川
くずしとよりりて今ふとひさ杵なもと流へさつや
・雪ハ積んども流かつ初めぬれハ寒氣のおりしたきんと所
又ハ若木も末もつ川のれ石ゆく人ハあしもとふんれとし
拾遺　待雪　同　ちくれつると山乃松の色よりもあつめまけのつてそつれ
後拾　さゝふる小松れりふの山の谷乃前川の月落白雪
後拾　同　さ雪乃夜乃あし比風小路そらて内さ路へつりく白雪
金葉　同　降雪ふ松の青葉もこ川のれて　さ　もし　ゆきの色
千載　同　ゆきもよし志賀のも雪ふ雲て　山路よもすがら
新古　雪のふハ・夜もせとうりて今朝なふ見ひさ　すみぞめ

捨ぐのかぐさ・ふりもつりぬ・雲のとまはうふゞのの代稲
宝い追ぐれ一ゝねまぬり捨しひる・今ゝ錦かつしき・立こ
ざよりやむる・冬がれのくさ木まうる稲雲
関雪乃んハ土御綿雪ゝりすしくり其か冬され木の葉紫まけ
八まぶら川しぞてぬんとらひ・女の肩ゝい雪ぶいつめかぞる
まぶまうさい川ぞふとぶぬ左もかとよりい路さしぬへしせき
閨・所の子ちたびぬくりふる雪ともらむなり
雪の人ハ・路ぞらして人ものよいぬ・めなれ木てもうりけり
松の雪ふれ・所の雪ふれ・新ゝわくゝ川りける　越後の雪
在のゝ添もう川りそ・行人も路てしんあれ・八字ゝふ　よるよふ
春かゝ・立ぬづさ人ぼいく川のれる　あねるうえんハきえぬ・利うく
雪　越のくふなりやそいハ雲ふうくつれる　越前のくるまかりて雪とつくる道　其外・新ぞハ路さ
はふうそれいうまかりんゝん世ひせり・そや道乃里六原

きぬけれぬおにけし
峰雪ハ・峰雪よまかし
山雪ハ・岩根の松ぞ埋りる・松枝の枝もわゝみ・山の雪ぐう
りゝ・ふりけくて雲ゝ川られる・山の上りけふれふり川り
る・山かゝる雲りのか雲ゝ川りそし・あさけのいきぶり降
雪・やまゝ山ぶを・ふり川りる・雪もいぶゝ・郁白氣・峰の
よそゝ雲の雪・有ふらず多嶺の雪・郁ゝ明て・ひ
久かたの月乃白雪・あさらく峰ゝりをつりる・夕暮ゆ
しの嶺の雪・麻川ぎふりつひ雪・まぼふも野ふも降つりり
野雪ハ・枯野とて埋ひ白雪・野世野ふかけりいさる・野さ
捨くる其への雪・野中の松もう川りて・野への雪さゝせか
川りゝし　野やかいぶーりしけりん
里雪ハ・ゝ人乃跡きえてゝ川さ・路さ地ゝ里路の雪・ゝ

行とゞく雪 雲の戸・雪より明る雲の戸・雪分て越る雲路
ゝ雪にこそ雲の中・雪の曙
路雪 行路雪ハ・行人のさきのうちにたる雪・袖おもく笠にかゝ
・降雪に山こもれる駒・降雪にふみこまれる人（老馬の雪路をよくしる事あり）
・行人の跡をわすれ流れくる・せんなき雪にふみとゞむ・行人へ
の跡ゆけり道をわけて
海邊雪 海邊ハ・雪にあかり行浪・雪枝わたふふ志伸の世・うらこの
おりてもうきくもりる・雪汁ける磯の松原・志ほが路のたふかわり
もうけれ・うら波よせ来ふ海の雪・八十路をふり明けり・
降雪にかくまふもの彦・なる雪ふかうらをも思ふの舟・雪
をよぶそむらきる雪ふ山・脇もしほ付て消る波きを・いるふ付ける
白雪・浜ん人をしむひらにも時りる・浦よいとむくつりの・信
ふうりこゆる浜路の鶴音・ころくし渡の中よさそふ浜居る

・雪の吹くすとうち松
若竹雪ハ・氷結て竹さわの夜まつりる・まうきの竹は折りける・竹
の雪を払いふか（人起こらふ）一夜の流れる・かくしく余
もくれてふり明りる・積雪のとも竹の折ふしふきむ・庭の雪
よ流もとふ人待・竹の竹よ雲かる・竹の松の中き
なれ・すぐ雪あい折る白雪
・長竹・ひさなき竹なきふる雪・くさい・しらうる（雪ふおもくしをつれ）
・そさしれてうち（雪のきよふるれてとも まさしく此日し）・うちふる雪・雪乃窓
・雪の夕ぐれ（刺の洞く竹をりたれ）・庭への白雪・雪も夜（雪の夜文字）
りたれを・京への白雪を・雪の白妙・雪の日ゆ入・ゆき
げの雲・雪くれの窓（雪にて完し）浜・うしろの雪（白雪）
・雪よ冬ごもりる・ゆふぐれ暮しの言葉（雪ふかきとしも花年よろしき世）
容形ハうつくの跡を沢も波へし中にも言葉よくされるしるし

・こしの白ね　こしの白ねの雪ハ雑季　・ふじの根　六月十五日迄ハ

其のよミかしらくりふしの雪ハ冬季にも詠これハ冬この雪と

よみ[illegible]とよせ[illegible]・このこほり　・時ニハぬ雪

ましくかり　・初のふし　ひゝの山といふ　・ひらの山　[illegible]

く　・よしの山　雪[illegible]見てなし　・くらま山　藤の[illegible]と降り　・二天の[illegible]

くら山　柿の雪とよみ　・ときはの松山　雪の降こと[illegible]　・ひの白ね

さよの中山[illegible]　・あふさかの関　松の枝にふりゆきこと

[illegible]

あすか川の雲[illegible]　・むさし野　さいたま山の[illegible]

とくへそてなく　・くらま路　しかの[illegible]　・やま路　あくら山の雪

つりしあり　よしよし人

但よくて其外数多あるへし

雪待

雪のふらぬ空等のる[illegible]もみよふ[illegible]

古雲と[illegible]ひとつ[illegible]ふんと[illegible]とも[illegible]

してもかくさんも[illegible]

枕　降　雪[illegible]も[illegible]

[illegible]

新[illegible]の川せの[illegible]

・ふる雪まとひ[illegible]　・ふん雪ゐ白[illegible]の[illegible]

のみなき[illegible]・ふゞきの[illegible]・ふりしきり[illegible]

[illegible]とりて　・くろみて[illegible]・ふり[illegible]

乃落くさ[illegible]・立春の[illegible]

さふ[illegible]・[illegible]

・つもれのる[illegible]・[illegible]

・ふ[illegible]雪　・れ[illegible]・[illegible]

ぞの[illegible]　・[illegible]

かりて[illegible]・[illegible]

[illegible]・[illegible]

・[illegible]

ねおくらう・をしふみし跡・よしきぬ・かうべかひなしもしき夕
風（ふくうひとこぶかた／ぬぐ）・つれなやともむりく・ありあけのころ
のこぎりあれ（ひはあれ／りきへまかし）てころの・よしふかりけの露
おきつね・つかれの色も入日さしれちり小跡
・くさくれねどもくる（ぬきとて何かに／なかくみかしく）ひきかりひくそん
・ぞくより（ものや／ぬるらか）かりつけとてとあまとくそ道と一より二より・らふ
・一命うりしきもりせり人・すりくきしきしよき紀・うり
人もあととらせりてうる・寺物ねは物をくてうり衣 其外か
まかの詞くらけ久しからくらいくともとまとれは略す
名所は元又今も多し中をも・うそ跡り（くてめこりわしも浅）
・うい跡（あくへ ぬしかさて家夫の川ふさくみせ／浅人 日つぎのこうりとふのありけを松と浮に）・くふとう
山（むしりくは／猿人）あさけ・あかりしのとく（とよみり／とほくりのすり）・くら川ぐろ
のこうやくそのくへを・あさと跡（とやまもげもしくあらせ）
多くはことかりふり

鐙（あぶみ）

・しらぬ跡（くきて）は・あさき跡（くるみ）・
かとはからと色とえのさきうしん又引きかへし拾てきとんも流
後拾遺 福やのう まおくれにし人の跡は又とはし今我へさる 須佐有
同 かぎりあらは乳のいはしりけり冬の花柏やり今我へ乳も見る
引まさ孫さいしきしう・ふとかの下に樽とらく・ひとり をと
はなのさし姉らん・あささきを・あり川がまる・あさきごぶ
見て今其か人は見ても見せてもよし

稚児（ちご）

・まてよりてはよきものをくるもら
なつかしし
後拾遺 冬ぞひと来れともとのくさいのよいあわせても
思ひのくえかれもいふかわくすれ・まおしもつれ

やまとゐろ・あしよおまひく・うきあをましさりつひ・雪
おれふし・あられふらくるころハ

薪（タキヾ）

さる木ハ雪ふりぬれハゆかぐさき出んに雪よりかさそへそりつむ
ようしむろて冬季とりよかる記事んど薪といふ字ハ冬とし
寄合あるかぎハいとたれお[illegible]けの雪よりむすび薪をりつむ
寄しハる京所・志川のふぐりつむころ・雪おりつゝひやう
かる・志ぶおりく・やまの志ぶとおりくぶる・おりくもぶ
名所ハ・とのふ山 春おしハつま木集る洛・こしのとふ山 [illegible]
とよあり

網代（アジロ）

網代のこと 和哥 [illegible]
浜千鳥舟もみれハるとうふ波のどこへしてまき板へ・ふしうちおろし木
今[illegible]ふしせくの網しろ[illegible]ひとへおもふゆへ[illegible]
おろぶきつぶよふ波・むつまたおろろ乃粉と[illegible]・せくの網代

・[illegible]とおろくあじろ[illegible]・君尊もふるあじろのり・あじろ
乃寄もさ若さゆる・もも中山ひぐのよる世とかぶふ ひと[illegible]くれ
も之ろれハ・こなりのひろまながぶふ 日・ひぐの[illegible]る・ひと
のよる・せわけのひと をとそをての雪 其外 ひとよる・ひ
とで・ひとてハなとのふも首 氷魚ふよせていふし
名所ハ・うぢ川 あしみ[illegible]宇治川[illegible]波網代あろ
[illegible]ありあり其外うぢのあろ木せのあろ
あ[illegible]れ[illegible]てる・あふとのさと [illegible]
[illegible]とよあり ・よしの川
[illegible]の[illegible] ・しあわせ川 [illegible]

炭竈

・字気つよき年ハ[illegible]まきてつまりて
新後拾遺[illegible]も年の[illegible]あしき[illegible]松の[illegible]
[illegible] との山や[illegible]つむつ[illegible]川[illegible]年[illegible]

・枯木こつもりむ ・木のもとにのこす ・ゆするさとひさ炭がま
・なつり吹しく山風 ・岩がねくもりうすり ・雪ようりの宮 炭ハ売翁の
・雲よりもちらぬかより ・さむしさとこそむもやき ・をち近よや くをと
よつき年とれむ ・雲よりもれのとこそがま
こころ
ミガ谷 ・ともやくや山のかよふり ・吉野もとこやさ衣 ・よ汎
のもとこがま ・松のもとこがま 吉野ハ ・小野山との炭がまよりの文
大原 このもとの谷 ・大原山 ・つくね 松のもとのま とより ・よこ山
とも
よこ山もとこと ・こつ池山 松のすのまたと ・ちきれなる山
よより ふるま人

埋火

・炉火とかる説も古ふかう川と火と埋し 埋火ハ桜ふかき鍬
やの安と氣と云れて春の伝はるよしといひ文在
懐の上るを多くよれり
[illegible] 棹させしてうさくようくる埋火抱く文のゆう 大よハ有なく

埋火ハ 鶯のなくねかうり桜埋火の温をあやとハ春のきにけり
風雅 いひ小せん灰の下なる埋火のうつりれてのこ温かつきよかり
うつとびの下にさけりて ・ーの温ねひうり ・花ふくさ桜やうら
きかとむも ・小松文でもひかちふかる ・う川と火の影の火の
ーわすかさる白き ・比叡をでも風 ・さしかちにかるー
影うとりふ
・ひとりひとくるー ・そのひのかれるー ・たかりとるへられ
なつさ ・ーのあくらの木冬にハやすとあもとう ・谷のかの夜の友
・山里の旅の夜（桜大やすて火ハ木のありのを 花のかやさうるかめる） ・ーのあくらり夜
ろうさ（わくさとハおって うなつし） ・冬さこてねー ・春とかり川気ー（あまく ろかう）
し ・ーの行ら室も宿さ ・埋火すすこみ泊衣 ・まとこさ
ー枝よう ・君家ての多すこかて ・埋火のいさきてかひかき
（いきとてうひかきハ温もよあり それと遠く像のんてきしてかし） ・柳やのー ・十すれのー
ーの中 ・ーのあくら

俳系

俳系のことは古今集に誹諧歌とてあり

・うくひすのかさにぬふといふ梅の花をりてかさゝむ老かくるやと又は誹諧うたとて
んもとあり

新古今〔風〕時々の歌の作者も誹諧歌を出して以来又俳諧の名もありて

〔宗〕祇〔同〕さらにこゝろよせて誹諧の連歌とて守武もありしかと誹諧ものこれん

新勅〔撰〕又誹諧歌を出すよし諸家の説さまさまにて俳諧ともいひならはしたり

〔宗〕鑑入の犬つくは集

（並ひ）千手も守武も単行・かくさひかゝられ

・りちの千句を其後宗鑑が犬つくはをあつめたるを・貞徳の

人（丸）よりふ　貞門のこゝろを・あくたよりの名もとゆふ・よ

ろしくせちとせともいふ・宗因といふ人もありける・うく

小（袖）ふき　名し　もろこしの作者・しるしのためとて重頼・維舟乃

すつはとく〔素〕れ・誹諧は・よくしたるは乃はなくもろこしく

きさらきの名のつくを文字のよみ抱し

俳名

・わさらくのはを、うくつのくさひ抱し・其外にも川きゆとしとも

うちふれとまへし・かたちもこちふくら・蕉翁も一生の数そふ・ふさむ

ひかしのうけ・ふしひの歌よみならひくゆかて・宗祇乃在

乃稀もあそひ　其中のかくれ・氷（行）の考とも・宗祇の書は

（新）・んむしむ我の室つくり・其外のくまかたたえし守武の式は

あられよりて略之

俳名のこと和哥式に出

此俳諧（宗匠）〔二〕よりは口伝の俳諧もくすらよも其の書をかに人

隠逸風流〔一〕よりも八その師の名を貰ふおのれつこともあらしと知るやふ

つくれは川とも法の師の名にあらん・法の師の後名に又と

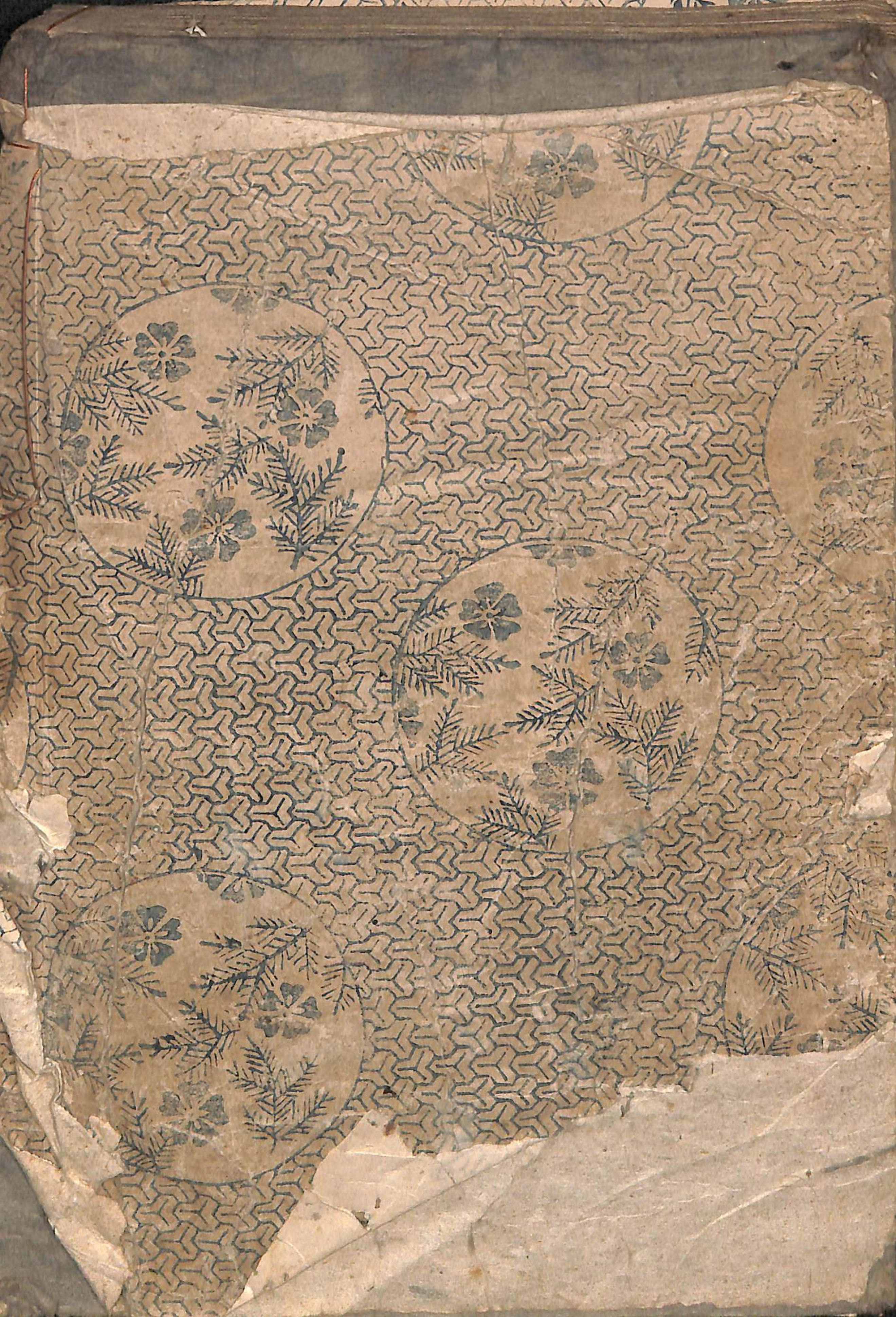
とつかんて　（二世の俳諧の名ときみと称う）

いつし　・と聖の川ては作の名か　と申すへし

・法の師ある人も其ともある・作のよりひ　俳名の事・其名も作のよりひとゝもある

きてもたちまれくいそがしく・かの川も雪も年わすれ
さそハれて掛とびくところ掛ち掛け川々て年わすれとなふ
んなとくし

除夜

極月晦日の夜也歳暮の部にハ極月九日よりわかれていふく
といふ大八除夜の字も出す除夜の部にハ晦日の夜の事文字あり
んなりてもかまわぬ・しといふても相叶し
暦 門松とれとふつきの得す書附を出さしわれん
日 暦より入春のゆへわたし帳ふ出しかふ社 し成れ
なのとられし年・あその書す川・今ゆ旅すること・年く
書付の一冊なり・やとどふかなるふ・門松とりそれをふつ
・好事どなしとあられ・とうところ とうこともとんしハ除夜する
さかゆわかりて我家のこ
ところ気の立やまで年の吉凶とさともかりといへり